高視聴率獲得! DREAMはホントに生き残ったのか?

enterbrain MOOK

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro Special

5.26 DREAM.9
徹底詳報

2009 JULY
880yen

J.Z.カルバン撃破!
次はいよいよ魔裟斗戦出陣!!
川尻達也

崖っぷちから涙の生還
所 英男

ウォーレンにまさかの敗戦
神の子に何が起こったのか?
山本"KID"徳郁

DREAM.9高視聴率獲得!
スーパーハルクから世間を考える

DREAM×戦極、格闘オタク対談
青木真也×ジョシュ・バーネット

浅草キッドの玉ちゃん参戦!
五味隆典変態座談会

『戦極』ゴレンジャーが
二人を直撃!!
北岡悟vs廣田瑞人

7.14
K-1MAX

魔裟斗戦お願いしやす!!

kamipro Special 2009 JULY 魔裟斗戦、お願いしやす!!
2009年6月20日
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本/大日本印刷株式会社

enterbrain

クレジット・キャッシング・カードローン…

いくつもの借金でお困りの方

借金問題の無料診断いたします

● 毎月の返済に無理を感じたら・・・
● お金のやりくりに行き詰ってしまったら・・・

あきば法務にお任せください。

返済がなかなか終わらない…

借金の返済でよく使われるのが「リボ払い」。毎月、一定額（利息分以上）での返済 をすれば良く、返済金額は 低く抑えることができます。その反面、返したお金の大半が 利息に充てられ、返済 は なかなか終わりません。また、限度額内であれば 何度でも借り増し ができるため、利用者の方は つい借金を重ねてしまうことが多いようです。こうして、いつまでも 借入を 続けることで、次第に 苦しい状況 に陥っていくのです。

利息の返済をやめる

借金の完済を難しくしている原因のひとつに「高すぎる金利」があります。年率 20～29.2%の金利はグレーゾーン金利と呼ばれ、これまで多くの業者がこの金利帯での貸付を行っていました。しかし、2006 年 1月の最高裁判決により、国が定めた上限金利（年15~20%）を超える利息は支払い義務のない事が明らかとなっており、同年 12 月の貸金業規制法の改正により、2009 年 12 月をメドにグレーゾーン金利の廃止が決定しています。そのため、最近では 18% 以内に年利を下げる金融業者が増えましたが、現在 18% 以内で借入れをしている人でも、それを 無利息にして 毎月の返済を減らせますので ご相談ください。

※実際の利率や残元本などは借入額や返済条件により異なります

金利の違いで返済額にここまでの差が!

返済条件 500,000円の借入／毎月 15,000円のリボ払い／返済期間 5 年間

上記の条件で「適正な金利の上限」18%と「グレーゾーン金利の上限」29.2%での返済額を比較すると

2年目の返済額の差：約120,000円
4年目の返済額の差：約260,000円

グレーゾーン金利での返済の場合、5年目以降も返済が終わっていませんが、これを適正な利息で見直すと、返済は約4年で完了しており、さらにそれ以降は**払い過ぎ**になっています。この様に、高利で返済を続けていると、返済期間が長引くばかりでなく、支払う必要のないお金まで返し続けていたことになるのです。

50万円
40万円
30万円
20万円
10万円
0円
-10万円
-20万円
-30万円
18%
29.2%
2年後 約12万円の差
4年後 約26万円もの差に!
適正な金利なら すでに完済している!
払い過ぎ
2年後
4年後

4つの方法で問題解決

毎月の返済負担を減らしたい **任意整理**	裁判所を通さず、借金の減額や利息をカットして無理のない返済条件で、債権者と和解する方法。
自宅を残して借金を整理したい **個人再生**	一定額の借金を免除してもらうことで負担を減らす方法。マイホーム等の財産は守られる。
借り過ぎてもう返せない **自己破産**	裁判所を通して借金の支払いを免除してもらう方法。不動産などの財産は処分される。
裁判所を通し貸主と交渉したい **特定調停**	裁判所を利用して債権者と話し合い、借金の減額などにより返済負担を抑える方法。

完済までサポート! ～任意整理を依頼した場合～

1 **無料相談→受任** 任意整理を受任すると、認定司法書士があなたの代理人となります。

2 **金融業者へ通知** すぐに業者へ受任通知を送付し、全ての催促を停止させます。

3 **取引内容の開示要求** 業者に対し、今までの返済内容について情報開示を求めます。

4 **借金総額の再計算** 適正な利息で返済額を再計算。過払いがあった場合は返還を請求します。

5 **業者との交渉→和解** 新たな返済計画を協議し、無理なく月々返済できる額を決定します。

6 **返済の実行** 返済計画の実行です。当事務所が完済までしっかりサポートします。

相談料は無料です。お気軽にご連絡下さい

あきば法務に債務整理（借金の整理）を依頼をしていただくと、

● 過去にさかのぼって適正な金利による借金の再計算を行い、正しい借金残額を導き出します。

結果、多くの場合、借金は減額されます。また、再計算により過払い金が生じた場合は、返還請求をすることでお金を取り戻せることさえあるのです。

また、当事務所では、

- 相談料はいただいておりません。
- 安心してご相談いただけるよう、個人情報の守秘義務を徹底しております。
- 手続き費用につきましても、分割払いを承っております。

毎月の返済に苦しまれている方、いつまでも終わらない返済に疑問を感じている方は、
あきば法務の「借金無料診断」にいらしてください。

守秘義務のある司法書士に何でも話せて **安心!**

無理なく返せるよう将来も **利息カット**

業者への連絡は司法書士が行い **取立てストップ**

当事務所を送金窓口として一本化できるので返済も **楽々!**

JR 秋葉原駅
昭和通り口
中央改札口
日比谷線 秋葉原駅 5番出口
岩本町ビル 3F (1Fマクドナルド/デイリーヤマザキ)
あきば法務司法書士事務所
岩本町駅 A3 出口
都営新宿線 岩本町駅

あきば法務司法書士事務所

フリーダイヤル 0120-083-602（アキバサイムゼロニ）
受付時間 平日 9:30～19:00（土曜日の相談はお問い合わせください）
〒101-0033 東京都千代田区神田岩本町 1 番地 岩本町ビル 3 階
都営新宿線「岩本町」駅A3 出口すぐ左
東京メトロ日比谷線「秋葉原」駅5番出口 1分
JR各線「秋葉原」駅 昭和通り口 3分
■債務整理以外のご相談 0120-027-874
メール sodan@akiba-houmu.com FAX 03-5295-7645
あきば法務 で 検索
認定司法書士 一柳 茂樹（いちやなぎ しげき）
東京司法書士会会員 登録番号4385号
簡裁訴訟代理等関係業務 認定会員 第401487号

CONTENTS

MMA

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
表紙写真/タイコウクニヨシ
2009 JULY

美人マネージャーに求婚!?
誰にも止められないカンセコ劇場!!
「オレと結婚してくれ!!」

©DREAM

kamipro Special

Presents

DREAM.9
Let`s Dancing!!

こんにちは、DREAM.9
徹底速報号のスタートです。
KID敗戦、所くん復活、川尻
完封、カンセコ爆笑、高視
聴率獲得、いろんなことがあ
りすぎたのでここでは何も触
れません。とりあえず読んで
踊って読んで踊って読んで
踊って読んで踊って読んで
踊って読んで踊って読んで
踊って読んで踊って読んで
踊って読んで踊って読んで
踊って読んで踊って!!!!!!!!!

前門のカルバン突破! 7.13K-1 MAXに殴り込み!!

川尻達也

——昨日は眠れなかったそうですね。

川尻　いやぁ、試合後はだいたい寝れないんですよ。感謝のメールを送信したり、祝勝会に行ったり、スポーツバーで自分の試合を観たり……ずっと起きてますね。

——それはお疲れのところ恐縮です（笑）。それにしても昨日はやりましたね。

川尻　いやあ、ファンのみんなの声援が後押ししてくれました（しみじみと）。

——ああ、凄かったですね。あの歓声！

川尻　まず入場のときの歓声が凄くて、あれにはボクもビックリしましたね。フードを取った瞬間に「ウワー！」って地鳴りみたいに沸いて、思わず周りを見渡すほどでしたから。

——それだけ期待されている証だと思うんですけど、いままでにあそこまで歓声を受けたことってありましたか？

川尻　初めてじゃないですかね？　というか、普段は集中しすぎちゃって歓声はあんまり聞こえないんですよ。でも、今回は凄く冷静だったんで、よく聞こえましたね。

——へえ～。大一番を前にしてその冷静さはいったいどこから？

川尻　……なんなんですかね？　何かをつかんじゃったっていうか。大晦日の武田幸三戦で極限の緊張と恐怖を経験して、闘いへの臨み方がわかったのかもしれないです。

——なるほど。フロントチョークで極められかけたときは、大「川尻！」コールも起こってましたよね。

川尻　ちゃんと聞こえてましたよ。心強かったですね。あのチョークスリーパーはモロに入ってたんですけど、タップだけはしねえぞって。（ＪＺ）カルバンの脚の締めが緩かったから腰をずらしてなんとか逃げられたんですけど、もし脚力がもっと強い選手であそこまで入ってたら抜けられなかったですね。ちょっとヤバかったです。

格闘技界が爆発するか、沈没するか

魔裟斗戦はDREAMの賭けなんです

川尻がキング・オブ・HERO'Sを撃破！ カルバン有利と言われた下馬評を見事に覆したクラッシャー。
いよいよ魔裟斗戦の気運も最高潮、もはや実現まで待ったなし！
DREAM、そして格闘技界の運命を背負って、"究極の他流試合"に踏みだす川尻の胸中を直撃！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

——あの局面以外は終始、川尻さんがゲームを支配してたじゃないですか。試合後には首をかしげてましたよね？

川尻　やっぱり判定勝利だとちょっと……。いくら相手がカルバンでも、ＫＯか一本取らないと気持ちよくないっていうか、素直には喜べないです。もちろんカルバンに勝ったのは嬉しいですよ。でも、それだけで喜んでちゃいけないっていう葛藤が自分の中にありますね。テレビで観てても判定よりＫＯで勝ったほうがおもしろいでしょうし。

——そこはプロ意識というか。

川尻　プロ意識というよりもファン意識ですかね。自分がいちファンとして観てもＫＯか一本のほうがスカッとしますし。

——でもいちファンとして観ても、判定にしろあのカルバンをあそこまで圧倒するのは凄いことだと思いますよ。

川尻　まぁ、……実際めっちゃ強いんですけどね（笑）。

——そうですか。強いですか（笑）。

川尻　闘ってよ～～くわかりましたけど。

——ボクは闘ったことがないのでわからないんですけど（笑）。

川尻　いや、ぶっちゃけ、試合前はビビりまくってましたよ！『ＨＥＲＯ'Ｓ』の試合映像で研究しようと思っても秒殺ばっかりですから。長い試合は青木（真也）くんくらいだし。

——またあの試合は青木さんの特殊なスタイルですし。

川尻　だから試合前日までなかなか勝つイメージが湧かなかったですね。

MAXの会場をDREAMファンの野太い声で埋めつくしてほしいです!

―実際、カルバンと闘ってみてどうでした?

川尻　強かったです(笑)。

―あのですね、じつは闘わなくても知ってますよ(笑)。

川尻　いままでのボクだと、お互いにいいところを出し合って最後に負けるっていうパターンが多かった。でも今回はとにかく相手の先を読んで潰して、いいところを出させないように意識してました。カルバンがボクの想像していた域を超えることはなかったんですけど、それはカルバンが弱かったわけじゃなくて、自分をうまくコントロールできたからだって思います。下馬評でも「カルバン有利」って声が多かったですし、ボクも相当厳しいなって思ってたので、結果には満足してますね。

―ボクの周りでも「カルバン有利」という声が多かったんですよ。

川尻　まあ、『kamipro』には期待してないです(笑)。

―冷たいですねぇ。でも、勝ってもらいたいのは川尻さんでしたよ! 谷川さんが「絶対に勝て!」って試合前の川尻さんに言ったんですよね。

川尻　正確にはボクが「おもしろい試合と勝つ試合のどっちがいいですか?」って谷川さんに聞いたら、「勝つ勝つ勝つ勝つ……!」って「勝つ」を10回くらい言ってました(笑)。

―ダハハハハ! そうやっていろんなプレッシャーを背負ってたわけですね。

川尻　プレッシャーはありましたよ。押し潰されるほどでないにしろ、ここでコケたらシャレにならないなって。やっぱりボクの勝利からいろんな意味で先が開けるっていうか、格闘技界全体もボクが勝つことを望んでたと思うし。

―いままでにそこまでの意味合いを持つ試合ってありました?

川尻　修斗のタイトルマッチ、宇野(薫)戦、エディ(・アルバレス)戦、五味(隆典)戦……これまでにも重要な試合はありましたけど、ここまで巨大なのはなかったですね。

―今回はあのカルバンに勝利したということと、興行を背負うという重責をはたしたという意味で、一つの殻を破った試合だと思うんですよ。

川尻　そうですね。確かに五味戦で負けてから、ずっと越えられなかった壁をやっと乗り越えられたかなっていう実感はあります。ファンにも「川尻はいい試合はするけど……」みたいなイメージがついてたと思いますし。だからこそKOにこだわりたい部分もあったんですけどね。まぁ、とりあえず一山越えていまはホッとしてるところです。

―で、休む間もなく次はいよいよ後門の魔娑斗戦ですね。

川尻　最大の壁を乗り越えたわけですからね、臨むところですよ!

―試合後には「K―1からお客さんが来てるみたいですけど、ちょっと二人で格闘技界を盛り上げませんか?」ってアピールしてましたけど……魔娑斗さん、事故渋滞で会場に来れなかったみたいで(笑)。

川尻　あぁ、あとで聞きました。来てると思ったからマイクアピールしたわけだし、なんか返してくれるかなと思って名前出したんですけど、ウンともスンとも反応がないっていう(苦笑)。

―ええ、来てないですから(笑)。

川尻　「いないんだったら言ってよ! 俺、ピエロじゃん!」みたいな。それなら、また別の言い方したのにな〜。

―魔娑斗戦が正式決定したらK―1に乗り込むかたちになりますよね。

川尻　もう、やれと言われればやるだけですよ。もちろん個人的にも興味があるし、マイクで言ったみたいに格闘界全体を盛り上げるためでもあるし。純粋に考えればMMAファイターがK―1ルールで試合するのもおかしな話だと思うんですよ。

―実際、そういうファンの声はありますよね。

川尻　いや、凄くわかりますよ。「なぜMMAの選手がK―1ルールで闘うのか」。ボクはそういうファンを100万人にするために闘うんです。昔のK―1やPRIDEみたいに視聴率も獲って、お客さんも入ってっていう時代だったら、こういう試合の機運も高まらない思うんですけど。

―その土台を作るための魔娑斗戦。

川尻　魔娑斗選手の引退試合だったら、総合に興味がない人、観なくなった人も観てくれると思うんですよ。そこでボクが頑張ればDREAMの人気につながることになるじゃないですか。いまみたいに格闘技界が苦しい時代だからこそ、この一戦で爆発するか、沈没するか、一種の賭けなんじゃないですかね。いまボク自身がこういう流れに乗ってるからには、そういう宿命にあるっていう自覚もありますし。

―修斗時代から考えて、こういう流れに自分が乗るって想像できましたか?

川尻　いや、全然想像してなかったです。何より、やっぱりボクにとってはあの空白の1年間が本当に大きかったんですよ。

[5.26 DREAM.9]
神奈川・横浜アリーナ
○川尻達也 vs JZカルバン×
(2R終了 判定3-0)

序盤、川尻はカルバンのフロントチョークで大ピンチ! これをなんとかしのいだ川尻は打撃戦でベースをつかむと、手堅いファイトを展開して判定勝利。試合後には「泥臭くても勝ちたいと思って必死でした。苦しいときもみんなの声が……最高だね、みんなの盛り上がり! DREAMサイコー!」と絶叫。そして魔娑斗戦を高らかにアピール!

達　也

川尻

――06年の『PRIDE男祭り』から07年の『やれんのか!』までの1年間ですね。川尻さんが試合の予定もないのにハードトレーニングを続けて、「……試合させてください。お願いしやす!!」と心の声をコボして倒れ込んだりして。

川尻　あの時期がなかったら、こんな大きなプレッシャーを背負うのはイヤだったろうし。前にも言いましたけど、PRIDEのときは桜庭（和志）さんやトップ外国人選手や五味くんとか、インパクトの強い選手がいたからこそ、ボクらは闘えたんですよね。いま、ボクがDREAMでそういう立場になって、このリングを守っていかなきゃいけないって強く思うのは、一度闘う場所を失なったからだというのは間違いないです。

――だからこそ盛り上げるためにはK―1のリングにも殴り込みもするぞ、と。

川尻　そうですね、それこそ闘う場所がなくなってバナナの叩き売りとかバイトするぐらいなら、K―1ルールでもなんでも闘いますよ!

――バナナの叩き売りをする川尻さんも見たいですけど（笑）。

川尻　ホント、PRIDEがあった頃は闘えるのはあたりまえで、この環境がずっと続くものだと思ってたっていうか、要は甘えてたんですよ。いまはそういう気持ちは全然なくて、いつDREAMがなくなってもおかしくないと思ってるくらいに必死だし。今回は視聴率も目標（15パーセント）を超えて、とりあえずなんとか次につながったかなってちょっと安心しましたね。

――その視聴率の起爆剤として今回はスーパーハルクがあったわけですけど。

川尻　まだあんまり観てないです、ポンポンポンってテンポよく終わっちゃったんで。おもしろかったですか?

――やっぱりわかりやすいので、世間一般層に対する入り口にはなれますよね。その入り口でいいのかどうかは議論が分かれるところですが（笑）。

川尻　それは否定できないですね、文句は言わせてもらいますけど（笑）。まぁ、それぞれ役割がありますからね。

――そういえば、昨日の試合を迎えるにあたって、チームメイトの石田（光洋）さんの敗戦（5・10修斗・vs廣田瑞人戦）で思うところはありましたか?

川尻　プレッシャーというか、気持ち的には落ちましたよ。自分自身がこのままじゃダメだって思ったし。それはあの日の五味くんの試合を観てても思いましたね。

――修斗現役王者である中蔵隆志選手にKO勝ちを収めて。

川尻　あれを観たら「負けてらんねぇな」って思いましたね。向こうがああやって結果を出すならボクもそれ以上のものを出すしかない。いま闘ってる舞台は違っても、やっぱりボクは凄く彼のことは意識してますよ。絶対に負けたくない。

――五味さんもいまはフリーなんで、もしかしたらまた川尻さんと対峙する可能性もあるかもしれないですね。

川尻　そうですね。もう、格闘技界を盛り上げるためならなんでもやりますよ! もうボクも31歳ですし。

――ちなみに前号で魔裟斗さんにインタビューしたところ「ボコボコにする」って言ってましたけど?

川尻　あぁ、絶対にそう言いますよね。そりゃ総合ルールだったらボクがボコボコにしないといけないでしょうし、K―1ルールだったら向こうがボクをボコボコにするのはあたりまえなんじゃないですかね。

――え～、やる前からそんな弱気なこと言っちゃうんですか?

川尻　いや、そう思ってファンにも観てもらったほうがおもしろいんじゃないかってことですよ。それが実際のリングではいったいどうなるのか……まぁ、楽しみにしてくださいよ!

――正式決定したら敵地に乗り込むことになるわけですから、DREAMのファンにもたくさん来てほしいところですね。

川尻　あー、そこは声を大にしてお願いしたいですね! アウェーになれば絶対にヒール扱いでしょうし。べつにヒールがイヤっていうわけじゃないんですけど、今回みたいな歓声の中で闘ったほうが気持ちいいし、やっぱり調子いいですよ。DREAMファンには、K―1の会場にも来てくださいってお願いしたいです!

――結婚したにしろ、魔裟斗さんには女性ファンが多いですからね。よく佐藤嘉洋選手の煽り映像で魔裟斗の女性ファンと言い合いしてるシーンがあるじゃないですか? 「魔裟斗が勝つ!!」「俺が勝つ!」みたいな感じで。川尻さんもああいうやりとりはいかがですか?

川尻　それ、なんか格好悪くないですか? そこで言い合ってどうするんだよっていう（笑）。でも魔裟斗選手は超ベビーフェイスですからね、きっと凄い黄色い声援なんだろうな～（うらやましそうに）。

――何を言ってるんですか。川尻さんには我々がついてますよ。DREAMの野太い男性ファンの声で対抗しますから（笑）。

川尻　もう、MAXの会場を野太い声で埋めつくしてほしいですね（笑）。ボクの今年の最終的な目標は大晦日にライト級のベルトを獲ることですけど、いまはとにかく魔裟斗戦。次も勝利をつかみ取って、今年はボクの年にしますよ!

【09年5月27日／都内・某ホテルにて収録】

かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。04年修斗ウェルター級王座に君臨。PRIDEを経て08年からはDREAMを主戦場とする。171㎝、69.9kg。このたびクラッシャーがオフィシャルサイトをオープン！ ブログはもちろん、クラッシャーオリジナルグッズも絶賛発売中！ お願いしやす！
クラッシャープロジェクト→http://crusherproject.com/

栄光、挫折、失恋、友情、努力、勝利！

1歳の青春

所英男 31

「あれだけ嬉しくて興奮したのは生まれて初めてです」

“逆境ファイター”所英男がついに復活！
昨年、KID戦実現を目指すも山本篤に敗れ頓挫。そこからフェザー級GP1回戦まで、泥沼の3連敗を喫し、どん底にあえいでいた所が、敗者復活で準々決勝のカラム戦に挑み、見事に一本勝ち！　一躍フェザー級GPの主役に躍り出た所を試合翌日に直撃した。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也、山口比佐夫、落合史生

フェザー級GP敗者復活！
エイブル・カラムに涙の快勝!!

——エイブル・カラム戦、見事な快勝おめでとうございます！

所　ありがとうございます。いやあ……嬉しかったですね。

——所さんは昔から「期待されるとコロッと負けて、期待してないと大仕事を成し遂げる」とか言われてきましたけど、そういう意味でも所英男らしいというか（笑）。

所　言われてみれば、ひさしぶりにそういう感じですよね。それでいいのかって話ですけど（笑）。

——でも実際、去年の「ロード・トゥ・KID」のときは、期待の大きさで固くなりすぎた部分はありませんでしたか？

所　やっぱり「勝たなきゃ」っていう思いが強すぎて、周りが見えなくなってましたね。でも、昨日はホントに失なうものがもうないし、やるだけやってやるって気持ちだったんで、おもいきっていけました。

——あと、1回戦は前田（日明）さんがセコンドについてくれたことで、よけい固くなってたようにも感じたんですけど（笑）。

所　昨日の控室でも固くなってました。

——試合前に固くなりましたか（笑）。まあ、同じ部屋で前田さんがゴンタ顔で腕組んでるわけですからね。

所　そうですね……前田さんがいてくださるおかげで気合いも入るんですけど、緊張もしてしまって……（笑）。でも、僕に対していろいろ気を使ってくださって、ありがたかったです。

——今回の試合を吹っ切れた気持ちで迎えられたのは、煽りVでも出てましたけど、やはりバナナマン日村（勇紀）さんの「誰も期待してないんだから」っていう言葉がきっかけになったんですか？

所　いや、じつは日村さんに言われたこと、緊張していて忘れてたんですよ。

——忘れちゃってた（笑）。

所　でも（入場前に）バックステージで、煽りVの声が聞こえて。それで「そっか、誰も期待してないよな」って思って、凄くスッキリしたのはありましたね。

——でも、吹っ切れる前までは、精神的にかなりキツかったんじゃないですか？

所　そうですね。もう格闘技は続けられないのかなっていうぐらいまでいってたんで。肉体的には限界を感じてないんですけど、心が折れたらもう試合はできないし、今度みっともない試合をしたら、おしまいだっていう覚悟で挑みましたね。

——結果が出せないとき、自分の思う試合ができないときは、周囲の期待と自分の現実が乖離していることに対して、自己嫌悪に陥ったりもしました？

所　正直、自分の力のなさにガッカリしましたね。でも、山本篤さんに負けて、なにくそ精神というか、そういうものがだんだん大きくなって、練習もできたんで、あの負けは凄くデカかったですね。

——所さんは、ああいう大きな敗北を喫したあとも、大晦日、フェザー級GP一回戦と、立て続けに試合が組まれたじゃないですか。そのときの精神状態は、どうでした？

所　みっともない試合をした人間がまた出てくるなんて、ホント恥ずかしいんですけど。まあ、恥をかいて、もうこれ以上かけないところまできて、吹っ切れたんだと思います。『Dynamite!!』まで出て、厚かましいですけど、だからといって「どうぞどうぞ」ってやってたら、僕も生き残っていけないんで。生き残るためには、情けない思い、恥ずかしい思いをしながらも、厚かましくリングに上がり続けるしかないって感じでしたね。

所英男 31歳の青春

——そのどん底の中で、プライベートでは、彼女との別れもあったらしいですね？

所　はい。（試合に向けての）合宿中に告げられました（苦笑）。

——何かきっかけはあったんですか？

所　わかんないんですよね。凄く仲よしで、このまま1～2年したら結婚しようかなって、自分では勝手に思ってたんですけど、愛想をつかされたのか……世の中そんなに甘くはなかったです。

——べつに所さんの浮気が原因とか、それで頭を丸めたわけじゃない、と（笑）。

所　それはないです（笑）。じつはそうだったらちょっと……たいした男ですよね。

——では、今回はそんな失恋の痛手も乗り越えての復活劇だったわけですね。

所　……（笑）。

——まだ乗り越えられてませんか（笑）。

所　そっち方面はこれから徐々に（笑）。

——でも、そうやっていろんなどん底を味わったからこそ、勝利の喜びは格別だったんじゃないですか？

所　ホントに嬉しかったです。僕だけじゃなくて、試合後に父親が凄い勢いで駆け寄ってきたんで、ビックリしましたね。生まれて初めてです、厳格な父があんな興奮してるところを見るのは。

——親だから、息子がどんな思いでこの試合に挑んだのか、わかる部分もあったんじゃないですかね。

所　そうですね。一応、そういうことは伝えてたんで。

——進退を懸ける、ということを言ってあったんですか？

所　はい。勝とうが負けようが、心が折れたらもうダメだなって。

——所クリーニングを継がせてください、みたいな（笑）。

所　いや、それも兄が継いでるんで。どうしようかな、とりあえずプラプラするしかないかな、ぐらいな思いだったんで。

——まさにフリーターに逆戻り。

所　もうホントにあとがなかったんで、勝ててよかったです。あれだけ興奮したのは生まれて初めてですね。

——その興奮のためだと思いますけど、勝ったあと、セコンド一人一人に抱きついてたじゃないですか。

所　はい。

——それで順番的に前田さんが所さんを抱きしめようとしたとき、所さんは前田さんを抜かして勝村（周一郎）さんのほうに行っちゃってたんですよ（笑）。

所　えっ……ホントですか？

——ビデオで確認してみてくださいよ。前田さんがエプロンに立って迎え入れようとしてるのに、所さんはその前を素通りしてますから（笑）。

所　そうだったんですか……気づきませんでした……。前田さんとは握手させてもらったんですけど、興奮してたんで、相当失礼はあったと思うんですけど……。

——まあ、試合の前後はしょうがないですよね。試合前には前田さんと練習もされてたんですよね？

所　はい、そうですね。

——ボクは前田さんの〝ゴッチ式トレーニング〟で、所さんが試合前にボロボロにならないか心配してたんですけど（笑）。

所　自分も一応30歳すぎてるんで……そうですね。かなりキツかったです。それでも動けたのは、合宿の成果があったのかなと思いますし。

——前田さんからどんなアドバイスがありました？

所　「試合前にヨガの呼吸を必ずやれ」って。

——ヨ、ヨガの呼吸⁉

所　「ヒカルド・アローナもリングスのときやってたから、おまえ、オープニング終わって、控室戻ったら絶対にやれよ」って言われたんでやったり。

——ヨガの呼吸法をやってましたか……。

所　あとはいつもの感じのアドバイスでしたけど、ありがたいです。

——あと金原さんのところにも行ってたんですよね？

所　はい。週に一回、前田さんのところに行ったあと、（ボクシングトレーナーの）野木さんにミットを持ってもらって、金原さんにいろいろ教えてもらうっていう豪華な練習で。金原さんとの練習は、普段気づかないところを指摘してもらったのでありがたいです。

——金原さんからはどんな話がありました？

所　食事の摂り方から、細かいテクニック、休息の取り方まで、いろんなことを教えてもらいましたね。エイブル・カラムについても研究してくれて「俺だったらこうする」とか。「プロなんだから、猪木－アリ状態になったら桜庭さんみたいに、跳ぶとか、カカト落としやれ」とか、いろいろ授けてくれて。「これが桜庭さんも言われたヤツなんだな」と思って感動して（笑）。

［5.26 DREAM.9 フェザー級GP2回戦］
神奈川・横浜アリーナ

○所英男 vs エイブル・カラム×
（2R 1分38秒 チョークスリーパー）

DJ.taikiの負傷欠場で敗者復活として勝ち上がった所が、ウィッキー聡生を下したカラムと対戦。所は序盤から打撃で主導権を握り、1ラウンドには三角絞めを極めかけるなど優位に試合を進める。そして2ラウンドにチョークで勝利。連敗脱出し決勝大会進出を決めた。

煽りVの"元ネタ"である、親友・バナナマン日村との対談は昨年7月に本誌で実現。プライベートの友だちで、格闘家・所英男のファンではないという日村は、なんと今回のカラム戦が初観戦だったのだ。

KIDさんが負けて、今成さんも負けて、悔しい気持ちがありますね

――桜庭vsビクトー・ベウフォート戦のときみたいな気持ちになりましたか（笑）。

所　だから実際、試合でも跳ぼうと思ったんですけど、ちょっとタイミングが合わなかったですね。

――あのスライディングニーは、金原さんの指示だったんですか。

所　ちょっと届かなかったんですけど（笑）。今回はあとで「ああしとけばよかった」って後悔するのだけは嫌だったんで、自分ができることは全部出してやろう。これでダメだったら相手のほうが強かったんだっていう気持ちで、吹っ切れましたね。

――昨日の試合を見て、所さんがこれまで取り組んできた打撃を中心とした練習がようやくかたちになってきたな、と思ったんですけど、ご自身ではどうでした？

所　そうですね、パンチをちょっとずつ打てるようになって、昨日は蹴りも打てるようになってたんで、どんどん闘いの幅が広がって、よくなってる感覚は自分でも凄くありますね。

――ずっと取り組んでた、遠い間合いからのローキックや、左ストレート、それから右の被せるフックなんかは、みんなうまくいってましたね。

所　そうですね。

――それに加えて、相手のタックルをアームロックで切り返すような、〝小さなヴォルク・ハン〟らしい動きもあって。

所　まあ、エイブル・カラムっていう向かってきてくれる相手だからこそできた試合だと思うんですけど、やっぱり頑張って練習すればできるようになるんだって自信にもなったんで。昨日までは自分の技術に対して半信半疑だったんですけど、次からはおもいきってできると思います。

――オフェンスだけじゃなく、相手が向かってくるところを横に回るディフェンスの動きも良かったですよね。

所　あれも積み上げてきた動きで、金原さんにも「前に突っ込んでくる選手は回ってパンチを打ったほうがいい」とか、「もうベテランなんだから、いなせるでしょ？」って言われたんで。

――ベテランなんだから（笑）。

所　自分はそうやって指導してくださる人とか、練習仲間に恵まれてるなってあらためて思いますね。自分にとっては、ZSTの金原（正徳）さんの存在も大きくて、あの人がいなかったら、僕は「勝てなくてもいいや」って思ってたかもしれないです。でも、あの男が『戦極』のトーナメントで勝ち残ってるんで、僕も負けるわけにはいかないなって。

――同じZSTの仲間の活躍も刺激になっている、と。

所　はい。切磋琢磨できてるんで、いま凄くいい関係ですね。勝村さんもちょっと離れ気味だったたですけど、最近戻ってきてくれた感がありますし、昨日は凄くいい日でした。DJ（・taiki）さんには申し訳ないんですけど。

――そのDJ・taiki選手とも一緒に練習してたんですよね？

所　はい、そうですね。あとは中村（大介）さんとも練習させてもらって。中村さんは昨日も朝まで祝勝会に付き合ってくれて、自分のことのように喜んでくれて、なんて器のデカい男なんだって思いました。

――ホント、垣根を越えて仲間に恵まれてるんですね。

所　そうですね。この環境で負けたら、もう自分の実力がないってことだと思いますから。

――すぐに気持ちを切り替えて、決勝に向けての練習ですか？

所　さすがに2週間ぐらいは軽い練習にしようと思ってるんですよ。ずっと試合前のペースで練習やってきたんで。ちょっと休んでまた集中して。メリハリも大事だと思うんで。

――次は大事な決勝ですから、万全で迎えないといけませんからね。

所　だけど、もう自分の全力を出すだけなんで、楽しみぐらいな感じに思ってます。

――今回、所さんが勝ったことで、ついにKIDvs所が実現するかと思ったんですが。KIDさんがまさかの敗戦を喫してしまいましたが、KID戦がなくなったことについてはどうですか？

所　べつに次の対戦相手がKIDさんだったかどうかもわからないですから、なんとも言えないですけど。今成さんが負けて、KIDさんも負けて、悔しい気持ちがありますね。

――「俺がウォーレンを倒す」ぐらいの気持ちですか？

所　ウォーレンもビビアーノも両方とやりたいですね。

――高谷さんは？

所　…………（無言で首を横に振る）。

――やっぱり怖い？（笑）。

所　僕はメンタル面に難があるんで……（笑）。もし高谷さんで話がきたら、ギリギリまで断ってみせます！（キッパリ）。

――ダハハハ！　では決勝戦、頑張ってください！

【09年5月27日／都内・某ホテルにて収録】

試合後の所は、チームZSTの仲間たち、そして"親友"バナナマン日村らと喜びを分かち合い、笑顔、笑顔、笑顔。泣いて、笑って、ケンカして、あぁこれが青春。

ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県出身。ZST旗揚げ時から中心選手として活躍後、05年に『HERO'S』でブレイク。〝闘うフリーター〟の異名で、数多くの名勝負を展開し、〝地上波のスター〟となる。170センチ、63キロ。

山本〝KID〟徳郁

〝神の子〟故の敗戦

文／橋本宗洋　撮影／乾晋也、山口比佐夫、落合史生　構成／堀江ガンツ

進化の途中

山本“KID”徳郁 進化の途中

簡単には信じられない光景だった。

フルラウンド闘い抜き、ジャッジ3名の判定が、リングアナによって読み上げられる。一人目はウォーレン。二人目がKID。そして3人目は……ウォーレン！

山本〝KID〟徳郁、2—1で判定負け。

2001年に修斗のリングでデビュー以来、額をカットしてのドクターストップ以外では、無敗を続けてきたKIDが、ついにMMA初敗北を喫してしまった。

もちろん、楽な闘いではないことはわかっていた。KIDにとってこの試合は、右ヒザ前十字靭帯部分断裂の大ケガから、手術を経て、512日ぶりの復帰戦である。対戦相手のジョー・ウォーレンはMMAキャリアこそ浅いものの、レスリングの世界選手権を制し、フェザー級GP開幕戦では元WECバンタム級王者のチェイス・ビービを下すというビッグ・アップセットを成し遂げてもいる。ただ、それでもKIDなら、ほかならぬ〝神の子〟なら、そんな難敵さえも倒してしまうのではないかという期待があったのだが……。

リングでは、これまでKIDの試合では見たことがないような光景ばかりが繰り広げられた。このところムエタイに傾倒しているKIDは、ゴングが鳴るとガードを高く掲げ、前足でリズムを取るムエタイ式の構えを見せた。そこからのミドルキック、ローキックはよく決まるのだが、ウォーレンは臆せず組みつき、テイクダウンを狙っていく。

レスリングではKIDも日本トップクラスだったが、相手は世界のトップだった男である。ウォーレンは何度もグラウンドで上になることに成功、KIDを押さえ込み、完璧ではなかったがパウンドを当てていった。KIDはガードポジションをとり、ウォーレンの手首を抑え、足を効かせてディフェンス。さらに腕十字固めを仕掛ける場面もあったのだが、これは不発に終わった。

試合が進むうち、ウォーレンの顔には疲労が見え始めた。ローキックで体勢を崩す場面も目立つ。だが、ウォーレンはスタミナを失い、ダメージを蓄積されても闘志をなくすことだけはなかった。一発ごとに声をあげながらヒザを突き上げ、パンチを返し、下半身にしがみつくようにしてタックル。KIDを応援する側にとってはじれったい展開が続く。

すると、KIDの表情にも疲れが見え始めた。パウンドによってかヒザ蹴りによってか、目の下から出血も。スタンドでは相当数のパンチ、蹴りがヒットしていたのだが、どれもKOするまでには至らない。

「(相手の)組みが予想以上に強くて、腕がパンパンになって後半はパンチが出なかった。相手の土俵に付き合っちゃって」

試合後のKIDは、そう語っている。

打撃で圧倒し、グラウンドでも常に上になってパウンドを連打。常に豪快な勝利を重ねてきたKIDの姿を期待したファンにとって、この試合は信じられないものだったろう。ウォーレンと闘ったKIDは打撃で応戦されて出血し、テイクダウンを奪われ、パウンドを浴びて判定負けを喫したのだ。

512日ぶりの復帰戦、初めての1ラウンド10分ルール。試合勘や慣れを考えれば、慎重すぎるくらい慎重になってもおかしくはない。ブランクとケガを考えれば〝以前のまま〟の強さを100パーセント取り戻すだけでも至難の業のはずだ。だが、そういう試合でKIDはムエタイ

［5.26 DREAM.9 フェザー級GP2回戦］
神奈川・横浜アリーナ

○ジョー・ウォーレン vs 山本“KID”徳郁×
（2R終了 判定3-0）

KIDの512日ぶりの復帰戦は、元WEC王者チェイス・ビービを破ったジョー・ウォーレンが相手。タイ人のトレーナーとともに入場したKIDは、サウスポーの構えから左ローキック、左ミドルキックを叩き込むムエタイスタイルに変貌。それに対し、ウォーレンは距離を詰めてテイクダウンを狙っていく。タックルにくるウォーレンをKIDはカウンターで何度かフックをヒットさせるが、打たれ強いウォーレンは倒れない。逆にグラウンドで下になったKIDはスタミナを消耗していく。ムエタイとともに柔術のトレーニングにも力を入れているKIDは、下からの十字も狙うが、これも極らず。結局、フルラウンド闘い、KIDはまさかの判定負けを喫してしまった。

という新スタイルに挑んだ。〝たられば〟でしかないが、もしKIDが以前と同じ前傾姿勢で圧力をかけるスタイルで闘っていたら、ウォーレンは容易に組みつくことができなかったのではないか。

また、KIDの打撃の強さは、高いレスリング能力に裏打ちされていた。組まれても倒されないという自信があるから、おもいきって打撃を放つことができたのだ。だがウォーレンのレスリング能力は（実績から単純に考えると）KID以上。組まれ、倒されを繰り返していれば、本人も振り返ったように腕の力を失うし、ペースを乱すことにもなる。

さらに、グラウンドで下になったKIDは「最近、練習していた」というガードポジションからの腕十字を狙っている。これも〝たられば〟なのだが、もしKIDがグラウンドの攻防を捨て、下から蹴り上げてスタンドに戻ることを優先していたら、不要な疲労も避けられたのではないか。下になること自体が少ないKIDだけに、咄嗟の選択を誤ってもおかしくはないのだが……。

KIDはいつもどおりに闘うことができなかった。ウォーレンはKIDにいつもどおりの闘いをさせないことに長けていた。KIDが敗れたのは偶然ではない。いくつもの要因が重なって、KIDは敗戦へと導かれてしまったのだ。

ただ、こういう負け方はKIDだからこそ、とも言える。1年半ぶりの復帰戦で〝以前の自分を取り戻すこと〟ではなく、スタンドでのムエタイスタイルとグラウンドでの柔術スタイルという〝進化した自分になること〟を選ぶ選手など、ほかに何人いるというのか。KIDは向上心ゆえにピンチを招いたのだと考えることもできるはずだ。

レスリングに自信のある選手がテイクダウンを許し、慣れない下からの攻防で判断をミスする、という展開も興味深い。普通、こういった経験は新人時代にするはずのものだからだ。功名を遂げ、格闘家として頂点をきわめた選手に〝新人のような窮地〟が待っていた。これも、KIDならではだろう。KIDの強さはあまりにも破格だった。それゆえ、ここまでに誰もが味わって当然のピンチすら経験したことがなかったのだ。

今回の敗戦は、KIDが特別な選手だったからこそ招いたものだった。であれば――この試合で得た貴重な課題をクリアしたとき、KIDはさらに怪物性を増して戻ってくるのではないか。これだけ実績を残し、それでもなおKIDは〝伸びしろ〟を残していたのだ。

「負けは負けだと思ってます」と落ち着いた表情で語ったKIDは、きっとこうも思っていたはずだ。これでもっと強くなれる、と。

KIDを破ったレスリング世界王者、この男何者だ!?

チーム・クエスト所属整骨師 ケン・ヤマモト先生が明かす

ジョー・ウォーレンの素顔

長南亮、ダン・ヘンダーソン、ジェイソン“メイヘム”ミラーなどの選手をケアしている凄腕整骨師ケン・ヤマモト先生。DREAMや『戦極』のみならず、UFCにも遠征して選手のケアを精力的に行ない、『kamiproドットコム』などにレポートを送ってくれている。今回はDREAMフェザー級GP2回戦で、山本“KID”徳郁を破り、一躍時の人となったチーム・クエスト所属ジョー・ウォーレンの知られざる一面についてレポートを書いていただいた。

文／ケン・ヤマモト　撮影／乾晋也　構成／堀江ガンツ

ジョー・ウォーレンってどんなやつ？

私がジョーと知り合ったのは去年の5月だった。長南選手やジェイソン（〝メイヘム〟ミラー）、チーム・クエストのケアで渡米した際に出会った。まだなんというか〝プロ練〟に参加してはいるけど一練習生というか、そんな感じだった。

ただ、組むと異様に強くて、ソクジュもバダ・ハリをKOしたピーター・グラハム（いずれも通常体重で100キロを優に超える選手）も、いとも簡単にヒョイッと持ち上げ、ズドンとマットに叩き付けていた。凄い才能だと思った。

長南選手に「あいつは何者なんですか？」と聞くと、

「ああ、あいつには誰も組技では敵わないんですよ。何年もレスリングの試合で負けてないんです。ただオリンピックには興味がないらしくって総合に転向したみたいですよ」。

去年といえばオリンピックイヤー。ジョーがその気になればグレコで金メダルも手に入れることができたのではないだろうか。それでも、アマチュアスポーツでなく一刻も早くプロスポーツに行きたかったのだ。

その当時、チーム・クエストにはキング・モーや、ほかにも北京オリンピック強化選手のニックという選手がいたりして、超がつく一流選手がたくさんいた。

その転向する理由は何があったのだろうか？

年齢（現在32歳）を気にしたのか、それとも家族のためにビックマネーをつかむためにアマチュアからプロに転向したのか。それは聞いていないが、少なくとも同じ階級のKID選手に対する意識はあったのではないかと思う。

「ケンはKIDヤマモトを知っているか？　どれくらい日本で有名なんだ？　スッゲーよな、KIDヤマモトは」

とジョーがKID選手のことを話したのを覚えている。

同階級で光り輝くKID選手ように俺もなりたい！　スポットライトを浴びてみたいと強く思ったに違いない。

それが現実になった。

引き寄せの法則ではないが、現実に、しかもいとも簡単にやってのけてしまう人はいるが、ジョーはそれをするのがうまいんじゃないだろうか。そうでなければ何年もレスリング界のトップに君臨し続けるなんて不可能だと思う。

話をジョーの日常に戻す。

彼はちょっと問題があるときがある。突然キレだすことがあるのだ。練習中、指導していたヒース（たしか元シドニーオリンピック銀メダリスト）に腹を立て、ものにやつあたりをしてグローブを床に投げつけ周りの選手に当たり散らし、大声をはりあげる。

こうなったら誰も手がつけられない。ヒースたちは両手を広げて「やれやれ、またか……」みたいな顔をして別の選手と苦笑い。

私はその場にいたのだが、いったいどこにキレるスイッチとなった言葉なり、ヒースの行動なりがあったのかわからなかった。

すると誰かが教えてくれた。

「ジョーはレスリングの試合でもキレて相手をぶん殴っちゃったことがあるんだ」

まったくどこが地雷かわからない人って困るよね。

私は、ダン・ヘンダーソンに手を引っ張られて選手の人数が足りないときに、一緒に練習に加えてもらったりもするけど、こんなときのジョーとなんて練習できない。おそろしくて。でも、普段はとてもいいヤツ。

去年のUFCアトランタ大会（UFC88）で長南選手とダンが試合だった。そのときジョーも来ていて、ダンにいつも引っ付いていた。ダンの減量のときも自転車こぎのときも、ずっと近くにいて応援していた。

ジョーの身体は柔らかいだけでなく適度な弾力があり素晴らしい筋肉だ

KIDを執拗にテイクダウンし、鬼の形相で押さえ込むウォーレン。MMA戦績は2戦ながら、元WEC王者チェイス・ビービと、KIDを倒すという大物食いを連発。このままフェザー級GPを制するのか？

「頑張れ！　もう少しで目標体重だ。ダン頑張れ！」

とても人懐っこい性格。私にダンの自慢をする。

「ケン、ダンのタトゥー見てみろよ。ダンは二回もオリンピックに出てるんだぜ！　だからオリンピックマークのタトゥーがあるんだ」

減量中の苦しい身でありながらも、この発言にダンは温かい眼差しでジョーをみて笑っていた。ダンのお気に入りでもある様子だ。声も身振り手振りも大きくて愛嬌がある。

今回、『DREAM・9』で日本に来た日に「俺の奥さんと子どもの写真を見てくれよ」とパソコンで綺麗な奥さんとかわいい赤ちゃんの写真を見せてくれた。この奥さんや子のためにプロの転向したのかなと思った。

そして、今回の山本KID選手との闘いは「明確に勝つプランがある」と言っていた。「何度も映像を見てきた。俺は勝つぞ！」と言っていた。

そんな話を聞きながら身体のケアをする。ジョーのカラダは素晴らしい筋肉に覆われており、柔らかいだけでなく適度な弾力がある。「力入れてみて！」と言うと、鋼のように硬くなり、力を抜かすとすぐに柔らかくなる。言うことない筋肉だ。だからジョーのケアは楽だ。問題がある場所をチョコチョコっと直すだけですぐに絶好調に戻るんだ。

当日、山本KID選手と闘うために控室を出るまで一緒にいた。時間が近づくにつれて気合が入ってきて目つきが鋭くなる。気合を入れる声が大きくなってくる。

山本KID選手はジョー対策にはおそらく立ち技で作戦を練ってくるはずだ。ジョーが言っていた「明確に勝つプラン」というのが見えてきた。山本KID選手がいくら強くてもレスリング世界王者に組技で勝負しないだろう。とにかくトレーナーの早いパンチに素早く反応し避けながらパンチを繰り出したり、テイクダウンしたりしていた。

「いける！　このスピードとパワー！　パーフェクトだ」と思った。

控室を出るときにジョーと固くハグをし、私が言った。

「勝ってこいよ！」

黙ってうなずくとジョーと私は拳を合わせた。

前回の対戦相手であるチェイス・ビービ選手、そして尊敬の対象でもあった山本KID選手。二人も優勝候補を下してしまったジョー・ウォーレンは、一番チャンピオンに近いところにいるのではないだろうか。

彼のMMAの競技生活はまだ始まったばかり。連勝記録をレスリング時代のように伸ばしていってくれ。

ケン・ヤマモト■東京都出身。15年以上腰痛の研究をしており、去年はアメリカのドクターの前で腰痛治療の講義をしたのをはじめ、ネパールのカトマンズでも、中国成都でも治療家対象セミナーを開く。昨年1年間で延べ17カ国に往診に出掛けており、世界中にクライアントからの信頼も厚い。日本でも多くの治療家対称に講義を開いており後輩の育成にも力を注ぐ。また、プロスポーツ選手のコンディショニングトレーナー業務にも力を入れており、その選手が持っている最高のパフォーマンスが出せるように現場でケアを行なっている。チーム・クエスト所属。

番長、1回戦に続いて壮絶TKO勝利！
GP制覇に向けて喧嘩街道バク進中!!

「優勝して大晦日にKIDくんと闘いたい」

高谷裕之

Hiroyuki Takaya

戦前から舌戦を繰り広げた準々決勝唯一の日本人対決は高谷が激勝!
高谷軍団の仲間たちの思いを背負って闘う番長が、その喧嘩の流儀を存分に発揮した。
いよいよ見えてきたフェザーの頂点、津田沼のアウトローは世界のTOPに成り上がるか?

聞き手／小松伸太郎　構成／鈴木佑　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

川尻くんがカルバンに勝ったのを観て「よし、俺も!」って気持ちになった

——昨夜は高谷軍団の皆さんと勝利の美酒に酔ったんじゃないですか?

高谷 みんなは飲んで盛り上がってましたね。まぁ、俺は試合後で飲めないんで自分に酔ったって感じで(笑)。

——番長、カッコイイ!(笑)。試合前に過激な舌戦もありましたが、KO勝利で少しは気持ちが晴れました?

高谷 そうですね。でも、やる前は「勝ってボッコボコにぶっ飛ばしても、ぜってえ仲良くしてやらねえ」と思ってたんすけど(苦笑)、なんか……気持ちが通じ合っちゃったみたいな。彼も強かったし認め合ったというか、小学生のとき喧嘩したあと仲良くなったみたいな、そういう懐かしい感覚がよみがえりましたね。

——小学生時代から拳でわかり合ってましたか(笑)。試合後に会話されていましたけど、どんなことを話されてたんですか?

高谷 「いろいろ言っちゃったんですけど、ああ言うしかなかったんです。すみませんでした」って言われたから、「いやいや、全然」と。あと、「高谷軍団の人たちと稲垣組も仲良くさせてあげてください」とも言われた(笑)。

——高谷軍団の方々も前田選手の発言には怒っていたんですか?

高谷 めっちゃ怒ってたみたいです。大半は会場での煽りVで。

——火がつきましたか!

高谷 「ガキの集まりだ」みたいなこと言われて、それまでワーワーしゃべってたのに、すげえ熱くなったからだと思うんだけど、シーンとしちゃったみたいで。で、火がついちゃって、いつも以上の野次が(笑)。俺を勝たせたくて必死になって口汚くなっちゃうというか。そこは勘弁してあげてほしいです(苦笑)。

——ちなみに、昨日は何人の高谷軍団が応援に駆けつけたんですか?

高谷 300人くらい。全員が全員、俺の直接の友だちじゃないんですけど。

——高谷軍団の方々とはいつ頃からの仲間なんですか?

高谷 小学校からの友だちもいるし、メインは、一緒に悪いことやってた頃の友だちが多いっすね。

——当然、高谷選手をボスとして軍団が成立している、と。

高谷 どうっすかねえ。まあ、チームをやってたときも俺が頭としてやってたっていう部分もあるし、いま、一番目立つ仕事に就いているのも俺だから、試合のときはみんなが集まるキッカケになる存在になっているとは思いますけど。でもみんなそれぞれ違う道を歩んでいて、そんななか集まってくれるから、絶対にヘタな試合はできないです。ちょっと痛いからうしろ向いちゃったりとか、そういうことは絶対できない。

——結果的に昨日の試合後も大盛り上がりになって。

高谷 そうっすね。俺自身、なかなか自分のペースに持っていけなくて、「やべえな、このまま判定いっちゃったら……」みたいなのもあったから、すげえ嬉しかったし、みんなもたぶん相当ヒヤヒヤしたと思うから、そのぶん、嬉しかったんだと思います。

——見事なKO勝利でしたが、同じチーム黒船の川尻選手が勝ったことの影響というのもあったんですか?

高谷 ありましたね。めちゃくちゃテンション上がりましたよ、「よっしゃ!」みたいな。カルバンって強いじゃないですか。ああやっていい試合して勝ってくれたから、「よし、俺も!」みたいな気持ちになりましたね。

試合はサウスポーの前田がペースを握り、高谷は出血、さらに膠着誘発行為でイエローカードを提示されるなど苦しい闘いを強いられる。しかし高谷は前田の左ストレートを被弾しながら、カウンターで渾身の右ストレートを炸裂!崩れ落ちた前田に鉄槌を落とし、逆転のTKO勝利を飾った。試合後に両者は正座をしてお互いに礼、健闘をたたえ合った。

——高谷軍団同様、練習仲間に対しての仲間意識も強い、と。

高谷 一番キツイ練習している場所が黒船だから、そこで一緒に汗流してる仲間に対しても、そういう意識は自然と強くなりますよね。川尻くんとは黒船以外にも今回、グラップリングの練習でパラエストラ松戸に行ったり、一緒にすごすことが多かったから、「絶対、二人で勝とう」という気持ちは強かったと思います。

——フェザー級GP決勝ラウンド進出が決まりましたけど、昨日の試合でGPの中心選手でもある山本"KID"徳郁選手が負けてしまいました。

高谷 KIDくんとは、「日本人でどっちが強えんだ?」みたいな感じで、まだ無傷の準決勝でやりたかったんですけど、KIDくんのところが所くんになっちゃったから……。

——そこは残念だ、と。

高谷 俺が残念というよりも、みんなから「観たい」って言われていたカードなので、それで俺もその気になっていたというところがあるから、「あぁ、また持ち越しになっちゃったのか……」みたいな感じっすね。同じトーナメントに出たのはこれで2回目なんですけど、「このトーナメントでも当たれねえんだな」と。おもしろい試合になったと思うんですけどねえ。まあ、準決勝の相手は誰でもいいです。全員強いと思うし。

——ほかのフェザー級GP2回戦の試合はご覧になりましたか?

高谷 まだ観れてないですね。KIDくんと(ジョー・)ウォーレンの試合はモニターで観たんすけど。

——どうですか、感想は。

高谷 KIDくんが完全にムエタイのスタイルだったのが意外でした。「どうしちゃったの!?」みたいな。最後まであのスタイルでいったじゃないですか? 逆転を狙いにいくわけでもなく。スタイルを変えたのは、あそこから何かを進化させていきたいのかもしれないけど、まあ、早く本調子に戻ってほしいですね。

——GPで優勝して大晦日にKID選手と対戦というのも。

高谷 そうなれば、おもしろいですよね。

——となると、高谷選手の優勝をおおいに期待してしまいます。

高谷 つまんない試合はしないと思うので、期待してもらっていいと思います。KO、KOで来てるんで、決勝までKOで大暴れしていきたいです。格闘技界を、PRIDEとかがめっちゃ盛り上がっていた頃に引き戻したいという思いがあるんですよ。少しでもその力になれるように、どんどんいい試合をやっていきたいですね。今回のような試合をしていけば、またファンもついてきてくれると思うんです。それなりの試合をしてきているつもりでいるんで。

——2戦連続KOか一本で決勝ラウンドに進むのは、唯一ですもんね。

高谷 残った4人の中では絶対に俺が一番おもしろい試合をするっていう自信はあります。フェザーでも、スピードだけじゃなく、パワーも見せられるというか、一瞬で終わらせちゃう空気感を出していきたいですね。

——9月の決勝ラウンド、期待しています!

【09年5月27日/都内・某ホテルにて収録】

韓国での大バッシングにも負けず
元メジャーリーガーをフルボッコ！

「セイ、セイ、セ〜イ！ “リアル・スーパーハルク”はボクしかいないでしょう!!」

CHOI HONG MAN

チェ・ホンマン

ある意味、5.26『DREAM.9』で一番世間に届いたであろうマッチメイクが
ホンマンと“元メジャーリーガー”カンセコの一戦だ。ここ最近は勝ち星にも恵まれず、
母国・韓国ではさまざまなバッシングに悩まされる毎日だったというホンマンだが、カンセコ相手に圧勝！
元気を取り戻した“リアル・スーパーハルク”を直撃ッ!!

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

大会前はカンセコの彼女の視線が気になってしょうがなかったです

――昨日のホセ・カンセコ戦、見事な勝利おめでとうございます！

ホンマン　ありがとうございます。相手はともかく、ひさびさの勝利だったので凄く嬉しいです！(流暢な日本語で)。

――ただ、カンセコ戦は韓国ではバッシングもあったみたいですね。

ホンマン　バッシングはカンセコ戦のことだけじゃないんですけど、あなたが思ってる以上に大変でした(またもや日本語で)。

――そうでしたか。ホンマンさんは試合のたびに髪の毛の色を変えたりしてますけど、今回は普通っぽいですよね。

ホンマン　去年の大晦日のミルコ・クロコップ戦の前からコンディションがあまりよくなくて、いい結果も出せなかったので、今回は反省の意味も込めてあえて黒くして普通にしてみたんです。

――反省の意味があったんですね。あと、ホンマンさんといえば入場時や試合後のダンスもおなじみですけど、今回のひさびさの勝利によって、次からは解禁ですか？

ホンマン　本音を言えばそういったパフォーマンスは毎回やりたいと思ってるんですけど、そういうことをやるとどうしてもバッシングされてしまうので(苦笑)。

――いろいろと大変なんですね。

ホンマン　そうなんです。日本のファンとかの反応は悪くないんですけど、韓国ではやればやるほど反感を買ってしまうので、そのへんのバランスが凄く難しい。

――たしか、日本の映画『GOEMON』で、韓国では悪名高い豊臣秀吉の護衛武士役で出演されたことでも、かなりのバッシングが起こってるみたいですね。

ホンマン　はい。ある程度は予想もしていたんですけど、やっぱり日本人の考えと韓国人の考えは違う部分があるので。……ちょっと言いにくい話題ですね。これはデリケートな問題ですから。

――わかりました。今回のカンセコ戦では具体的にどういったバッシングが？

ホンマン　カンセコは有名ですけどMMAは初心者なので、韓国では勝ってあたりまえ、負けたら恥さらしという言われ方が多かったです。

――勝っても負けても非難されてしまう状況だったわけですね。

ホンマン　かわいそうなボク(目を押さえて泣き真似をするホンマン)。

――ちょっと同情します。秋山(成勲)選手なんかは韓国では人気があって、日本ではバッシングもされることもあって、ホンマンさんとは逆のイメージがあるんですけど、そのへんはどう思います？

ホンマン　彼はボクとは正反対な感じですよね。彼は一時期はアンチファンも多かったじゃないですか。でも、その後、韓国で人気も出たりしたので、ボクもちょっと意識して寂しく感じたこともありましたけど、いまは何も思ってないです。

――秋山選手もホンマンさんと同じように歌手やモデルなどタレント活動も積極的に行なってますけど、意識してます？

ホンマン　彼は歌はうまいと思いますけど、韓国語の発音がイマイチですね(笑)。それにダンスなら絶対に負けませんよ。

[09.5.26 DREAM.9 スーパーハルクトーナメント1回戦]
神奈川・横浜アリーナ
○チェ・ホンマン vs ホセ・カンセコ×
(1R 1分17秒 KO)
金髪巨乳の彼女とともに入場してきたカンセコは開始早々ホンマンにフックをぶちかまし場内をどよめかせるも、1分すぎに自ら放ったサイドキックで自爆し、そのままパウンドを浴びての秒殺負け。ホンマンはボビー・オロゴン戦に続いてMMA2勝目をゲッツ!

――踊りなら負けない、と(笑)。ちなみに、今回の試合のオファーがあったとき、カンセコさんに対してはどれぐらいの認識があったんですか？

ホンマン　メジャーリーグで活躍していた野球選手ということは知っていました。試合が決まってからは、野球選手時代の動画も見ましたし、彼のボクシングの試合の動画もチェックしました。

――試合前の会見ではカンセコさんがボクシングの試合をしている動画を見て、「かわいそうになった」と言ってましたよね。

ホンマン　そうですね。あの動画を見る前はカンセコに対してもうちょっと強いイメージがあったんですけど、動画を見たら思っていたよりも強くなかったので、ちょっとかわいそうだなと思いました。

――なるほど。今回、カンセコさんは来日から試合のセコンドまで金髪女性マネージャーがずっとそばについていましたけど、気になりませんでした？

ホンマン　凄く気になりましたッ！

――どうしたんですか、いきなり(笑)。もしかしてタイプだとか？

ホンマン　それはないですけど、来日してからカンセコと彼女とホテルも一緒だったので何回か顔を合わせたんですよ。そのたびに彼女はボクのことをず～っと目で追ってくるんで、「何か悪いことしたかな？」って。ボクもなんとかその視線から逃れようと頑張ったんですけど、あまりにも視線を投げかけてくるので、カンセコよりも凄く気になりました(笑)。

――もしかしたら、ホンマンさんのことが気に入ったのかもしれませんよ(笑)。

ホンマン　それはないと思います(苦笑)。

――あ、そうですか。昨日の結果を受けて、4人が勝ち上がったわけですが、「優勝するのは俺だ！」っていう自信はあります？

ホンマン　ありますよ。だって、昨日勝った3人の中でリアルな〝スーパーハルク〟ってボクしかいないじゃないですか。

――確かにそう言われてみると、いわゆる〝スーパーハルク〟側の選手はみんな負けちゃいましたからね。2回戦の相手はミノワマンがいいんじゃないかという声が多かったんですけど、いかがですか？

ホンマン　私も次の相手はミノワマンがいいと思います。彼との試合はおもしろくなるんじゃないですかね。

――ミノワマンの印象は？

ホンマン　不思議な人ですよね。わかるようでわからないというか、つかみどころのないファイターだと思います。でも、誰が相手になっても問題ないです。

――では、2回戦も期待してます！

ホンマン　まかせてください。自信がありますので！(流暢な日本語で)。

【09年5月28日／都内・某ホテルにて収録】

世界超人選手権の〝ボケ殺し〟
パブリシティの重要性を力説!!

「ホセ・カンセコは悪くない」

GEGARD MOUSASI
ゲガール・ムサシ

「勝っても笑わない」「ハルクのボケ殺し」などとテレビ中継の煽りVTRでは言われ放題だったゲガール・ムサシ。確かにスーパーハルクトーナメントの強烈な個性のぶつかり合いの中では最もキャラは薄かったかもしれないが、主催者の意図を誰よりも理解していたのは、じつはこの男なのだ。

聞き手／坂井ノブ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾普也

より多くの人に観てもらわないと イベントも成り立ちませんからね

――マーク・ハント戦、勝利おめでとうございます。見事な完勝でしたね。

ムサシ　作戦どおりです。まずはパンチで攻めて、テイクダウンしてグラウンドに持ち込んで、マウントポジションをキープして極めるという作戦でした。

――狙ったとおりの試合運びだったわけですね。このインタビューの前に行なわれた記者会見では「テレビ中継の視聴率が良かった（平均視聴率が16・2パーセント）と聞いて、家族のことのように嬉しい」と言ってましたけど、あなたにとってのDREAMはどんなものなんですか？

ムサシ　自分が何者で、どんなスキルがあるのかを全世界に証明するチャンスをくれたのがDREAMです。「チャンピオンになりたい」という夢をかなえてくれたのもDREAMです。心の中でも特別な場所にあるものというか、自分はDREAMという大きな家族の一員のような気持ちがしてるんですよ。だから、DREAMというイベント自体がうまくいくことが凄く嬉しいです。

――そのDREAMからスーパーハルクトーナメント（以下ハルク）のオファーがあったとき、どう思いましたか？

ムサシ　じつは、もともとライトヘビー級でソクジュとワンマッチでやらないかという話もあったんです。私としてはなんの問題もありませんでした。結局その試合は実現しませんでしたが、そのあとにハルクの話が浮上してきました。その時点で自分に残された選択の余地は「出るか？　出ないか？」ということだけでした。家にいてテレビでイベントを観ているのは嫌ですから出場することにしたんです。

――ハルクは基本的に無差別級なんですけど、過去に無差別で試合した経験はあるんですか？

ムサシ　ありません。最初は「大丈夫かな？」と思いました。私は体重がそれほど重くないですから。ただ、トレーニングをやっていくうちにだんだん自信がついてきて最終的には「うまく闘えるかもしれない」という気持ちで出場しました。今回試合をしたマーク・ハントは前に出て積極的に闘いを挑んでくるファイターです。そんなK－1王者に勝てたことは自信になったし、とても嬉しいことです。

［09.5.26 DREAM.9 スーパーハルクトーナメント1回戦］
神奈川・横浜アリーナ
○ゲガール・ムサシ vs マーク・ハント×
（1R 1分19秒 アームバー）
スタンドでは打ち合わず、右ストレートを放ったそのままの動きから右手で足を刈ってテイクダウンしたムサシ。サイドポジションでストレート・アームバーを極めて一本勝ち。打撃だけではなく極めも強い！

――大晦日にはK－1ルールで日本の武蔵とも闘いましたよね。あのときも自信はあったんですか？

ムサシ　自分のスキルを試す挑戦でした。

――立ち技の選手にKO勝ちしたんで日本のファンもビックリしましたよ。

ムサシ　たぶん日本の皆さんは私がスタンドで勝負をしているところを観たことがなかったんでしょう。もともと私はボクシングをやっていたので、自分のスキルが通用して嬉しかったです。

――なるほど。で、ハルクの話に戻りますが、勝ち上がったほかの3選手はどういう印象を持っていますか？　それぞれ印象を聞かせてください。

ムサシ　じつはミノワマンとは3年前にオランダで一緒に打撃の練習したことがあるんですが、凄くナイスガイでリスペクトしています。できれば対戦したくはないですね。チェ・ホンマンは誰にとってもやりにくい相手です。ヒョードルもミルコも手こずってましたからね。実際、強いですから厳しい闘いになるでしょう。ソクジュは柔道がベースで非常に強いファイターですね。見た目も強そうです。しかも、いいジムに所属しているので危険なファイターと言えるでしょう。いずれもタフなファイターばかりです。

――敗退してしまいましたが、同じトーナメントに元メジャーリーガーのホセ・カンセコが出ていたということについてはどう思いますか？

ムサシ　まず、初めてのMMA挑戦で、このハルクに出てきたことはリスペクトに値すると思います。非常に勇気がいることですから。しかも彼が出場するということで、かなり宣伝になったと思います。彼の試合を観たいという人はテレビでDREAMを観たんじゃないですか？　そのパブリシティ効果は絶大だったと思います。注目を集めるような有名選手が出るのもたまにはいいんじゃないでしょうか。試合の面で批判されているのは知っていますが、彼は悪くないと思いますよ。

――ちなみにホセ・カンセコのことって知ってました？

ムサシ　いいえ。インターネットで読んで初めて知りました。ホテルで初めて会ったときにはフレンドリーでとてもいい人でした。

――やはりパブリシティは必要だと思いますか？

ムサシ　ええ、もちろんです。我々がやっているMMAをもっと多くの人に観てもらいたいと思っています。まず、テレビや会場で観てもらわないとイベントも成り立ちませんからね。もっと注目してもらうためには、パブリシティは非常に重要だと思います。

――さて、あなたの次の試合なんですが8・1『アフリクション』でビクトー・ベウフォートとの対戦が噂されていますよね。

ムサシ　はい。私は準備ができています。あとは彼次第です。最初は90キロぐらいの契約体重でという話だったんですが、まだ正式には決定してません。

――無差別でやったり、減量したり、これからも大変ですねぇ。『アフリクション』での試合が行なわれることになれば、アメリカでの初めての試合ですよね？

ムサシ　そうです。私はDREAMという看板を背負ってアメリカで闘ってきたいと思います。そして、スーパーハルクトーナメントでの優勝を狙ってトレーニングを積んでいきたいですね。

――活躍を期待してます！

［09年5月27日／都内・某ホテルにて収録］

7・20『DREAM・10』で大一番！

柔術皇帝ビトー〝シャオリン〟ヒベイロ戦決定!!

青木真也

DREAMスタート以降、一大会を除いて試合に出場し続けてきたワオ木さんは、『DREAM・9』はひさしぶりの休養。リング外から見たホームリングにどんな印象を持ったのか？　シャオリン戦への決意も語ってくれています。むむ、いつもよりシリアスだぞ？　それでは、ぱいーん!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／DREAM

—青木さん、聞きましたよ。

青木　え？　何をですか？

—『DREAM・9』のバックステージで前田日明と1時間も密談してたとか。

青木　クククク！　それ、どこから聞いたんですか。

—秘密です（笑）。前田さんといったいどんなお話をされたんですか？

青木　前田さんの「絶倫」の話とか。

—は？　いったい何を話してるんだ（笑）。

青木　「青木、26歳？　俺が26ぐらいのときはね、一晩、10人だよ」「試合が終わったその日に、その10人にメールを一斉送信するぐらいの気持ちがなきゃダメだ」（前田日明のモノマネで）。ぱいーん、ぱいーん!!

—さすが前田日明だなぁ。マジメな話はしなかったんですか？

青木　アキレス腱固めについて語りました。単純にね、勉強になったっすよ。あと「マッハ戦は300パーセント正しい」って言われました。「みんな切符を買ってもらってんだよ。それをわかってねえんだよ」って。

—そういう意味では昨日のイベントも、

バカサバイバーはキツイ相手がよく似合う

ぱいーん、ぱいーん!!

チケットを買ってもらってるお客さんにとっていろんな反応がある大会だったと思うんですけども。青木さんが選手じゃない立場でDREAMを観るのは昨年5月の『DREAM.3』以来ですよね。

青木　おもしろかった、単純に。でも、イマナー（今成正和）の試合があったから熱中するわけにもいかなくて。

――今成さんの試合、けっこう厳しい内容でしたね。

青木　もうね、言い訳させてもらうと、途中でイマナーの左足が利かなくなっちゃって。左ミドルも蹴れなくなっちゃって。で、ブレイクのときにボクのところにきて「痛くて蹴れない」って言ってるから、「あ〜、こりゃあもう折れたのかな」って。結局、折れてはなかったんですけど、もう最悪、ラウンド中に止めるぐらいの気持ちだった。それでも闘い抜いたんだから、イマナーは頑張ったと思いますよ。ブーブー言われても関係ないって。イマナーがやってきたことを、イマナーが表現したいように表現してるんだから。それがアイツの生き方で、アイツのやってきた人生なんだから。ボクはイマナーを全肯定しますけどね。どんな文句を言われてもボクがイマナーを守りますよ。

序盤は左ミドルで試合のリズムを組み立てていたが、途中で左足を負傷してしまった。『kamipro.com』の青木真也ブログでも詳しく触れられている。さっそくアクセスだ!

――あの局面を突き抜けられるかどうかというのが今成さんの課題だったのかなとも思いますけど。

青木　う〜ん。試合のなかでの自分の見せ方を考えるべきですよね。たとえば、猪木・アリ状態になったときに、猪木状態のほうが不利なんだけど、ボクの場合は顔を上げて「いいよ。殴ってこい！」って行くじゃないですか。そうすることによって相手が逃げるから、ボクのほうが肯定されるんですよ。「青木は攻めてる」という見せ方ができる。でも、それもリスクあるんですよ。やっぱ殴られる可能性は高いわけだから。

――そこの駆け引きを含めてMMAなんですね。

青木　まあ折れてなかったからいいんですけど、足が折れてて格闘技が1年できないとかなってたら、ボクは一生悔やんだでしょうね。極端な話、自分のファイトマネーを半分あげないとダメだって思いました。試合が終わって控室に帰ったとき、イマナーの前では泣けなかったんだけど、佐伯さんになぐさめられてましたね。「またオマエは泣いてんのかよ」って（笑）。

――ダハハハ。

青木　いや、ホントにイマナーに申し訳なくてさ。「うわ〜、セコンド失格だな」と思って。だって、言っちゃったもん。インターバル中に「ドクターが止めてもやらせるから。人生懸かってんだろ。こんなんで引けんのか⁉」って。

――責任を感じてしまったんですね。

青木　入場のときも、ゲートの横でイマナーが上がってくるのを待ってて。いつも絶対にお祈りするんですよ、イマナーの試合のときは。で、お祈りしてたら、ちょうどその横にイマナーの奥さんが子どもを抱いてて。いつも試合前に会うことってないですけど、「青木さん、今日、よろしくお願いします！」って言われちゃって。「あ〜、絶対に勝たせなきゃいけない」という気持ちと同じく「絶対、無事に帰してやらなきゃいけない」という気持ちもあって。折れてなかったからホントによかったんだけど、いろいろと考えましたよね……。

――そこはもう、当事者にしかわからない感情ですよね。

青木　うん。だって、ほかの選手にこんな感情ないもん。ほかの選手がKO負けしても、「また頑張れよ！」ですんじゃうんだけど、イマナーに関しては違うんだよね。

――今成さんほどの感情はないかもしれないですけど、石田（光洋）さんが廣田瑞人選手に負けたとき、青木さんがブログで

寝技でシャオリンと勝負できるのは
日本人ではボクしかいない!!

『DREAM.9』で、『DREAM.10』の好カードが次々に発表された。青木は柔術皇帝シャオリンと対決。シャオリンはヨアキム・ハンセン、川尻達也を下しているが、知名度のわりに実力はハンパないという非常に厄介な敵だ。青木、危うし!!

複雑な感情の胸の内を書いたじゃないですか。ファンから「どういうことかわからない」みたいな声がありましたけど、まあ、わかるわけはないんですよね。感情の問題なんだから。

青木　う〜ん、そうなんだよね。「書くな」と言われちゃそれまでなんですけど。

——いまの世の中、なんでもはっきりしないと嫌なのかもしれないですけど、物事のとらえ方がちょっと麻痺しちゃってるんですよね。たとえば、リングで闘うということもある意味、生死が懸かってるわけじゃないですか。それは本当の生死だったり、プロとして食べていくことだったり。

青木　そこを選手たちはリアルに感じてるから。だから守ってあげないといけないんだよね。死があるからこそ、負傷すらもなく無事に帰してあげないと。そんなストレスを感じてて、あの日だけで体重3キロも落ちた。

——3キロも!　やっぱり青木さんはセコンドをやってる場合じゃない。試合しなきゃダメだ(笑)。

青木　うん。自分が試合したほうがラクだから。

——話は変わりますが、川尻vsカルバンはどうでした?

青木　ボクは嬉しかったですけどね。川尻さんに勝ってほしいって気持ちがホントにあったから。試合もおもしろかったです。ファン目線でも技術目線でも楽しめる試合でしたよね。

——ホントにおもしろかったですよね。

青木　でしょ?　お互いに「やってやるぞ!」的な緊張感があったじゃん。技術的にもレベルが高かったけど、カルバンはやっぱすべてがきれいすぎるんだよね。ドロ臭くないんだよ。「打・投・極」、いや、「打・極」かな。凄い打撃と凄い組み技。だけど、下になっちゃったらダメ、みたいな。ボクと闘ったときもそうだったけど、ドロ臭くなるとダメなんだよね。一発の破壊力はホントに凄いけど。

——今回はドロ臭さの差が出たというか。

青木　うん。川尻さんはカルバンを寝かしきったじゃないですか。カルバンはあそこから立てると思ってたんだけどな。

——あのカルバンをあのまま押しきるのってやっぱり凄いんですか?

青木　いやあ、難しいですよ。ボクが勝ったときの試合は参考にならないというかまあ青木真也しかできない試合だったというか。ボクは誰にでも勝ち目があるけど、誰にでもやられる可能性があるので。

——勝負のポイントはどこだったんでしょうか?　フロントネックを外したところですか?　青木さん、川尻さんが極められかけたときリングサイドから叫んでましたよね。

青木　ああ、思わず脱出方法を叫んだんですよ。「左肩を突っ込め!」って。でもまあ勝負を分けたのはテイクダウンかな。ひたすらテイクダウンを狙って、要は堅い試合ができたことが大きい。これね、並みのファイターじゃできないよ。やってるほうからすると、相当レベルが高い。あのカルバンを寝かしきることはちょっと凄いですね。

——カルバンが攻めるべきポイントはどこだったんですか?　こう攻めてればよかったというか。

青木　う〜ん。これは今後のこともあるし、書けない話だけど、川尻さんって……(以下、非常に興味深くてわかりやすい技術論を語ってくれたが省略)。

——なるほどねぇ。そういえばそうですね。

青木 でしょ？ そこがポイントですよ。だからって、誰でもできるかといえば、そうじゃないですけどね。

――よくわかりました。ところでKIDさんの敗戦はどうでした？

青木 よくわかんないです。試合を観てないんですよ。イマナー以降の試合を全部、観てない。イマナーにつきっきりだったから。

――また〜ぁ。しゃべりたくないからそんなこと言ってるんじゃないですか？

青木 ホントに、ホントに（苦笑）。所（英男）選手の試合は観ましたよ。カッコよかったねぇ。なんか凄い生き様が出てたし。所英男、カッコよくない？

――そうですね。

青木 ボクはずっと所選手の試合を観てますけど、すべての試合がおもしろい。勝っても負けても大舞台に立つ姿は観たいですよね。

――そこはプロとして大切ですよね。

青木 かわいそうなのは（ホナウド・）ジャカレイだよね。ダイジェストでしか観てないけど、あれって反則なんでしょ。

――故意じゃないからアクシデントということみたいですけど。

青木 故意じゃないサッカーボールキックなんてないんですよ。反則行為に対して、故意とか故意じゃないとかは必要ないと思いますよ。

――では、似たようなケースの三崎和雄vs秋山成勲の場合は？

青木 あれは今回よりもグレーゾーンだけど、判断するなら三崎さんの勝ちか、反則負けにすべきだと思う。ノーコンテストという裁定自体がない。

――なるほど。きちんとした判断をすべきだってことですね。

青木 でも、そんなこと言ってたら、まるく収まんないのもわかるんですけどね。

――そうですね（笑）。

青木 あとハルクはくだらなすぎてバカ負けしたなあ。カンセコともおもしろかった！

――スーパーハルクは〝あり〟ですか？

青木 ありかなしかっていったら、なしでしょ。でも、ありでしょ。なしだけど、あり。

――禅問答の世界だ（笑）。青木さんがやれって言われたらどうします？

青木 やるよ！

――やるんですか（笑）。

青木 いいじゃないですか。考え方によったら、ああいうことをやってきたからボクらが格闘技できてるんだし、やってみたら楽しいのかもしんないし。

――ハルクとシャオリンの選択があるリングって、へんなロマンがありますね（笑）。

青木 青木真也の格闘技ネバーエンディングストーリー、みたいな。

――でも、シャオリン戦っていまの青木さんの立場だったら受けなくてもいいですよね？

Shinya Aoki

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。柔道、柔術、サンボをバックボーンに持つ奇才グラップラー。柔術黒帯、人間白帯をモットー（?）にDREAMのリングで活躍中。現在、世界で一番注目されている日本人ファイターである。入場曲はウルフルズの『バカサバイバー』。180cm、70kg。

青木 そうですか？ でもリスクがあるから、おもしろいと思うんですよね。シャオリンは強いからね。どこで勝負してくるんだろう。こっちが打撃をできないって思ってるふしがあるから打撃でやってもいいけど、寝技でも勝負すっから。

――今成さんとビビアーノだったら、今成さんは柔術では勝てないみたいなことを言ってるじゃないですか。

青木 勝てないどころじゃないですよ。

――シャオリンと柔術でやったらどうですか？

青木 柔術だったら？ やられるでしょ。でも、今度やるのはMMAだから。総合の寝技の勝負だから。

――いままで闘ってきた選手で、寝技だけだったらシャオリンは一番強いぐらいですか？

青木 菊地（昭）選手がいる。

――菊地さん、強かったですか？

青木 強かった。だって菊地選手はあのジェイク・シールズを封じ込めたからね。

――寝技を知らない『kamipro』読者にわかりやすく説明してもらいたいんですけど、菊地さんの寝技って固め系ですか？

青木 上からのパスガードとテイクダウンだよね。シャオリンは下からも動くけど、固いことは確かだよね。でも、日本人ではボクしかできないと思うんだよね、寝技でシャオリンとやれるのは。もうね、勝負してやりますよ。ボク、7月で辞めるから。

――……………え？

青木 もう次で格闘技を辞めるぐらいの気持ちだから。

――ホ、ホントですか。

青木 うん。

――辞めて……どうするんですか？

青木 たぶん辞めないけどね。「辞める」気持ちでやるつもり。

――なんだ、いまドキッとしましたよ。顔が真剣だから。

青木 だから、なんでシャオリン戦を受けるかっていうと、連敗がイヤだとか、そう思う気持ちが凄いあったからなんです。それをすべてぶっ壊して、甘えとか、驕りとかを壊したいなって。プロになって4年目に突入して、なんかカッコ悪いんだけど、まだまだたいしたことができてないんだよね。いままでの実績を全部捨てて、一からホント、青木真也をぶっ壊すようなつもりでやってやります。

――自分のあり方を問う一戦。

青木 うん。だから辞めるつもりでやる。明日、格闘技ができなくなっても悔いがないぐらいのことをやりたい。逃げない。やる。で、死ぬ。死んでも『kamipro』は取材してよ!!

――何を言ってるんですか（笑）。

青木 シャオリンはべつに怖くないんだけど、負けることは怖いですよ。もう負けたくないもん。もう、あんなクソみたいな気持ちにはなりたくないから。背負うとか背負わないじゃなくて、すべてを試合だけに集中する。

――楽しみだなあ。いや、青木さんってこういう試合が似合いますよ。

青木 こういう試合って？

――キツイ相手、しんどい状況担当みたいな。染之助・染太郎で言うところの染之助ですよ。「あんた肉体労働！」って感じで（笑）。

青木 また他人事だと思って。まあ、まだまだ人生の修行は必要ですよ。柔術黒帯、人間白帯ですから！

【09年5月27日／DEEPジムにて収録】

魔裟斗VS川尻を“100倍楽しく観る”座談会!!

時は来た!! いでよ“スーパー川尻マン”!?

魔裟斗戦、お願いしやす! “前門の虎”JZ.カルバン戦というハードルを見事にクリアした川尻達也。今回は7.13 K-1 MAXにおける運命の一戦・魔裟斗戦に向けて、編集部の妄想がまたもや大爆発!! “スーパー川尻マン”待望論とは何か? さらに視聴率獲得の切り札・スーパーハルクトーナメントに議論百出のジャッジ問題など、『DREAM.9』も徹底検証する緊急座談会開催!!

大会撮影/乾晋也 川尻トビラ撮影/金山フヒト 写真協力/DREAM 構成/真下義之

座談会出席者

ジャン斉藤
本誌編集長。“雀鬼”こと伝説の麻雀師・桜井章一の内弟子を経て、『kami-pro』編集部へ。永久電機などアントニオ猪木の怪しげな事業の調査や破綻系興業の観戦がライフワーク。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から熱狂的プロレスファン、UWF信者としてならし、『週プロ』の『プレッシャー』会員という恥ずかしい過去も持つ。人気企画・変態座談会主宰者としても活躍中。

[司会]真下義之
本誌編集部。約4年間に渡る『kami-pro』編集部生活を経て、この座談会がラスト担当記事となります。皆さん、本当にいままでありがとうございました!

斉藤　視聴率も獲った!!　川尻も勝った！　所くんも復活した！　平日18時開催なのに客もそこそこ入った。DREAMにとっては天下分け目の関ヶ原の闘いが終わったはずなのに、なんともいえない虚脱感がありますねぇ。なんだかまだ"決着"がついてないというか。

ガンツ　イベントの後半がちょっと失速したからじゃないの。前半戦の盛り上がりで「エイ、エイ、オー！」と勝ちどきを上げていたら、後半は「退散しようかな〜」って感じで（笑）。

斉藤　視聴率も平均16・4パーセントだから「大勝だ！」となるところなんですけど。「とりあえず来期の放送枠も安泰」という感じではありますよね。

ガンツ　「PRIDE GPで高視聴率を獲った！」「『男祭り』が『Dynamite!!』を超えた！」って爽快感とは質が違うよね。今回はちゃっかり感があるというか（笑）。

斉藤　内藤大助の世界戦とセットにしたり、スーパーハルクを投入にして。あれですよ、"DREAMの大黒柱"は内藤大助だったんですよ。

ガンツ　内藤ありがとう！　9月のDREAM地上波の際もよろしくお願いしやす!!（ハードトレーニング後の川尻調）。

斉藤　あと、あれですね、正直そこまで大大大爆発した内容じゃなかったじゃないですか。でも視聴率がよかったから「もう最高！」みたくなっているムードに違和感があるのかもしれない。

ガンツ　確かに「視聴率は過去最高！」なんだけどね。

斉藤　そうなんですよ。また視聴率だけが格闘技のモノサシになるのはホントに怖いんですよね。

ガンツ　テレビ局や代理店がそこで判断するのは当然としてもさ。それが格闘技の魅力に直結するかというとべつの話でしょ。で、オレがハルクにイマイチ納得できないのは、どこかここ数年の『ハッスル』に似てるからなんだよなぁ。

斉藤　『ハッスル』？

ガンツ　最近の『ハッスル』って話題の芸能人を「上げりゃあいい」みたいのが多くなってたじゃん。今回のハルクはそれに近いというか、カンセコもサップもハントにも本気感を感じなかったんだよね。

——和泉元彌なんかは『ハッスル』のイズムを飲み込んだ上で、「ここでハッスルして、世の中に一発カマしてやる！」みたいな本気感を感じたし、和泉元彌を通じて『ハッスル』自体のソフトやイズムに戻ってくるみたいな効果があったけど。カンセコはカンセコでしたから（笑）。

斉藤　たとえばカンセコもDEEP道場の周辺のアパートに寝泊まりして、「試合サセテクダサイ、オネガイシャス」みたいな感じでやらなきゃダメってことですかね。

——青木がカンセコのセコンドに寄りそったりして（笑）。

ガンツ　笹原さんも「『東スポ』さん向き」というなら、もっと『東スポ』を巻き込むべきだよね。ミスター・デンジャー（松永光弘）から有刺鉄線バットを授かったりとかさぁ。

斉藤　そういえば、思いのほか『東スポ』では扱われてなかったなあ。そうか、ハルクは『東スポ』向きじゃなかったんだ（笑）。

ガンツ　そこはね、本気度が足りなかったんだよね。「チェ・ホンマンがバットの使用を認めたため！」って、インリン様のムチみたいにバットの使用をオッケーにするとかさ。

——そう考えると今回のカンセコの扱いって、確かに『ハッスル』における泰葉とかクロマティっぽかったですよね。

斉藤　泰葉がテレビ東京初の大晦日視聴率10パーセント越えをはたしたからといって、『ハッスル』自体が現象になったわけではないですしね。

ガンツ　身もフタもない言い方をしちゃうと、小手先になってたんじゃない。だから身につかない。

斉藤　まあ、カンセコ色が身につくDREAMもちょっと怖いですけど（笑）。

ガンツ　マンガの話でいうと、『Dr・スランプ』（鳥山明著）って、人気が爆発する直前に、当時は『週刊少年サンデー』（小学館）が全盛期だったから、「なんとかラブコメ路線にしよう」って話もあったみたいで。でも、そんな『Dr・スランプ』絶対ダメじゃない？　DREAMのカンセコ起用法にはそういう感じがあったよね。「ラブコメが売れるから、ちょっと採り入れよう」って感じで。

——『少年サンデー』は「ウチはラブコメだ！」って突き進んでいたからよかったわけで、いまのDREAMは「ラブコメもいいし、ギャグマンガも捨てがたい」って感じで。今回は、かつてのモンスター路線のパロディみたいなムードもありましたよね。

ガンツ　そのパロディっぽさが問題だと思うんだよね。本気でサップを前面に押し出したときと、パロディでサップを使うのって違うよね。凄く逃げ道が用意されているというか。

——自分はハルクのあと、いったん仕切り直しで入場式をして「ここからは本気です」みたいにしたのは会場では凄く興奮したけど、トータルパッケージとしては、渾然一体でやったほうがハルクに関して本気度が見えたと思うし。

斉藤　要は、DREAMはどこまで本気でハルクをやるのか？　ということですね。「やるんだったら、とことんやれや！」と。

ガンツ　俺はべつにハルクがこのままなかったことになってても構わないけどね。『WRESTLE−1』ばりに（笑）。やっぱりDREAMがやりたいことじゃないことで視聴率をとったら、ホントはDREAMの手柄じゃないわけだからね。でも、「今回だけのシャレですよ」と言ってるわけだから。

斉藤　本気度の話でいえば、ハルクは1ラウンド10分、2ラウンド5分の現行ルール制だったじゃないですか？　そのルールだととてもエンターテインメントに仕立てようと見えないわけですよ。結局、全部5分以内で終了してるけど（笑）。

ガンツ　彼らのスタミナを考えたら10分は長すぎだよね。視聴率用にハルクをやるのになぜ10分1ラウンド？　ボクシングが視聴率を獲れるのは1ラウンド3分だからでしょ。だからこそ視聴者の集中力が持つ。

——お笑い番組も最近は『爆笑レッ

ここはWWEの会場か？　映画『メジャーリーグ』主題歌『ワイルドシング』にのって、バットを担ぎ、金髪女子マネを帯同して"トンパチ野郎"カンセコが出陣！　突出した存在感は有形無形のメディア効果をもたらした。

どこまで本気でハルクをやるのか？　「やるなら、とことんやれや！」と（斉藤）

vs川尻
く観る座談会!!

ドカーペット』（フジテレビ）を筆頭に、1分前後のショートネタや一発ギャグばっかりですし。

ガンツ 「MMAはこうあるべき」という信念で10分でやってるならいいよ。でも、きっと「PRIDEが10分1ラウンドだったから」だけだと思うし。

斉藤 たとえ5分3ラウンドにしても格闘技の魅力はそぎ落とされないですよね。ハルクじゃなくても、いまだったらフェザー級だって5分3ラウンドのほうがその魅力は引き出されると思いますし。

ガンツ そもそも10分制は「一本がとれるように」採用されたと言われてるよね。でも、進化したいまのMMAで5分で極められない人が、10分なら極められるかっていったら、そうは思わない。技術体系はどんどん変わってるから、5分3Rへの移行は必然だよね。だって世界中の選手はほとんど5分制で身体を作ってるのに、それを10分でやらすのは〝異種格闘技戦〟ですよ。KIDなんか初の10分で、まさに異種格闘技戦になっちゃった。

斉藤 エンタメ的視点でもう一つ目についたのはレフェリングとジャッジなんです。それはよく言われる「操作してる・してない」の話じゃなくて、エンタメとしてわかりづらいんです。よく今成（正和）vs山本（篤）戦（『DREAM・7』）の判定は「今成の負けじゃないか?」とか言われていたけど、あの試合はどっちでも構わないと思うんですよね。

ガンツ 難しい判定だよね。

斉藤 今回のKID vsジョー・ウォーレンもどっちでもいい。ただ、基準がわかりづらいから文句が出る。何かを表現するということは、すなわち誤解も受けるということです、競技的観点がある以上、その誤解を埋める環境作りは必要だと思うんですね。

ガンツ 判定は「アグレッシブなほうをとります」とか「有効打をとってます」とかわからなきゃ。有効打はKIDじゃない?　でも上になったのはウォーレン。そこでどっちをとるか?　俺はKIDの勝ちだと思うし、そもそもここは日本だから「KIDがとってあたりまえ」という考えもあるじゃない。

斉藤 ホームタウンディシジョンを奨励する気は全然ないけど、日本のMMAくらいですよ。ホーム判定に非難が殺到するのは。ボクシングをごらんなさいって!（笑）。

ガンツ だって、同じ日の内藤の試合は新聞の見出しが「日本でよかった!」だもん。

斉藤 中国でやってたら内藤の判定負けってことですよね。

ガンツ みんなが「公平なスポーツ」と思ってるオリンピックもメチャクチャ不公平じゃない?　でも、なんで日本のお客さんは、KIDに票が入ると「え～っ!」とか言ってるの?

斉藤 なぜそういう声が挙がるかと言えば、これまでの極端なジャッジ、レフェリングの反動がきてるということもあるし、判断基準がわかりづらいからですよ。

なぜ1ラウンド10分にこだわるのか?　5分制への移行は必然だよね（ガンツ）

ガンツ あとDREAMは1ラウンド10分、2ラウンド5分だから、ボクシングやUFCと違って、ラウンドごとの判定じゃないんだよね。しかも、有効打で取ってるか、ポジションで取ってるのか、その基準すら明確じゃない。これじゃ、判定になった試合を観客が楽しむなんて不可能でしょ。

斉藤 言っておきたいのは、これってDREAMだけの問題じゃなくて、レフェリングの基準も含めてわかりやすく徹底しているのは、じつはDEEPぐらいなんですよね。

ガンツ DEEPは主催者の佐伯（繁）さんの基準がハッキリしてるからね。「上に乗ったって、勝つ気がないと思う試合は勝たせません!」「極める気がないヤツは全部立たせます!」って（笑）。

斉藤 最終ラウンドのブレイクなんてメチャクチャ早いですし。DEEPルールって凄く地上波に向いると思うんですよね。

——ハルクっていう観客論を言い出すなら、全体的も見直す必要が出てくるでしょうしね。

斉藤 ハルクじゃなくても、極端なことをいえばブレイクルールを導入している団体は全部そうすべきだと思いますよ。「攻防が見られないからブレイク」なんて観客論から発生したものじゃないですか。

ガンツ あらゆるプロスポーツのルールは、多かれ少なかれ「おもしろくなるように」作ってるわけだよね。プロ野球もテレビの中継ワクにおさめるためにピッチャーが投げるまでの時間を決めたり。で、DREAMの「膠着を誘発する動きを警告する」イエローカードもエンター

5.26 DREAM.9
PLAY BACK
@YOKOHAMA ARENA

［スーパーハルクトーナメント1回戦］

○ミノワマン vs ボブ・サップ×

（1R 1分15秒 アキレス腱固め）

大歓声で入場したミノワマンは、圧倒的体格差のサップに一時はグラウンドで押しつぶされるも、体勢を逆転してのアキレス腱固め（本人曰く“フロント逆エビ固め”）がズバリ。恒例のS.R.F.8回も8回以上の大盤振る舞い!!

［スーパーハルクトーナメント1回戦］

○ソクジュ vs ヤン“ザ・ジャイアント”ノルキヤ×

（1R 2分29秒 KO）

手塚治虫生誕80周年!　あのジャングル大帝が再来日!　ソクジュは巨体のノルキアをテイクダウンし、炎のパウンド連打で勝利!　だがレフェリーの制止をきかず、ノルキア陣営のレイ・セフォーも激怒して大乱闘に!

［DREAMフェザー級GP2回戦］

○ビビアーノ・フェルナンデス vs 今成正和×

（2R終了 判定3-0）

ビビアーノが足関十段をビビりまくり?　膠着三昧の展開も、不明確なイエローカード提示など混乱に拍車がかかる。2Rに一度、今成が脚をキャッチもビビアーノは速攻で脱出。大ブーイングの中、ビビアーノが判定勝利。

［DREAMミドル級王座決定戦］

ホナウド・ジャカレイ vs ジェイソン“メイヘム”ミラー

（1R 2分33秒 ノーコンテスト）

混沌とした展開が続いた後半戦。メインでの大逆転が期待されたこの試合だが、メイヘムのキックがジャカレイの頭部をカット。ドクターチェック後も流血は止まらず。結果的に、無念すぎるノーコンテスト裁定に。

日本人選手に対するプレッシャーやハードルの高さは凄いですよ（斉藤）

テインメントのためのルールでしょ？ でも、肝心のイエローの出し方が、全然試合を動かす効果がないんだもん。

斉藤 ああ、今成vsビビアーノ（・フェルナンデス）戦のイエローカードはビックリしましたねぇ。

ガンツ これはレフェリーの個人攻撃じゃなく、そこに基準が見えないのが問題だよね。だって今回、今成vsビビアーノが膠着した一番の原因は、スタンドでビビアーノがカウンターを待つだけでアタックしなかったからじゃん。普通はスタンド膠着している両選手にイエローを出して「攻めなさい！」と警告する。イエローはイヤだから攻め合うはずだった。ところが実際、レフェリーがやったのは、スタンドでアタックしたのを交わされて、猪木－アリ状態の下になった今成に対してイエローだもんなあ。

斉藤 そこから「今成、もっと攻めなさい！」と（笑）。

ガンツ どうやって⁉ あの状態で今成にイエローが出たら、ビビアーノは「ずっとカウンターを待ってる俺の戦法、最高じゃん！」ってますます膠着するよ！ しかも1ラウンド終了時に審判団がレフェリーに注意するのかと思ったら、2ラウンドも同じでしょ？

斉藤 後半、ビビアーノにイエローが出たけど遅すぎですね。ホントは今成があの局面を打開できる能力を持ってればいいけど、それはまたべつの話だから。

ガンツ この二人ならこういう試合になることは充分考えられる。そのためのイエローじゃない？

斉藤 だからよくファンや関係者はユージ・シマダ（島田裕二）のレフェリングに文句を言いがちだけど、試合の動かし方はさすがなんですよね。あざとすぎて鼻にはつくんですけど（笑）。

ガンツ レフェリー全員が共通理念を持ってるように見えないから、積極的に試合を動かす島田さんや角ちゃん（角田信明）は逆に浮き上がってしまうというね。PRIDEはヘビー級の一流選手が中心だったから、こういうことがあまり起こらなかった。「アグレッシブな試合で稼いでやる」っていう意識の選手が揃ってたし。ただ、いまのDREAMは残念ながらMMA世界一の団体じゃないし、逆に「踏み台にしてアメリカで活躍しよう」って選手がたくさんいる。その人たちの一番の名刺代わりは〝戦績〟なんだよね。

斉藤 『MMAウィークリー』（海外格闘技サイト）の選手ランキングとかも外国人って凄く気にしますよね。あれ、日本でいえば堀江ガンツが気分で作ったランキングでしょ？（笑）。

ガンツ そのとおり!!（キッパリ）。でも、彼らは〝戦績〟至上主義だから、そんなものでも凄く気にするんだよ。絶対に勝たなきゃいけない。今回のジョー・ウォーレンの気合いの入り方ったらないでしょ。「KIDを倒してきました」なんて、こんな凄いおみやげはないもん。日本はホントに踏み台ですよ。

斉藤 アルバレスやカルバンにしてもDREAMとは契約が残ってるとはいえ独占契約ではない。青木と川尻がぶっ飛ばして黒星をつけたから日本残留の目が残ったとは言えるんですけど。ウォーレンは所くんに極めてもらうしかないですよ！

ガンツ いいねぇ。元レスリング世界王者を元フリーターが倒す、あるいは前田日明の愛弟子が倒す、と（笑）。戦績至上主義からいくと、ビビアーノは一番の安全運転だったよね。でも、「寝技でアグレッシブに攻めなかったら二度と使わない」って言われるような立場ならやったでしょ？ いい選手なのにもったいない。俺がバラさん（榊原信行・元DSE代表）だったら、ビビアーノに対して「自分で体育館を借りて自分の試合を組んだらどうですか？」って言うよ！

斉藤 そんなことを言ってるとビビアーノがブログでいろいろと暴露しますよ！ 反対に日本人選手へのプレッシャーやハードルの高さは凄いですよね。川尻もあのカルバンを完封してるのに、KOや一本じゃないからあたりまえのように納得してないんですから。

――川尻はカルバンを倒したことで魔裟斗戦がほぼ決まりかけたんですが、一方の五味隆典は、『DREAM』当日は内藤の世界戦が行なわれたディファ有明に行っていたみたいですけど。

斉藤 もうねぇ……五味には素直に魔裟斗戦を告白してほしいですよ！ 第一話から恋しているのに50話になっても成就しない韓流ドラマを見てるみたいで。

ガンツ 五味ってさぁ……完全にツンデレだよね。ディファに行くの

川尻への期待感が大爆発！ 川尻自身も「大歓声に驚いた」というカルバン戦の入場時。いよいよ"人生最大の一戦"魔裟斗戦へと足を踏み出すクラッシャーだが、この巨大なプレッシャーに打ち勝つには、やっぱり"スーパー川尻マン"に劇的進化するしかないって！

魔裟斗vs川尻を〝100倍楽しく観る〟座談会!!

川尻がさらに突き抜けるためには〝スーパー川尻マン〟しかない（ガンツ）

は「俺はマーくんなんか興味ないもん！」っていうアピールなんだろうけど（笑）。

斉藤　五味らしいといえば、五味らしいですけどねぇ。

ガンツ　たとえ魔裟斗戦が実現しなくとも、DREAMの会場に来て存在感を示してもらいたかったなあ……。それだけで夢が広がるのに。ま、いま言えることは「川尻よ、死ぬ気でやれ！」ってことでしょう。川尻は「勝てないかもしれない」みたいな発言もしてるけど、石井館長の「頭突き」発言じゃないけど、何をやってでも勝つつもりでいってほしい。

斉藤　ホントにそうですよ。クリンチの際にブン投げるのはあたりまえだし、「立ち関節を極めちゃうよ〜ん！」っていうムードは出さないと。

ガンツ　とにかく魔裟斗をビビらせろ！　と。山田（武士）トレーナーにも「コイツは俺が殺せ、と言ったら殺す人間だ」と言わせるとかさ。実力や人気はあるのに、川尻が突き抜けないのは〝狂って〟ないからだと思うんだよ。だから、ここは一つ〝スーパー川尻〟になってくれ！

——ス、スーパー川尻⁉（笑）。

ガンツ　なんかさ、とにかく凄くなったバージョンの川尻っていうか。

斉藤　もはや格闘技雑誌で提言するレベルを超えてますね（笑）。どうせならマンをつけて〝スーパー川尻マン〟にしましょう。

——ダハハハハ！　ナットーマン的にいうと、「大豆な場面がやってきた」っていう感じで（笑）。

ガンツ　茨城出身だけにね。

斉藤　そうなったら、ミノワマン襲名の話を聞いて対戦相手の田村潔司が煽りVで豆鉄砲をくらったような顔をしたように、魔裟斗も絶句するかもしれない。

ガンツ　「えっ……マン？」「マンです！」みたいな。

斉藤　ちなみにそのミノワマンのデビュー戦は負けてるんですけどね。不吉だ（笑）。

ガンツ　大関で終わるのか、大横綱になるか？　こうなったらもう北岡（悟）状態で、気合い入りまくりで入場してほしいよ。「武道館にヤバい人がいます！」って通報したくなるくらいのトランス状態でさ。

斉藤　北岡はPPVだからよかったけど、地上波であのノリはたいへんなことになるでしょう（笑）。

ガンツ　テレ東深夜がギリギリかな（笑）。〝格闘家〟川尻的には大晦日のライト級タイトルマッチでベルトを巻く目標がある。でも、魔裟斗戦が決まったら、「おまえは川尻達也じゃない。DREAMや総合格闘技の未来を背負う男になるんだ」と。そうなったら、〝スーパー川尻マン〟しかないんだよ！

斉藤　何度も言うけど、格闘技雑誌が提言するレベルを超えてます（笑）。

ただ、「結果が見えてる」というファンもいるけど、この試合って、それよりももっと巨大な勝負論があるんですよ。MMAというジャンルの向こう10年を占う一戦になるといってても過言ではないという。

ガンツ　川尻にとって猪木vsアリ戦、前田vsニールセン戦、ミルコvs藤田戦というかね。DREAMの地上波中継の来年度の契約もかかってるし（笑）。

斉藤　プロレスだったとはいえ猪木さんに異種格闘技戦で負けた競技はイメージダウンしたじゃないですか？　世間なんて「柔道はプロレスより弱い」とか簡単に思っちゃったわけでしょ。ジャンルの威信もかかってるわけですから。

ガンツ　そうだよね。K-1MAXで魔裟斗の遺産を奪える人はいなかったでしょ。だから、じつはこれがラストチャンスなんだよ。大晦日の引退試合は、誰が魔裟斗を倒しても主役は絶対に魔裟斗。魔裟斗が負けても「よくやった」となるから、倒した人のことなんて覚えてないでしょ。でも、今回は引退試合じゃないから！

斉藤　しかし、PRIDE武士道の頃は、まさか川尻にこんな運命が待ち受けているとは思わなかったですねぇ。まさか〝スーパー川尻マン〟への変身が求められるとは（笑）。

——これを読んで一番困惑するのは川尻本人でしょうね（笑）。

ガンツ　でも、ホントに川尻は狂わないと魔裟斗戦の恐怖から逃げられないと思うよ。ただ、逆に魔裟斗のほうもいままでと違った〝毒のある魔裟斗〟が観れるかもしれない。もしかして〝スーパー川尻マン〟に続き、魔裟斗も……。

——〝スーパー魔裟斗マン〟（笑）。

ガンツ　いや、〝グレート・ムタ〟ならぬ〝グレート・マサ〟見参ですよぉぉぉ！

——ダハハハハ！

ガンツ　ちなみに漢字で書くと「愚零闘魔裟」ね。

——どうでもいい（笑）。

斉藤　いやあ、逆文字で左頬に「矢沢」、右頬に「心」というペイントをした〝愚零闘魔裟〟の顔が目に浮かびますねぇ。

ガンツ　「愚零闘魔裟、見参！」っていう感じで武道館の天井から降りてくる。

斉藤　ドラゴンvsムタのときみたいにプリンセス・テンコーのマジックで登場するのもありかなあ。

ガンツ　リングアナはケロちゃんで決まりだね。まあ、そもそも魔裟斗のコスチューム自体がケロちゃんっぽいんだけど。

——あの〝タケちゃんマン〟スタイルですね（笑）。

斉藤　そう考えると、五味も〝ワル五味〟化してほしかったなぁ。

ガンツ　「いい子ぶってんじゃねぇ！」「スーパー川尻マン、おまえはどいてろ！」と武道館に乱入してほしいね。

斉藤　もう面倒くさいから〝スーパー川尻マン〟、〝グレート・マサ〟、そして〝ワル五味〟での3WAYマッチでいいですよ！

——というわけで、やっぱり格闘技雑誌の提言を超えてますが、我々の想像を超える群像劇がみたいってことです！

【09年5月27日／『kamipro』編集部にて収録】

ビーストコール
ですねえ〜!

鳥肌立った!

いよっ
名解説!

世間が振り向く名解説を追え!

特集

解説とは何か?

マッハ速人

FEG代表取締役
谷川　貞治

kamipro解説審議委員会認定

マット界解説番付

西		東
谷川貞治	横綱	髙田延彦
藤原紀香	大関	髙阪剛
高山善廣	関脇	須藤元気
郷野聡寛		平塚雅人
小池栄子	小結	魔裟斗
清原和博		山本"KID"徳郁
熊久保英幸	前頭	菊田早苗
TRIPLE-P		青木真也

解説とは エンターテインメントである!!

いかに解説が重要か。それを理解するためには、これまで都合3度実現しているデーモン小暮閣下のNHK大相撲中継の解説ぶりをぜひとも堪能していただきたい。好角家としての優れた博識、悪魔なユーモアセンス、愛があるがゆえの厳しい視点。そして立ち合いとなればどんなに話が弾んでいても「時間です」と口を堅く閉じる——。

完璧なのである。だいたい悪魔装で神聖なる大相撲中継に公式登場したことからして充分におもしろい（あのお硬い大相撲協会が閣下に全幅の信頼を寄せていることがよくわかる）。たとえ、あなたが相撲を知らなかったとしても、伝統国技に引き込まれてしまう芸術的解説——そう、解説とは、閣下の仕業のようにエンターテインメントであるべきなのだ。

いわんや我らがマット界、世間に格闘技の魅力を伝える努力が求められている昨今、超私的機関の『kamipro解説審

議委員会』は独断と偏見によって解説番付を作成した次第である。

さて、いま現在、格闘技の魅力をいちばんわかりやすく伝えることができるのが髙田延彦氏と谷川貞治氏の両名だ。この二大横綱の凄みは終盤における怒濤の驚きっぷりにあり、たとえば箸が転んでも自然に大騒ぎできる彼らのスタイルを〝ビックリ解説者型〟と呼ぶ。

また、髙田氏は「鳥肌立った!!」という強力なキメゼリフを持っており、これも他者にはない強みだ（髙阪剛氏の「どうだった?」「凄かったよね?」等、元気氏へのボーイズラブチックな呼びかけも、今後の定着が期待されるキメゼリフの一つだ）。

髙田氏が正統派の〝ビックリ型〟だとすれば、谷川氏はヒールのそれである。一方の選手を有利に導くかのような政治色あふれる解説によって、いつの間にか視聴者をヒートさせる。〝解説界の北の湖〟たる嫌われぶりは、ひいきを含めた解説術として新たな定石を確立させたのだ。

その二人に続くのは、〝技術型〟の大筆頭である髙阪剛氏だ。えてして技術解説というものは一部のマニアだけに向けられてしまいがちだが、髙阪氏の場合は本当にわかりやすく自然と耳になじんでくる。それはまるで歯科医院で流れるクラシック音楽のように……違うか。DREAM中継ではパートナーに須藤元気氏を迎えたことで解説の懐がグッと広がったように見受けられる。

前述したデーモン閣下にしても、旧知の間柄にして相撲マニアの岩佐英治アナや高砂親方、閣下のアイドル・輪島が脇を固めるからその解説力が引き出された面もある。解説陣のバランスはかくも大切で、それは郷野聡寛氏にも問われている。

郷野氏は的確な技術解説にユーモアセンスも兼ね備えている〝万能型〟だが、氏の隣にビックリ型を添えればさらに光り輝くと断言する。そこで当委員会は氏の相方に菊田早苗氏を推挙したい。菊田氏はじつに珍しい〝ビックリ系ボヤキ型〟。「疲れるんですよねぇ～」「痛いんですよね～」と菊田氏の実体験を通したボヤキが加われば、『戦極』解説陣にも厚みが増すことだろう。

一方、相方いらずで独自の道を突き進むのが高山善廣氏と藤原紀香氏だ。誰が相手でも自分の型を崩さずに、それでいて相手のリズムにもしっかりと合わせてくる。どんなにアナウンサーにスルーされようと、ボケを連発する柔道中継の篠原信一氏に代表されるスタイルで「篠原型」と呼ばれている。

なにしろ紀香氏は絶叫するのはあたりまえで、時には「中腰で応援してます!」と謎の宣言をし、なんと「あ…あ～ん♥」と喘ぎ声まで上げるんだ。これは陣内智則にも見せなかった姿だろう。いままで女子アナや女性タレントが何度も紀香氏の牙城に迫り、そのたびに壁の高さを痛感しているが、あえぎ声まで出されちゃかなわない。高山氏以外でプロレス界からの選出は、『東京スポーツ』の平塚氏とTRIPLE-P。平塚氏は文字数の都合上、『ハッスル』中継を見てくれとしか言えない。TRIPLE-Pは解説中に写メを撮ったり、何を聞かれても「スゲエ!!」としか漏らさず、とにかくスゲエ。

審議で意見が分かれたのは清原和博氏の評価だ。昨年『Dynamite!!』の解説で、清原氏は当委員会を充分にうならせる〝ビックリ型〟を見せてくれた。しかし、WBCで発熱のため大事をとって欠場した中島裕之に「根性あるんですかね?」と苦言を呈した件は、解説者としての知的センスに欠けていた。〝ビックリ型〟は天然でありながらも確信犯でなくてはいけないのに。

当委員会の結論は、清原氏はまだ単独で〝ビックリ型〟をこなすのは時期尚早というもの。まずは小池栄子氏のスタイルにならって〝寄生ビックリ型〟の鍛錬に励んではどうか。小池氏は髙田氏の興奮に追随するかたちで絶叫し、涙を流して、奇跡の〝ビックリハーモニー〟を何度ももたらしてくれた。清原氏にはミルコvsノゲイラ戦における髙田氏&小池氏の〝ビックリハーモニー〟ぶりを復唱（＝ぶつかり稽古）することを提案したい。

最後に番付下位の注目解説者を紹介する。熊久保英幸氏と青木真也氏の二人だ。熊久保氏は独特の高音ボイスのため何を口にしてもいやらしく聞こえる〝スケベ型〟。「左ミドルですねぇ～。ヒッヒッヒッ」「上を取りましたねぇ～。グヘヘヘヘ」。以上はあくまでも審議委員によるイメージなんだが、じつにスケベだ。髙阪&元気のコンビが〝ボーイズラブ型〟なら熊久保氏は〝日活ロマン型〟に位置するのかもしれない（適当）。

青木氏は、解説はつまらない関根勤氏と入り替わりで番付入り。「青木さんの解説は評判がいいですよ」「赤い髪の評判は悪いですけどね!」（DEEP後楽園大会の実況より）。口は達者だし、技術解説も優れている彼氏だが、最大の問題はメジャーの解説席はすでに埋まっていること。解説界のサバイバルゲームは厳しく、求職活動中の郷野氏の『戦極』参戦が有力視されているのは、「DREAMに参戦すれば、『戦極』の解説ができない。でも、DREAMには同タイプの髙阪氏がいる」という解説席をめぐる複雑な事情が絡んでるとささやかれている。本当に。

というわけで、いまや〝解説利権〟も生まれようとしている解説界。当委員会は今後もその動向を見守り、勝手気ままに評する次第である。

（ジャン斉藤）

俺たちの解説論

驚かないところでも
驚くのが
ボクの仕事です

じつを言うと
解説しにくい
試合のほうが
多いんだよね

DREAMの黄金タッグ

須藤元気×髙阪剛

解説のゴールデンコンビが登場！　ご存知DREAMの解説でおなじみTK&須藤元気である。
旗揚げからずっとDREAMを解説し続けている二人だが、
回を重ねるごとに抜群のおもしろさを発揮！ 今回は、そんな二人の解説力の秘訣に迫る！

聞き手／松下ミワ　試合写真／乾晋也

——今回はですね、DREAM中継解説のお二人に……。

TK　ちょ、ちょ、ちょっと待ってくださ い。（勢いよく立ち上がり）小鉄さん、お疲れさまです！！

（なんと、ここでかわいいワンちゃんを連れて買い物中の山本小鉄さんが登場！）

一同　あっ、お疲れさまです！！

小鉄　あれれ、お疲れさま！　この前ね、◎▼□×○△■◇……ハハハハッ！（あまりにも早口のため聞き取れず）。では、どうもね！

（取材をした喫茶店の隣にあるコンビニへと消えていく小鉄さん）

元気　な、なんで小鉄さんがこんなところに……？

TK　小鉄さんはこのへんに住んでるんだよね。

元気　いやぁ、ビックリしました（笑）。

——いきなり〝解説の神〟が降臨したところで、今日のお二人に語っていただくテーマはまさにその〝解説〟です（笑）。4月に『DREAM・8』が名古屋で行なわれましたけど、『kamipro』編集部では、名古屋に行って試合を観た編集部員と、会社に残ってPPVで観た編集部員とに分かれたんですね。そうしたら、会場で観た人間とPPVで観た人間との温度差が微妙に違ったんですよ。

TK　ほうほう。

——というのは、PPVのお二人の解説が抜群におもしろい、と。

元気　煽りVで髙阪さんが甲冑を着ながら技術解説していたし（笑）。

TK　フハハハハ！

元気　凄い衝撃でしたよね（笑）。でもあれ、煽りVなんでツッコミようがないんですよ。それに、煽りVが終わったらもう入場とか試合が始まるわけですから、そのことについてコメントする隙がないんですよね。

——それが逆に、「どうして誰も何も触れないんだろう？」って凄く印象に残りました（笑）。

TK　あれはボケたまんまにしておく、放置プレイ的な感じで終わらせるという狙いがあったんだよね（笑）。

元気　なんのためになんのために!?（笑）。最初、笑っていいものかどうかわからなかったんですよ。髙阪さんの様子を見ながら、「もしへんなこと言ったら、髙阪さんキレるんじゃないか？」とか。

TK　そうだろうね（笑）。

元気　そうしたら隣でボソッと「……嫌いじゃないんだよね」って言ったときに、「あっ、ツッコんでいいんだ！」って（笑）。

TK　フハハハハ！　嫌いじゃなくなってきちゃったんだよなぁ、ああいうのが。

——甲冑姿で真顔でシャドーしてましたね（笑）。

TK　あのシャドーは大変だった。完全武装なだけにめちゃくちゃ重いんだよね。ちなみにあの甲冑は、時代劇で西田敏行さんも着てた由緒正しいものみたい（笑）。

元気　暗い中、ライト一つでシャドー……たぶん、佐藤（大輔）さんが遊びたくなったんでしょうね（笑）。

TK　そうだと思う（笑）。そこらへんのベクトルがいまのボクのベクトルと合致しちゃったので、「やりましょうか」と。半分、選手には悪いなと思いつつ、ちょっとしてやったり感もあったね。

——総取りでしたよ（笑）。

TK　言っておくと、あれは地上波では流れなくて、PPVのみ流れるんだよね。

元気　PPVならではのアプローチというか、ああいう遊びはあったほうがいいですね。

——今後の展開にも期待してます（笑）。だいぶ話は脱線しましたが、大会を重ねるごとにPPVでのお二人の解説、チームワークがさらによくなってきていると実感しているんですよ。今日は、そのあたりについてどのように考えていらっしゃるのか聞きに来ました。

元気　ボクはもう、髙阪さんについていってるだけですからね。ついていってるというか、髙阪さん、なんでそんなにしゃべりがうまいんですか？

TK　いやいやいや、やめてよ、元気ぃ（笑）。

元気　失礼ですけど、あまり解説がうまいというか、そういう器用なイメージがボクの中では正直なかったんですけど、髙阪さんの解説はほんと的確で凄いなって思います。なかなかあのように見たものを理論立てて話すのは難しいですよ。ボクはそれを〝TKアルゴリズム〟と呼んでいるんですけどね。

——〝TKアルゴリズム〟!?（笑）。

TK　それはね、解説を始めてからできるようになったんじゃないんだよね。シアトルにいたときは、思いどおりにいかないことのほうが多かったの。日本で日本人選手と練習しているときは、相手がヘビー級の選手であったとしてもそんなに力負けもしなかったしガッチリやられることもなかったんだけど、モーリス（・スミス）のところとかマット（・ヒューム）のAMC

TKのおもしろすぎる技術解説と、"驚き屋"に徹する元気のハイテンション解説の息の合い具合といったらもう抜群。付加価値という点でいっても、生観戦に勝るとも劣らないクオリティだ。

髙阪さんの理論的な解説をボクは〝TKアルゴリズム〟と呼んでます（元気）

必要以上にリアクションしてる元気は「すげえな！」って思う（笑）（TK）

とかで練習すると、もう、普通にやっても敵わないんだよね。そのとき「どうすればいいのか？」と考えるようになって、動きや技をノートに書いていったのが始まり。

——そこで理論的に組み立てる習慣がついたんですね。

TK　そう。動きや技というのは普段、自分の頭の中にかたちとして入っているものなので、あえて言葉にする必要はないし、言葉にしようとしてもなかなかうまくできないんですよね。けど、頭の中にあるビジョンをなんとか言語化していってノートに書いていった。それを繰り返し繰り返しやっているうちに、だんだんと見たビジョンをそのまま言語化することができるようになっていったんですよ。要は、三次元のものを二次元に変換できるようになったと。

——はあ～、現役時代の努力が解説上手につながっているんですね。

TK　会場で観ている人たちはリングで闘っているのを立体（三次元）的に観ているんですけど、それが映像になった瞬間、当然平面（二次元）になりますよね。視聴者は平面的に観ている。同じ動きでも、会場では見える（わかる）んだけど、平面だと見えない（わからない）部分も出てくるんですよ。

——そのような展開というのは？

TK　寝技のときが多いですね。動きが止まっているように見えるから。だから、そこは注意してきちんと伝えるようにしていますね。

元気　寝技は角度によって見え方が全然変わりますからね。それにしても、そこまで意識してるとは……。ボクなんか、目の前のモニターしか見てないですからね。リングサイドにいるのに平面でしか観てないという（笑）。

TK　フッハハハハ！

元気　あの〝TKチャート〟とかも絶妙ですよ。あれ、髙阪さんの発明ですし。

——そんな元気さんの解説の磨き方というのは？

元気　ボクは……ないです（笑）。

——そうなんですか？（笑）。

元気　ボクは普通に楽しんでるだけですからね。ここに髙阪さんがいるから言うわけじゃないですけど、隣に髙阪さんがいるからできてるんですよ。髙阪さんがいないと技術的なことも言わないといけないし、かといってそんなに技術的なことも言えないですからね。

——さすがにそんなことはないと思うんですけど。

元気　いやいや、やはりもう、（格闘技から）少し離れていますからね。でも、髙阪さんはいま、なんだかんだ言ってAスクエアで現役に近いくらい練習していますし、だから旬の技とかも全部知っている。だからあのように的確なことを言えると思うんですよね。やっぱり離れると、どんどん変わってきている技とかはどうしても……。

TK　確かにね。

元気　たとえば、ある選手がパウンドを打ったとして、「このパウンドの打ち方というのは、いまどこの誰という選手が得意としていて……」というのを、髙阪さんは体感もしてるし頭の中にも入っているからさらっと言えるんですよね。ボクはいかに格闘技を知らない人たちによりおもしろおかしく伝えるというか、髙阪さんといかに温度差をつけるかなんですよ。

——役割分担がしっかりしているんですね。髙阪さんが具体的な技術解説、元気さんがいわゆる〝驚き屋〟というポジション。いままで髙田さんだったり谷川さんとかがやってきた役割的なほうに、元気さんがドンドン行ってるというのはやはり意識してのものなんですね。

元気　そうですね。極端に言うと、驚かないところでも驚くのが仕事です（笑）。

——そうなんですか（笑）。

元気　やはり、現場にいるこっちが興奮すると、視聴者も興奮すると思うんですよね。だから、実際に格闘技をやってたりとか詳しいファンからすれば、ボクの存在ってたぶん煙たいと思うんですよ。なぜなら必要以上にリアクションが大きいから。とりあえず何か大きな動きがあれば、「うぉ～！！！！　なんだいまのはぁ～！！？？」って言ってますけど、ボク、普通に格闘技やってましたからね（笑）。

TK　そういうときの元気を見ていて、「すげえな！」って思う（笑）。

元気　「そこまで騒がなくてもイイだろ!?」って思うかもしれないですけど、そのリアクションってもの凄く重要なんです。さっき髙阪さんが言われたように、三次

『DREAM.8』では甲冑姿で煽りVに登場し、ひそかに度肝を抜いたTK。TKいわく、「甲冑シリーズは今後もどんどん続いていく」そう。TKチャートとともに、今後はPPVの名物となりそうだ。

須藤元気×髙阪剛

ネタばらしをすると、打ち合わせの段階で感情移入する選手も分けてます（元気）

元と二次元で全然印象が違うんですよ。ボク、テレビの仕事もたまにさせてもらっているんですけど、実際にスタジオでやっていたことが、テレビで観るとまったく違うように見えるんです。たとえば、料理を食べるシーンとかで、食べて普通においしくて、「あっ、おいしい！」と言うじゃないですか。（手元にあるアイスコーヒーを手に取り）いいですか？　「あっ！おいしい!!」。このリアクションだけで、おいしそうに見えますよね？

――見えます、見えます。飲みたくなってきました（笑）。

元気　でも、これではテレビ、二次元ではリアクションがもの凄く薄く見えるんですよ。だから二次元でこのおいしさを伝えるには、飲んだときに「うぉ～!!」って目を見開いて、「これはヤバイっ!!」って身体をのけぞらせながら大きな声で叫ぶくらいじゃないと、テレビ、二次元の世界だと、全然伝わらないんです。普通に見えるリアクションでも、タレントさんってみんな現場ではそのくらいのリアクションしているんですよ。そのくらいのリアクションをして初めて伝わるんです。

――やっぱり声のトーンとかも変えているんですか？

元気　ボクはもともと高い声なので抑えめでやるときもあるんですけど、ただ格闘技の場合は興奮しているから、（声を裏返して）ちょっと高いトーンでいいのかなぁと。

『DREAM.8』池本戦の試合中に突然バク宙を披露したザロムスキー。「なんの意味があったのかわからないですね！」と興奮気味の元気に、「長いこと格闘技を観てますけど、あんな技は初めて観たなあ！」と合わせるTK。やっぱり抜群のコンビネーションだ！

――凄い！　声が高くなった！

元気　髙阪さんはけっこう、トーンを変えず淡々といきますよね。

TK　うん。読みもので言うと、必要な情報の部分を与えるときって、あまり「！」マークがたくさんついてるよりも、さらっとした感じのほうが伝わったりするじゃないですか。〝耳にすんなり入ってきたんだけどちょっと引っかかる〟みたいな感じがあると、同じような場面が次に出てきたときに役立つんですよ。サブリミナル的というか。

――「あっ、それ、さっき言ってたな」みたいな。

TK　そうそう。

元気　解説者らしい解説ですよね。あと、ネタばらしをしちゃうと、二人とも同じ選手に肩入れしないように、打ち合わせの段階から感情移入する選手を分けてるんですよね。

――へえ～！　そうだったんですか。

元気　そういう役割分担というのも、じつはちゃんとやってるんですよ。

――なるほど。ちなみに、解説者として解説しにくい試合ってあるんですか？

TK　言ってしまうと、解説しにくい試合のほうが、じつは多い。というのは、なんらかの動きがあったときに、ある程度、自分の頭の中に入っている情報で次の動きが予測できるんで、先に「これはこうなって、こういうことを狙っています」ってしゃべりすぎちゃうんですよね。

――ああ、次の展開がわかってしまう、と。

元気　寝技でじっくり攻めるような展開がそうかもしれませんね。

TK　そう。たとえば、寝技で下になっている選手が、ただ抱きついているように見えるけど、足をちょっとずつジリジリ上げていくと三角（絞め）か腕ひしぎしかない。でも、それを言ってしまうと観ている人にとってはおもしろくない。でも、言わないで黙っているのもダメだし……。だから、しゃべりすぎてしまうかもってときはタッチパネルを使って、たとえば腕にポイントをつけて「いま、この腕に○○選手は腕十字をかけようと狙っています」と言って、あとは観ている人に考えてもらおう、と。そうしたら、観ている人は「どうやって腕を取るんだ？」と考えますからね。だから、あのパネルを使っているときは、あまりしゃべっていません。

元気　ボク的にはあまり解説しづらいというのはないですね。ボクはさっきも言ったようにオーバーリアクション担当なので、自分が楽しんで、「須藤元気、楽しんでるな！」というのが観ている人に伝われば、「格闘技って楽しいんだ」って思ってもらえると思うんですよ。実際、楽しんでますしね。

――では、元気さん的により楽しめる試合というのは、どんな試合ですか？

元気　池本（誠知）さんのダブルパンチとか、ザロムスキー選手のバク宙とか、そういうのがあればあるほどよりテンションは上がりますよね。ああいうちょっと変わった技とか、ボク、大好きなんですよ（笑）。

――現役時代はトリッキーな技を好んで使ってましたもんね。

元気　だから、一般の視聴者が楽しめる試合はボクもしゃべりやすいです。逆に膠着とかで観ている人がつまらない試合は、解説しづらいというか、そこは髙阪さんがいてくれますからね。

TK 元気の場合、「こうやられたらイヤなんですよね」と問いかける感じが凄く効果がある。たとえばガードの場面で、視聴者は何も動きはないように見えるときに、ガードしてる人間が相手の頭を抱えているのを「あそこに手が一本かかってるだけでイヤなんですよね」とか、そういう一言を挟むだけで全然違う。

元気 そのあとは髙阪さんに丸投げ、みたいな（笑）。

——ちなみに、『DREAM・8』には解説席には山本KID選手がいらっしゃいましたよね。

TK あのね、KIDの解説はおもしろい感じがするけど、ヘタではないですよ。とくにノーカットのPPVで観てもらえばわかると思うけど、「KID、わかるよ！」っていうようなことをけっこう言ってる。野生の勘なんだよね。「ここは立ちでいったほうがいいと思うな」とかポロッて言うでしょ。あれって感覚的な言葉ですよ。実際、試合が終わったあとに、「KIDの言うとおり、あのままスタンドでいったほうがよかったな」とか、そう思う試合ってけっこうある。そういう意味では、KIDの人間性も見えておもしろい。

元気 実際にやっている側の生の言葉なんで説得力があるんですよね。

TK 頭で考えて出た言葉じゃなく、自分の肌感覚の言葉だよね。

元気 「KIDさんの解説はヤバイ！」って声をよく聞くんですけど、そこはやっぱりプロだなって思いますね。みんなにちゃんと余韻を残すというか、反響を与えるというか。

——この前の「キモくて強いより〜」というのも、相当な反響があったみたいですからね（笑）。

元気 あっ……やっぱり反響、凄いんだ。

TK あれはKIDじゃなきゃ言えないよね（笑）。

——解説席も一瞬シーンとしてました。

TK でも、それも含めてKIDの解説のよさだからね。

——そのキモくて強い青木選手もたまにDEEPで解説されていますけど、本当にわかりやすいですよね。現役選手でいえば、魔裟斗選手もそうですし。

元気 魔裟斗くんもどんどんうまくなってますよね。けっこう真っすぐな人だから、気の利いた言葉選びをするタイプじゃないけど、最近の解説を聞いていると凄く的確な言葉選びをするんですよね。

——それは何か要因があるんですかね？

元気 やっぱり"慣れ"というのが大きいと思いますよ。あの席でマイクをつけてしゃべるというのは、慣れないとうまくできないですからね。

TK そうだね。慣れないと、ちゃんと俯瞰で試合を観られないからね。格闘技は常に動き続けるからどんどん場面が変わっちゃうんで、追いつけなくなっちゃう。追いかけていたら試合が終わっちゃったりする。でも、慣れてくると、「いま、この情報は必要だったんだけどしょうがない」と、スパッと切り捨てることができるようになるんです。

——説明してるあいだにもどんどん場面は変わっていくわけですからね。

TK 全部を説明するって不可能なんで、やっぱり慣れ。自分たちも"慣れ"ですよ。

——これも"慣れ"なのかもしれないですけど、最近お二人の解説は抜群のチームワークが伝わってくるんですよ。やっぱりそういう自覚ってありますか？

髙田さんは興奮するとバシッと自分の太股をガッチリつかんで……（TK）

マッハvs青木戦で「キモくて強いより、カッコよくて強いほうがいいっすね！」と、"ぶっちゃけ解説"を披露したKID。TKいわく「KIDにしかできない解説」ということだが、感性で言葉を発するだけに、KIDの解説はどこか興味深く心に引っかかるものが多いのだ。

元気 それは何回もやっていれば、ねぇ。

——なので、お二人の解説の息の合い具合があまりにも素晴らしくて、中にはお二人の関係を疑う人間までいるんです（笑）。

TK フハハハハハハハ！

元気 やっぱりバレてしまいましたか！

——編集部からこれだけは必ず聞いてきてと言われたもので。

元気 どういう雑誌ですか！（笑）。

TK 「中にはお二人の関係を疑う人間」って、あきらかにおたくの編集部だけでしょう（笑）。

元気 まあ、あえてここはノーコメントにしておきましょう（笑）。

——いまのやりとりも息がピッタリですし（笑）。DREAMが始まる前は、解説といったら、PRIDEは髙田さん、K-1は谷川さんというイメージが強かったですよね。髙田さん、谷川さんの解説についてはどう思われますか？

TK 自分はPRIDEで髙田さんと解説を組んでましたけど、髙田さんの解説は味があってよかったですよ。あの、ちょっと話が飛んじゃうけど、髙田さんと組んで解説していたときに、その二人だけを映すカメラをつけてほしかったんですよ。髙田さんは興奮するとバシッと自分の太股をガッチリつかんで、「どうなのよ、これぇ!!」って叫びますからね（笑）。

元気 ハッハハハ！

——画面には映ってないところで（笑）。

TK そう（笑）。たとえば、十字が極まりそうだったとするとバシッとつかんで、「どうなのぉ!? これどうなの、TK!!」って。で、自分が「これはまだ大丈夫ですね」と言うと、「あっ、そうなんだ、うん」って何ごともなかったかのように手を離すんだよね（笑）。肩をつかまれ揺さぶって「どうなのぉ!?」って言われたときもあったし、ほんと髙田さんとは楽しく仕事させてもらいました。

「なんだよそれ、谷川！」って言う人は逆に谷川ワールドにハマってる（元気）

―髙田さんはホントに典型的な〝驚き屋〟ですよね。

TK そうですね。だから、PRIDEのときもちゃんと役割分担できてましたね。自分は髙田さんのところには入っちゃいけないと思って、そこには絶対に入らないようにしてました。

―谷川さんもやっぱり、ちょっと意図的な部分もありますが、〝驚き屋〟ですよね。

元気 谷川さんのスタイルは、ボク、凄く参考にさせてもらっていますね。やはりK―1のプロデューサーとして長いですし、格闘技界をここまで盛り上げたのって、谷川さんの独特なプロデュース能力によるところが大きいですからね。

―いわゆる〝黒魔術〟というか（笑）。

元気 はい（笑）。ここまで格闘技の裾野を広げた手腕って凄いと思うんですよ。テレビ解説という部分で言うと、ああやって必要以上に驚いたり感心したり、観ている人の感情に訴えかけるようなアプローチにあると思うんですね。そこは凄く勉強になります。

TK 一般視聴者目線だよね。

元気 逆にコアな格闘技ファンに対しては、谷川さんのヒイキしてないようでヒイキしてたりすることを感じ取ったりとか、そっちでも流れが作れる。だから、そのヒイキに「なんだよそれ、谷川！」って言う人は、逆に谷川ワールドにハマってるんですよ。

TK あぁ、なるほどね！

元気 谷川さんの言ってることに対して反発を覚えるというのは、もう谷川さんの黒魔術の術中にハマっていると思います。格闘技を知らないファンに対しては驚いたり関心して惹きつけて、逆に格闘技ファンに対しては反発させることによって流れを作る。いやぁ、見習っていきたいですね（笑）。

すどう・げんき■1978年3月8日、東京都出身。海外修行のために98年に渡米。99年に帰国し、パンクラスを経てK-1、『HERO'S』などのメジャー団体で活躍。実力もさることながら、変幻時代のファイトスタイルや入場でファンを魅了した。06年『Dynamite!!』を最後に現役を引退。また、『幸福論』『風の谷のあの人と結婚する方法』などを執筆活動も展開。DREAM解説では見事な"驚きっぷり"に要注目。

こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。93年にリングス入門、UFCには日本人初のレギュラー参戦者として通算5回出場。PRIDEには、05年4月3日『PRIDE武士道ー其の六ー』から出場し、06年5月5日PRIDE無差別級GP1回戦のマーク・ハント戦を最後に引退。現在は総合格闘技道場アライアンス・スクエアの指導者として活躍するかたわら、名技術解説者として引っぱりだこ。DREAMでは"甲冑解説"でおなじみだ。

須藤元気×髙阪剛

―黒魔術を継承しますか（笑）。あの、最後にお聞きしたいんですが、解説をされているときに自分もやりたくなるときってありませんか？

元気 ボクはもともと目標があって現役を退いたので、そのへんはないですね。格闘技を引退してから何をやろうかなと考えたら、現役復帰したくなるのかなとは思いますけど。でも、髙阪さんは言葉にしませんが、ひしひしとやりたくなっているのを感じてます（笑）。

TK フハハハハ！

元気 何が凄いって、解説する前にスーツに着替えるんですけど、髙阪さん、すっごいマッチョなんですよ！

TK 何を見てるんだよ（笑）。

元気 （無視して）たぶん、現役時代よりキレてますよ！ ねえ、髙阪さん。

TK じつはいまのほうがすっごい体調がいいんだよねぇ（ニヤニヤ）。

元気 ボクの中で、いま一番復帰してもらいたい選手ナンバーワンが髙阪さん。髙阪さんは道場主だから、選手を育てるという親としての立場があるから復帰をためらってると思うんですけど、菊野（克紀）選手という一人のチャンピオンを出したわけですから、もうそろそろいいんじゃないですか？ いつ復帰します？

TK もう元気ぃ、やめてよぉ～（笑）。

―疑惑がさらに深まったところでお開きにしたいと思います（笑）。

【09年5月10日／Aスクエアにて近くの喫茶店にて収録】

ウー、クマクマンボ!

格闘技マスコミの大御所

熊久保英幸のスケベ声解説とは何か?

リング上の闘いを、より視聴者が楽しめるように伝える役割を持つ解説者。個性豊かな面々が言葉を武器に試合を彩っている。中でもさまざまなイベントに引っぱりダコなのが、格闘技記者歴20年を迎える熊久保氏。その特徴ある“クマクマンボスタイル”の秘密を探る!

聞き手／鈴木 佑

──熊久保さんが解説するときの声って、本当に印象的ですよね（笑）。

熊久保　あ、絶対にバカにしてるでしょ?

──いえいえ、何をおっしゃいますやら。普段の口調と違ってなんか上ずってるかな、と。

熊久保　え、上ずってます? よく早口とか噛んでるとは言われますけど。

──声がいまにも裏返りそうというか、ズバリ言って「スケベ声」と言いますか（笑）。

熊久保　……あなたはいったい何を言ってるんですか?

──（無視して）今日はその「スケベ声」の真相に迫りたいと思います! そもそも熊久保さんの解説デビューというと?

熊久保　おそらくWOWOWのリングス中継だと思います。93年12月の『バトルショットat新潟』で、メインは前田日明vs長井満也でしたね。

──時代を感じさせる試合ですね。解説のオファーは当時『ゴング格闘技』の編集長だったということで?

熊久保　そうですね。もともとリングスは『格闘技通信』の編集長だった谷川（貞治）さんが解説をやってたんですよ。でも『格通』のある記事で前田さんが怒ってしまい、それで僕にお鉢が回ってきた、と。

──解説をやるうえで心配はなかったですか?

熊久保　全然!（即答）。むしろやりたかったんですよ、解説に憧れがあったんで。そもそも僕は目立ちたがり屋で俳優を目指してたくらいですから。

──俳優志望!? それは思いも寄らない衝撃の事実ですね。

熊久保　あのね、僕は高校の頃は女子から坂上忍に似てるって評判だったんですよ!

──えーと、あなたはいったい何を言ってるんですか?（笑）。

熊久保　（無視して）で、高校のときの友だちで劇団に入ってるやつがいて、長渕剛主演のドラマに出演してたんですよ。それを見たときに「あいつ、輝いてんな。でも俺のほうがイケるんじゃないの?」って。僕は松田優作が好きだったので、ああいう俳優になりたいと思ってホームビデオで自主映画を……（以下、俳優への想いを延々と語るが大幅に省略）。

──以上、読者がまったく興味のないお話でした（笑）。解説をやるうえで参考にした人はいましたか?

熊久保　竹内宏介さんですね。竹内さんのようにライターと同時に解説もこなすのが一流だと考えてたんで。『全日本プロレス中継』で竹内さんが、悪役レスラーに反撃するミル・マスカラスに「やっぱりマスカラスですね〜!」って言ったことがあったんですけど、それを観たときに「解説ってカッコいいな〜」って思ったんですよ。あと、僕を解説に駆り立てたものといえば谷川さんへのジェラシーですね!

──ライバル雑誌の編集長ですもんね。

熊久保　当時、谷川さんがテレビで解説をすることで『格通』も売り上げを伸ばしてたんですよ。それで自分もああいうふうに広告塔にならないと『ゴン格』も売れないんじゃないかと思って。でも、やっぱり見るのとやるのとは全然違って、解説をやり始めた当初は悲惨でしたね。そのときに初めて自分が噛むってことを知ったんですよ。もともと早口なんですけど、しゃべってるあいだに試合が進んじゃうと思ってよけいに早口になるわけです。すると、より噛む率も上がって。最初、実況の高柳謙一さんは「この人とやっていけるのかな?」って思ってたみたいですけど。

──それは谷川さんと比べて?

熊久保　そうです。谷川さんは解説も普段のノンビリしたしゃべりと変わらないんですよね。僕の場合は意気込んでかっこつけようと思ったら空回りしちゃって。で、2回目が『バトルディメンショントーナメント'93』で決勝戦は前田vsビターゼ・タリエル。それがいきなり生中継だったんですけど、もう生って聞いただけで『ザ・ベストテン』みたいだなって興奮して興奮して……（以下、リングス中継の思い出を延々と語るが大幅に省略）。

──リングスは熊久保さんの青春だったんですね。ちなみにいまはどういった中継の解説を?

熊久保　サムライTVではDEEP、ケージフォース、ジュエルス、ヴァルキリー。キック系だとニュージャパンキックボクシング連盟、GAORAでRISE。あとは単発で禅道会とかHEAT、試合DVDでもたまにやっていて、だいたい月に2〜3本は解説してますね。

──マスコミじゃダントツですよね。

熊久保　そのわりにいまだに噛むっていう。まぁ、でもそれは僕の持ち味ですから（笑）。あ、あとは地上波でも

アイドルをゲストに迎える、それが解説者としての僕の夢です！

解説をやったことありますよ。シュートボクシングをテレビ東京でやったのと、ケージフォースを東京MXテレビで。これ、ちょっとした自慢なんですけど、一応僕はNHK以外の地上波に全部出てるんですよ。日テレは『スッキリ！』に朝青龍の格闘技転向騒動のときにコメンテーターとして……（以下、自分の出演番組に関して延々と語るが大幅に省略）。

――は〜、さすがターザン山本！さんと並んでマット界関係者で『テレビスター名鑑』に載ってるだけありますね（笑）。熊久保さんが解説をやるうえで心がけてることは？

熊久保 僕が解説に必要だと思うのは「選手のデータに詳しい」、「技術論がしゃべれる」、そして「視聴者を笑わせられる」、この3つなんです。いまそれをすべて満たしているのはボクシング中継のジョー小泉さんだと思うんですけど。

――ボクシングマスコミの大御所ですね。

熊久保 なんといってもジョーさんはギャグが冴えてる！ たとえば、リプトンっていう名前のレフェリーが試合でブレイクをかけた瞬間、ジョーさんは「リプトンだけにお茶を入れたんですね」ってスパっと気の利いたセリフが出てくるんですよ。あれは死ぬほど笑ったな〜（シミジミと）。

――そうですか（笑）。

熊久保 格闘技中継ってシリアスなものだし、観る側も緊張するじゃないですか？ そこを一瞬やわらげるものがあったほうが、より視聴者に楽しんでもらえるんじゃないかと思うんですよね。だから、僕も解説の中で2回は笑わせたいな、と。小ネタを用意することもあるんですけど、なかなかジョーさんのようにうまくいかないですね。それに高柳さんだと「また熊久保さんのオヤジギャグが出ました」って感じでうまく拾ってくれるんですけど、けっこうスルーする実況の人もいますしね……（寂しそうに）。

――それは切ないですね〜。

熊久保 あと、解説の役割として重要なのはいかに視聴者を盛り上げるかってことですよね。いわゆる絶叫するような実況スタイルって古舘伊知郎さんが作ったものだと思うんですよ。で、解説も実況と一緒になって興奮して叫んだら、いまリング上で凄いことが起きてるんじゃないかって視聴者も意識するんじゃないかな、と。

――だから熊久保さんも解説で声を張り上げたりするわけですね。

熊久保 そういうことです。いま、格闘技中継ってゲスト解説として選手や引退した選手が座るじゃないですか？ やる側であるゲスト解説が冷静に語って、視聴者と同じ観る側である実況と解説が盛り上げるっていうのは中継の理想型だと思いますけどね。だから僕の声が上ずるのも意識的なんですよ。気分が高揚してくるからこそ声が裏返るんです！ もっと言ってしまうと声が裏返るっていうか、僕はもともとバンドマンだったのであればファルセットボイスなんですよ。

解説時はオールバックにスーツという凛々しい格好の熊久保氏。古武術からZSTガールの3サイズまで、業界随一の格闘技の知識量を誇り、選手や関係者からの信頼も厚い。ブログ「熊久保英幸のGBR格闘技日記」http://blog.livedoor.jp/gbrkuma/

Kumakubo hideyuki

――ものは言いようですね（笑）。

熊久保 いやいや、ちゃんとドラム叩きながらコーラスやってたんですから！ だからあれは特殊な技術なんですよ（ニヤリ）。

――（無視して）熊久保さんから見て解説がうまいと思う選手は？

熊久保 TK（髙阪剛）はリングス中継の頃から抜群にうまかったですよ。もともとしゃべりが得意で、細かい技術も的確に伝えられますし。あとは郷野聡寛選手もユーモアがあって上手ですね。それと魔裟斗選手と青木真也選手！ この二人は見てるところがけっこう細かい。中には「俺でもできるよ」って思ってる選手もいるかもしれないですが、視聴者に伝えるのって本当に難しいですからね。

――解説の感想を周りから言われることはありますか？

熊久保 ありますよ。たとえばDEEP中継で長南亮vs桜井隆多のタイトルマッチがけっこう接戦だったんですね。で、最後に長南選手がスイープで引っくり返したときに、僕が「このスイープは大きいー！」って絶叫したんですよ。それはあとから佐伯代表が「あれで試合が決まったっていうのがよくわかった、素晴らしかった」って絶賛してくれましたね。そういうときは嬉しいですよ。

――解説者冥利につきるというか。

熊久保 はい。まぁ、あと僕の解説者としての夢はアイドルがゲストに来ることですかね（真剣な表情で）。

――……唐突に何を言ってるんですか？（笑）。熊久保さんのアイドル好きは業界関係者には有名ですけど。

熊久保 いまのところ僕が望むアイドルがゲストで来てないんですよ。リングスのときはつのだ☆ひろさんや糸井重里さんとか男性ばっかりで。いまだったら北乃きいちゃんに来てほしいですね！ それとイチ押しなのは元ZONEの西村朝香ちゃんです！ そもそも僕がアイドルを好きになったきっかけは河合奈保子で……（以下、アイドルトークを延々と語るが大幅に省略）。

――熊久保さん、解説のときばりに声が上ずってますよ（笑）。

熊久保 だからね、アイドルを横に解説したらもっとテンションが上がって、試合の興奮をより視聴者に伝えられるってことですよ！

――それは試合の興奮じゃなく熊久保さん個人の興奮ですよ（笑）。で、結論としてご本人的には自分がスケベ声だという自覚は……。

熊久保 （さえぎるように）ないですよ、心外ですよ！ あなたはいったい何を言ってるんですか？

――わかりました（笑）。ということで、今日はスケベ声解説でおなじみの熊久保さんにお話をお聞きしました！

熊久保 だからあれはファルセットボイス！ 高等技術なんですって！ ■

【09年5月6日／都内・ヨシクラデザインにて収録】

くまくぼ・ひでゆき■1967年6月23日、東京都出身。元『ゴング格闘技』編集長。現在は格闘技WEBマガジン「GBR」の編集長を務める。GBRでは最新ニュースと試合速報はもちろん、試合やスパーリング、選手が自分の一日を紹介するビデオ日記、テクニック分析などが動画で見られる。インタビューやコラムなども充実、クマクマンボのコラムも読めるぞ！ http://gbring.com

解説界の征夷大将軍!

山本小鉄 解説神話

小鉄はマット界最狂のファンタジスタである!

解説特集のトリを飾るのはやっぱりこの人! マット界きっての名解説者・山本小鉄である。昭和新日本において数々の夢を与えてくれた小鉄解説の魅力とはいったいなんだったのか。これを機にあらためて分析してみた。

文／井上崇宏（THE PEHLWANS）　写真／平工幸雄

あのね古舘さんッ!

「ねえねえ、僕はお母さんのお腹から産まれたのに、どうして顔がちょっぴりお父さんに似ているの?」

ある日の昼下がり、人間もほかの動物と同じく交尾をしているのだということを知らなかった幼少期の僕は、こんな素朴な疑問を祖母にぶつけた。それに対し祖母は洗濯物をたたみながらしばし黙考したのち、こう答えた。

「うーん、お母さんがお父さんのことを好きすぎて、いつもお父さんのことばかり考えていたから、お腹の中にいたアナタにその気持ちが移っちゃったのかねえ?」

「そっ、そんなにも好きッ⁉」

のちにこの祖母の立てた仮説が、完全なるファンタジートークだったことに気づくのにたいした年月はかからなかったが、確かに母は好きすぎて父と交尾をしていたのだろうから、「ファンタジーなれども真実は遠からず」といったところだろう。

「じゃ、じゃああれは? 中国残留孤児の人たちはもともと日本人なのにどうして中国人っぽい顔立ちをしているの?」

「それもたぶん、自分を我が子のように育ててくれた中国人の人たちに対しての感謝の気持ちが強すぎて、似ちゃったんじゃないかしら?」

あると思います! なぜなら僕も山本小鉄のファンタジートークが好きすぎて、のちに永遠の小鉄ボイス（クリソツの小鉄モノマネ芸）を手に入れた不思議体験の持ち主だからである。

顔は親父似で声は小鉄。一人の男の声帯にまで変調を与えた小鉄のファンタジートークとは何か? たとえばこんな調子である。

猪木vsブロディ運命の対決・第6戦目。先にリングインをはたした猪木に対し、ブロディは一向に姿を現わす気配がない。いたずらに時間だけが経過していき、ただただリング上で立ちつくすのみの猪木。そして実況の古舘伊知郎も「おお〜っと、ブロディが一向に出てこない! こ

昭和新日本、猪木プロレスの最強幻想は小鉄によって保たれ続けた

れは前代未聞のハプニングです！」とこの異常事態に動揺を隠せない様子だ。ざわめきから、ついにはしらじらしい空気が流れ始めた東京体育館。こんな難局を誰よりもはやく収束に努めたのが我らがファンタジスタ、放送席の小鉄だった。

「あのね、古舘さん！ こ、これ、一流のレスラーがよくやる手なんですよッ！ アメリカに〝宮本武蔵を決め込む〟なんて言葉があるのかどうかわかりませんけどねッ、ようは相手をじらす作戦なんですよ！ これに猪木選手がイライラしちゃうとちょっと危険ですよッ……！」

真相は試合直前までギャラの額に納得していなかったブロディが、控室で入場をゴネまくっていただけである。一度、状況確認のため放送席を離れ、ブロディの控室へと走った小鉄がこの事実を知らなかったはずはない。

（適当な嘘をついて、その場を切り抜けて、誰一人傷つけない、金曜日よりの使者。シャラララ！）

そう、小鉄はプロレスが好きすぎて、プロレスとプロレスラーを守るためなら咄嗟にファンタジートークがいくらでも口をついて出てしまう特異体質なのであった。

また、小鉄は〝ディテール王〟でもあった。

僕の持論では、名解説者とはいかにいい〝小話〟を持っているかということにつきると思う。

元選手だったからこそわかる、試合に臨むファイターたちの心理状態や戦略、テクニックとコンディション。はたまた、プロモーターにしかわからないであろう対戦実現に至るまでの背景秘話やファイターのモチベーションうんぬん。これらをマスに向けて伝えることが格闘技解説者のおもな役どころとなるのだろうが、ただそれだけではおよそ名解説とは言いがたい。

「ディテールを覚えろ。〝小話〟の売りはディテールだからだ」（クエンティン・タランティーノ監督・脚本『レザボア・ドッグス』より）

おとり捜査のため、宝石強盗を企てる名うての強盗団に仲間として潜入せんとする警察官（ティム・ロス）に、同僚の黒人刑事はこう仕込んだ。昔、マリファナの売人をやっていたという設定で、売人時代のこぼれ話を緻密なディテールを挟みながら強盗団の一味に語ることで、彼らに自分は同じ穴のムジナであるということをダメ押しで再度認識させるためだ。

思えば、小鉄の解説もこの〝ディテール〟が最大の売りの一つであった。「鉄板の小話をたくさん持っている」から〝小鉄〟。

プロレスとはおそらく、いまも昔も世間からは八百長まじりのB級スポーツだと思われているのだろう。

80年から『ワールドプロレスリング』で実況&解説席に座っていた伝説のコンビ、古舘伊知郎&山本小鉄。あの神がかった古舘の実況と小鉄のファンタジーあふれる解説は、いま考えても奇跡だ!

とかく世間は〝ガチンコ性〟を好む傾向にある。そこで小鉄はプロレス＝ガチンコであることが前提の解説を心がけようと一計を案じた。

（ディテールを伝えよう。〝ガチンコ〟の売りはディテールかなって気がするからだ）

ディテール重視の解説でプロレスというジャンルが持つあらゆる側面を全面的に肯定する。それが小鉄の解説におけるテーゼだったに違いない。この妙案に気づいてからというもの、小鉄の解説はさらに加速した。

「あのね、古舘さん！ まだまだ序盤ですけどねッ、睨み合ったあと藤原選手はタイツで両手を拭いたんですね。手のひらに汗がにじんでるんですよッ！ それでですね、一方の猪木選手は右手だけを拭いたんですね。そのへんは（緊張の）差があるんじゃないかなって気がしますッ！」（アントニオ猪木vs藤原喜明／昭和61年2月6日より）

「あのね、古舘さん！ 汗の量の違いで両者のスタミナの消耗具合やダメージを決めつけることはできませんよッ！ なぜなら猪木選手はもともと汗をかきにくいんですッ。それに対して一方の藤波はふだんから汗をかきやすいッ！ あまり参考になりませんよッ！」（猪木vs藤波がらみの試合で毎回力説）

「あのね、古舘さん！ いま猪木選手の延髄斬りはかすったんじゃなくてね、あえてコツンと入れたわけですッ！ ドーンと当てるよりはコツンと当てたほうが逆に効きますよッ！」（猪木の目測を誤った延髄斬りがほぼ不発に終わったにもかかわらず、相手の選手が猛ダウンするシーンでしばしば力説）

「あのね、古舘さん！ これはさっきの攻撃で間違いなくアバラが二本折れてますよッ！」（スタミナ切れか、突如失速し始めた選手の状態について診断）

「あのね、古舘さん！ この選手は確実に体重をサバ読んでますよ！ 公称では130キロとなってますけどねッ、これ135キロあるでしょう！」（あきらかにコンディショニング不足でウェートオーバー気味の選手を、これも作戦の一つだと擁護する解説）

こうして昭和新日本、猪木プロレスの最強幻想は小鉄の解説によって保たれ続けた。『ハッスル』最大の功労者がインリン様なら、過激な猪木プロレス最大の功労者は間違いなく小鉄である。

そして平成10年4月4日、東京ドーム。一つの時代が終わりを告げようとしていた。そう、史上最強のレスラー、アントニオ猪木がついに現役生活に幕を閉じる日である。

猪木の引退試合の相手はなんと元UFC王者のドン・フライ。しかし、試合はわずか4分9秒、猪木のグラウンドコブラでフライがギブアップをするという意外な結末に終わった……。さあ、この局面ではどう出る、ファンタジスタ小鉄よ！

「何か感づかれたときは……すべきことは一つだ。しゃべり続けろ。しゃべってしゃべりまくれ」（『レザボア・ドッグス』より）

小鉄はやおら大きく深呼吸をしたあと、猪木プロレス最後の解説まとめに臨んだ。「さてと……」。

「古舘さんッ、ドン・フライはねコブラツイストなんか食らったことがないんですよ！ 作戦成功ですねッ‼」

ファンタジーなれども真実は遠からず。小鉄最高！

ト『kamipro Move』開設記念

開イベント
proの乱
2009

シャキーン、
シャキーン、シャキーン!!

マ選手権〜

合メインイベント!! リアルな闘いにご期待ください!

人生のためにならない 格闘バカシネマ講座
マッスル坂井

映画ライター・高橋ターヤン氏が発掘した古今東西B級格闘バカ映画をマッスル坂井がブッタ斬りま〜〜す!! 次々に投下されるバカ映画をあなたはいくつ知っている? 観たことがある? そして坂井はどう反応するのか?

船木誠勝自主映画作品『ザ・プロフェシー』とは何か?
菊地成孔

本誌の特集で話題騒然! 船木誠勝“監督”による自主制作映画『ザ・プロフェシー』の紹介をしながら、この怪作の発掘人にして、本誌でもおなじみの菊地氏が“マッドネスワールド”を徹底解説します。ズバリ言って凄い映画ですよ!

ん

今頃になって携帯サイト『kam

有料会員限定 公開

kamip

～スーパーハルクシネマ選

募集要項

日時　**6月20日(土)／開始予定時刻15:00**
※開演、終了時間は変更になる場合があります。

会場　**イベントスペース"WinPa(ウィンパ)"**
東京都千代田区三番町6-1 エンターブレイン2F

来る6月20日(土)、本誌携帯サイト『kamipro Move』会員限定の公開イベント『kamiproの乱2009 ～スーパーハルクシネマ選手権～』を開催します。会場は(株)エンターブレイン社屋内のイベントスペース「WinPa」です。『kamipro Move』会員登録のうえ、ご応募をいただいたお客様の中から抽選で150名様をこのイベントにご招待いたします。

※イベント内容はあくまでも予定です。やむをえぬ事情により変更になる場合がございます。

応募方法
『kamipro Move』へアクセスして会員登録のうえ応募フォームよりご応募ください。締切は2009年6月7日(日)23:59送信分までです。

注意事項
詳しくは『kamipro Move』のイベント応募フォームをご参照ください。

シャキーン! 全試合メイ

あの
ターザン山本!に
映画を撮らせてみたよ!!

おじいちゃん

"おじいちゃん"ことターザン山本最初で最後の監督作品!? 作品観賞後、堀江ガンツ、椎名基樹、原タコヤキ君ら"変態"メンバーがターザン本人を交えて作品を徹底評論します。ターザン最後の大舞台を目に焼きつけろ!　合掌。

格闘技オタク同士のDREAM×戦極、越境対談！

青木真也×ジョシュ・バーネット

オレたちの合言葉

「判定？ ダメだよ。一本じゃなきゃ！」

DREAMと『戦極』のトップ選手同士であり、プロ選手でありながら格闘技オタクでもある
二人の越境対談が唐突に実現！　先日、皇帝ヒョードルとエキシビションマッチを闘った青木と、
今夏、ヒョードル戦実現が噂されるジョシュがはたして何をしゃべったのか!?

聞き手／堀江ガンツ　撮影／吉場正和　通訳／V一

SHINYA AOKI × JOSH BARNETT

——今日はDREAMと『戦極』のトップファイター同士による夢の対談を行なわせていただきます！

青木 （ジョシュは）まだ『戦極』なんですか？

ジョシュ う〜ん、ちょっとブランクが空いちゃってるけど……たぶんセンゴクかな（笑）。

——たぶんですか（笑）。

ジョシュ センゴクでも『アフリクション』でもDREAMでもパンクラスでも、とにかくオファーを待ってるんだけど、ボクは〝タカイ〟からね。

——高い！ ギャラの高さを自己申告しますか（笑）。

青木 「俺は高いぞ」ってカッコいいですね〜。僕も言ってみたいなあ。

——ところで、お二人は面識はあるんですか？

青木 一回、ここ（DEEPジム）に練習に来てくれたんですよ。

ジョシュ ソウネ。マイフレンドのナメカワサン（滑川康仁）のトレーニングを助けるために来て、ナメカワサン、アオキサン、イマナリサン（今成正和）とスパーリングしたよ。

——へえ、青木選手とジョシュ選手のスパーリングが実現してましたか。

青木 エラい目に遭わされましたよ！

ジョシュ とっても楽しかったね。

青木 そりゃ、やってるほうは楽しいでしょう。こっちは楽しいどころじゃないから。

——楽しいどころじゃない（笑）。そのときのお互いの印象は？

青木 ヘビー級でデカいのに、技術は細かいんですよ。そして、細かいくせに、関節を単品でひねるエッセンスが入ってたりして、柔術とはまた違った寝技だから、やりづらいですね。

ジョシュ まあ、アオキサンとスパーリングすると、ボクのほうがずっと身体が大きいからね。体重を乗せてケガをさせたらいけないという思いと、アオキサンの技を勉強するという意味で、軽量級のように動き回ってスパーリングしたんだ。どんな人とスパーしても、その人から学べるものはみんな違うし、その一瞬しかないので、いつもそういうことは心がけているよ。

——青木選手から見て、ジョシュさんのサブミッションはどんなところが優れていると思いますか？

青木 単純にタイトですよね。べつにビックリするようなことはやってないし、いまの総合の中では少ない決着というか、トライが多い。ヒザ十字だったり、ヒールフックだったり。

ジョシュ 確かに足関節にいく選手は少なくなっているけど、ボクは極めと同時に、その過程も重視しているから、最後のフィニッシュもうまくいくんだ。やはり試合で勝つためには、そんなスペシャルなテクニックは必要なくて、ベーシックなテクニックで充分だと思う。そのベーシックな技を仕掛けることができる局面をいかにして作るかが大事なんだ。あとボクは身体が柔らかくないので、アオキサンのように足を頭の後ろに入れたりできないからね（笑）。

青木 （ジョシュは）柔術家じゃないので、バックチョークとかあんまりいかないですよね。サブミッションが強い。

ジョシュ チョークは一瞬で極まらないかぎり、トップの選手ならディフェンスが比較的簡単な技だと思う。そういった意味で、ボクはチョークよりもサブミッションのほうが仕掛けやすい部分はあるね。

——確かに、試合中に手を振って「ハロー・ジャパン」の挨拶をする人はなかなかいないでしょうからね（笑）。

ジョシュ ハハハハハ！ そうだね（笑）。

青木 あとジョシュって、要は柔術嫌いなんだよね？

ジョシュ 柔術が嫌いというより、「総合格闘技をやるうえで、柔術をやらないことがおかしい」みたいに思われる風潮が嫌いなんだ。昔はよくいたんだよね。柔術をやらない選手に対して「なぜ柔術をやらないんだ？」っていう態度をとる柔術系の選手がね。でも、ダブルリストロックとキムラロックが同じ技なように、柔術もグラップリングも技は一緒だと思う。だからボクは、パンクレイションのマット・ヒュームらとともに、キャッチレスラーとしてサブミッションをきわめていこうと思ったんだ。

——あまりに柔術偏重だった風潮が嫌だった、と。

ジョシュ MMAの黎明期は、柔術家こそが本物でプロレスラーはニセモノだ、という風潮があまりにも強かった。しかも、当時は足関節技が邪道視されていて、ボクのセンセイであるエリック・パーソンが95年のパンナムでトーホールドで優勝したとき、会場中が大ブーイングに包まれたんだ。

——へえ、そんなことがあったんですか。

ジョシュ 昔はなぜか足関節で勝つことが軽視され、価値が低かったんだよ。そういった他流派を認めない柔術家の態度があまり好きじゃなかったね。でも、いまは足関節技で勝ってもブーイングは起こらないし、シャンジ・ヒベイロやマルセロ・ガ

アルバレス戦でのアオキサンは
動きのつなぎが素晴らしかった

DEEPジムで一度ジョシュと
スパーしてエラい目に遭いましたよ！

『アフリクション』でティム・シルビア、アンドレイ・アルロフスキーという元UFCヘビー級王者を1ラウンドKOで葬ってきたヒョードル。今夏、ついにジョシュとのヘビー級頂上対決が実現か?

SHINYA AOKI × JOSH BARNETT

ルシアといった素晴らしい柔術家たちは、足関節も含めたいろんな技術をたくさん持っているし、アメリカン・トップチームのヒカルド・リボーリオはコンプリートファイターをたくさん育てている。みんなオープンマインドになってきて、「柔術家だから」という考えの人が少なくなっているのはいいことだよね。

——青木さんは柔術に対してどう思いますか?

青木　僕は柔術家じゃないからね。

ジョシュ　ジュードーだよね?

青木　柔道出身だけど、サブミッションレスリングですよね。柔術のアドバンテージとか、へんなポイントみたいなの嫌いなんだよね!

ジョシュ　ヤッパリ(笑)。

青木　それで下になってるヤツが「俺勝ってるよ」みたいな、したり顔してるの見ると殴りたくなっちゃうんですよ。

ジョシュ　下になってるだけなのに、ポイントで勝つのは、ボクもおかしいと思う。以前、ムンジアルで女子ファイターのサヤカ(塩田さやか)が、決勝戦でフランス人の女の子と試合したんだけど、最初に引き込まれて、相手は下になって何もしないのに勝ってしまった。「なんで?」って思ったよ。

青木　柔術は格闘技じゃないよね。

ジョシュ　うん、スポーツだね。

青木　一本取らないんだよ?　なんか女々しいんだよな~。

——また、そういうことを言う!(笑)。

ジョシュ　柔術家の中には、ホジャー・グレイシーのようにサブミッションが強い選手ももちろんいるけれど、多くの試合はポイントだけで、一本を狙いもせずに勝敗が決まってしまうことが多すぎるよ。

青木　だいたい、こんだけ格闘技が好きな僕ですら、柔術観てると苦しいんだから!

ジョシュ　ボクも(笑)。

——ダハハハ!　でも、アマチュアの柔術でそうなんですから、プロの総合だったら、一本取りにいかなきゃ意味がないですよね。

青木　(モノマネしながら)判定?　ダメだよ。一本じゃなきゃ!

——そういうモノマネをしない!(笑)。まあ、こうした一本にこだわるというのは、お二人に共通する考えですよね。

青木　そうですね。

ジョシュ　判定になったら、ジャッジ次第でどんな結果になっても仕方がないと思う。だから一本、それからKO。そういった明確な勝ち方じゃないと、本当の勝ちじゃないね。

青木　やっぱり男の子ですからね。決着つけなきゃ。チンチンついてますから。

——また「チンチン」とか言わない!

青木　じゃあ、ティンティン(笑)。

——一緒ですよ!(笑)。

青木　男らしく闘わないとね。

——ジョシュさんは青木選手の試合で、印象に残っている試合はありますか?

ジョシュ　エディ・アルバレスとの試合は、動きのつなぎが素晴らしかったね。エディに(払い腰で)投げられても、すぐに次の動きに移ったでしょ?　普通の選手ならまずガードになって「どうしよう?」って考えてから動くから、後手後手に回ってしまうけど、アオキサンは次の動きに移っていたので、それが素晴らしかったし、あそこが勝負の分かれ目だったと思うね。

青木　嬉しいですね~。

——ほめられて伸びるタイプですか（笑）。青木さんはジョシュさんの試合でどの試合が印象に残ってますか？

青木　最近、あんまり試合してないけど『アフリクション』でやったギルバート・アイブルとの試合はよく覚えてますよ。とにかく殴りまくって、殴ってるほうが疲れるぐらいだったと思うから。

ジョシュ　アイブル戦は試合前のコンディションがあまりよくなかったんだけど、ファイターとして、闘うか、闘わないか、どちらを選ぶかとなったら「闘う」という選択肢を選ばなければならないからね。あの体調の中でベストをつくしたつもりだよ。

青木　その前のペドロ・ヒーゾをパンチ一発で倒した試合も良かったですけどね。

——『アフリクション』といえば、ジョシュさんは、先月、青木選手とヒョードルがエキシビションマッチで対戦したのはご存知ですか？

ジョシュ　そうらしいね！　でも、写真だけで映像は観ていないんだ。

青木　ヒョードル選手は静かな人で（ジョシュとは）対照的ですね（笑）。

ジョシュ　ヒョードルはいいヤツだよね。

——ジョシュさんの次の試合はヒョードル戦が取りざたされていますけど……。

ジョシュ　（日本語で）デモ、ケーヤクナイ！

——まだ、契約が結べてませんか。

青木　『kamipro』で契約してよ。

——どうやってやるんですか！　ジョシュさんには、まだヒョードル戦のオファーは来てないんですか？

ジョシュ　以前からヒョードルとのオファーが来ると思って練習しているんだけど、

ヒョードル戦の準備はしてるから闘えば勝つ自信はあるよ

Josh Barnett■1977年11月10日、米国ワシントン州出身。02年、R・クートゥアーを破り史上最年少でUFC世界ヘビー級王座奪取。その後、パンクラス、新日本プロレスなどで活躍し、06年にはPRIDE無差別級GP準優勝する。現在は『アフリクション』、『戦極』、IGFで活躍中。191cm、117kg。

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。03年にDEEPでプロデビュー。06年2月に修斗世界ミドル級王座奪取。同年6月よりPRIDE参戦。昨年はJ.Z.カルバン、宇野薫らを破りDREAMライト級GPで準優勝。大晦日にはエディ・アルバレスを撃破した。180cm、70kg。

俺がモテることで日焼けしたらモテる風潮を変える！

いつもヒョードルではなく違う選手になってしまうんで、いつでもどんな選手とでも闘えるように準備するだけだね。やれば自信はあるけどね。

——M-1グローバルのワジム代表が大晦日にヒョードルvsジョシュ戦を組みたい考えがあるという発言をしていたんですけど、実現する可能性はありますか？

ジョシュ　ぜひ、闘いたいよ。日本でニューイヤーを迎えるのは大好きだしね。

——となると、またお二人が同じリングに上がることもあるんですかね？

青木　PRIDEのとき、一度、一緒に上がりましたけどね。ただ、いまはお高くなっちゃってるから、どうかな～（笑）。

ジョシュ　オファーが来なかったら、友だちの家でスキヤキ食べて、メイジジングー（明治神宮）に初詣にでも行くよ（笑）。

——ジョシュさんは、青木選手と闘ったらおもしろいと思う選手はいますか？

ジョシュ　ちょっと考えなければわからないけど、いろんなスタイル、アグレッシブな選手との試合が観たいね。

——北岡悟選手なんかどうですか？

ジョシュ　キタオカサン？　ありえないでしょ～。

青木　北岡vs青木？　おもしろいよ。今日もやってきたよ（笑）。

——さっきまで一緒に練習してたらしいですね。じつは今日の対談は、北岡選手も加わってもらって3人でやる話もあったんですけど、スケジュールの都合で来れなかったんですよ。

青木　日焼けに忙しいらしいから（笑）。

ジョシュ　日焼け？　なるほどね。キタオカサンは、勝ってポーズをキメるために、トレーニングしてる人だからね（笑）。

青木　なんか、どんどん黒くなってますからね。

ジョシュ　たぶんHIP HOPアーティストとしてデビューでも狙ってるんじゃないの？　（ディスクをスクラッチするポーズで）キタ、キタ、キタ、オカサトル～、みたいなね（笑）。

——やっぱり自分の名前が入った曲ですか（笑）。青木さんは全然、日焼けしませんよね？

青木　日焼け？　やだよ～、焼けたら痛いじゃん。あの「日焼けしたらモテる」みたいな風潮を僕がモテることによって変えていこうと思ってるから。

ジョシュ　ボクも白人だから、それ同感（笑）。

青木　夏に向けて、色白がモテる時代を作りますよ！

——そうですか（笑）。では、その夏に向けて試合はありそうですか？

青木　僕はいつでもいいですよ。気分は下請けなんで、いつでも〝注文〟待ってる状態です。

ジョシュ　アオキサンの次の試合は、階級は違うけど、ユライヤ・フェイバーみたいなアグレッシブで動き回る選手との試合が観たいね。そうすれば、アオキサンのテクニックがたくさん観られるんじゃないかな。

——ジョシュさんは、次にいつ頃試合をしたいですか？

ジョシュ　いますぐにでもしたいよ。

——なかなか契約がまとまらないわけですか？

ジョシュ　ちゃんとしたオファーが来ないんだ。女の子からの〝オファー〟はいくつも待たせてるんだけどね（笑）。

青木　クソ～、言ってみてえな～。

——では、試合のオファーも女の子からのオファーも待ってますってことで、今日はありがとうございました！

【09年5月15日／都内・DEEPジムにて収録】

〝グラバカの料理バカ〟

菊田早苗

〝猫〟の次は〝食〟ブーム到来!?

〝シャキーン!〟と菊ちゃんこ初公開!!

“Uインターの宮戸味徳”

宮戸優光

こだわりの格闘料理人による“鍋”『戦極〜第“鍋”陣〜』いざ!!

『kamipro』No.131での谷津嘉章との異色対談に続く菊田早苗プロデュース企画(?)第2弾は菊田が“人生の師匠”と語る宮戸優光氏との顔合わせだ。宮戸氏が所属したUインターに菊田が二度入門経験があるということは有名な話だが、じつは二人は知り合って25年以上になる間柄なのだ。今回は“宮戸味徳”との異名も持つ宮戸氏に菊田が得意の料理で勝負を挑んだのだが……はたしてその結果は!?

聞き手／阿修羅チョロ & 堀江ガンツ　撮影／戸成嘉則　調理アシスタント／グラバカ大迫

――本日は幻のUインター師弟対談をセッティングしてみたんですが、菊田さんのほうから、師匠の宮戸さんに得意の料理をふるまいたいということで、特製の「菊田ちゃんこ」を持参していただきました！

菊田　いや〜、いろいろ納得できないところもあるんですけど、冷めないうちに召しあがってください。

宮戸　お〜、うまそうじゃない？　じゃあ、いただきましょう！

菊田　どうぞ、どうぞ。……でも、どうかなぁ（不安げに）。

宮戸　これは味はついてないわけ？

菊田　ほとんどついてないですね。

宮戸　じゃあ、このタレで食べろってことなんだ。

菊田　そ、そうですね。

宮戸　（タレを味見して）このタレ、レシピが違ってる！

菊田　え、そうですか。どこが違ってますかね？

宮戸　ちょっと海苔が多すぎるよ。

菊田　あ〜、確かに多すぎたかもしれない。でも、スープは凄いですよ。丸鶏一羽使いましたから。

宮戸　（ゴクッとスープを飲み干し）あ〜、いいダシ出てるね。なんかラーメン入れて食いたくなってきたよ。

菊田　ハハハハハッ！　鍋じゃなくてラーメンですか（笑）。

宮戸　ビールも飲みたくなるね。ちょっと買ってきましょうか。

――いえ、こちらで買ってきます。

菊田　付け合わせに、セロリのナムルとかも作ってきたんで、どうぞ。

宮戸　これもおいしい。まあ、食べてばかりじゃ対談にならないんで、とりあえず、乾杯しましょうか。

一同　カンパ〜イ！

菊田　さっき宮戸さんに不評だったノリのタレは、このあいだ今田耕司さんの家に遊びに行ったときに、キ

正直うまそう！　こちらが完成品!!

ど〜ですか、このうまそうな菊田ちゃんこ！「料理の上手な選手はみんな強くなる」という宮戸氏の持論も納得できる逸品でした。グラバカが飲食業界に進出する日も遠くない……!?

右が宮戸氏から「レシピ間違ってるよ」と指摘を受けてしまった海苔ダレ。菊田は取材後、ジャリズム山下に作り方を確認したそうなので次はバッチリ!?　左のセロリとほうれん草のナムルもうまい！

菊田ちゃんこレシピを特別公開！

【肉団子の作り方（400〜500g程度の場合）】
鶏挽肉7、豚挽肉3の割合でボウルに入れ、たまごの黄身（2個）、そして、塩コショウ、ニンニクと生姜のすったもの少々、しょう油、片栗粉少量で混ぜ合わせていく。ここにみじん切りの玉ねぎ半分から1コを加えていき、小ネギ、ニラもさらに加える。手でいいのでとにかくよく練り合わせる。団子の味を引き出したい場合は、にんにく、生姜、ニラは入れなくてもよし。玉ねぎを多く入れることでシットリとした団子になる。

【スープの作り方】
圧力鍋の中に丸鶏を入れるのだが、全部は入らないので半分くらい入れる。鶏はいいものを使えば使うほど味はもちろんいい。鶏のスープは素材によって、もろに味の違いが出やすい料理。地鶏だと最高。ガラではなく、丸鶏を使うことで味がより出る。圧力鍋なので濃厚に味が出すぎてしまうので、鶏の皮は半分くらい取ってしまう。にんにく一欠片とホタテの貝柱、桜海老少量と一緒にグツグツ煮込むこと約50分。今度は別の鍋に昆布とかつお節で取った和風味を先ほどの鶏ガラスープと合わせる。そして塩、しょう油、酒少々で味を調えていく。

【鍋の具】
具には、団子以外で、豚肉、冬瓜（大根でもよい）、白菜、ニンジン、ネギ、春菊を入れていく。先ほどスープを取った丸鶏も具に入れていいが、フニャフニャになって味が抜けすぎているので、別の料理に使うのがベター。団子は、食べやすい大きさに手で丸めていき沸騰したスープに入れていく。二つのスプーンを使って団子を作ってもいい。この場合、スプーンに水をつけながらやると団子がスプーンにつきにくい。

【海苔ダレの作り方】
青海苔を器にドバ〜ンと入れ、そこにその何倍かのかつお節を入れる。そこにたまごの黄身を何個か落としていき、ねっとりとさせ、しょう油、少量のみりんを混ぜ合わせていき味つけしていく。最終イメージは、海苔の佃煮をイメージしてもらうといい。

買い出しから調理まで！　菊田ちゃんこが完成するまで!!

食にはかなりのこだわりを持つ宮戸氏だけに菊田はふるまう料理をさんざん迷ったあげく鶏鍋に決定。買い出しは菊田の自宅近くの無添加食材が豊富な行きつけの高級スーパーにて。食材を選ぶ目も真剣そのもの。

たんまり食材を買い込んだ菊田は自宅に戻り、その食材とともに記念撮影。ちなみに予算は「1万円ぐらいでお願いします」と言っていたにもかかわらず総額は1万4000円オーバー。菊田さん、ちょっと買いすぎです！

今回、菊田ちゃんこを作るにあたり一番のポイントがこちらの丸鶏だ。この丸ごと一羽はダシだけ取って肉は自宅に置いてきたんだとか。う〜ん、贅沢。ちなみに調理アシスタントはグラバカの大迫氏が務めました。

自慢の包丁で早速調理に取りかかる菊田(なぜか中腰)。現在は一人暮らし中の独身貴族・菊田だが、料理好きだけあって台所周りもかなりの充実ぶりで、こなれた手つきでガンガン仕込みまくっていく。よっ、料理バカ！

菊田ちゃんこもほぼ完成し、菊田が作り始めたのが今田耕司邸でキム兄直伝の鍋をごちそうになった際にジャリズムの山下しげのりから教わったという海苔ダレ。材料だけ聞いて適当に作ったというこの海苔ダレが……。

菊田早苗×宮戸優光

料理の上手だった選手はみんな強くなってる。田村も桜庭もそう（宮戸）

ム兄（木村祐一）の直伝みたいな鍋をいただきまして、そのときのタレを参考にして作ったんですよ。

宮戸　誰に教わったの？

菊田　教わってはいなくてですね、キム兄直伝ということでジャリズムの山下（しげのり）さんに材料だけ何が入ってるか教えてもらって、あとは自分で適当に作ったんですよ。

宮戸　あ、適当なんだ（笑）。

菊田　そうなんですけどね。『kamipro』さんもどうぞ（と言ってみんなに鍋をふるまう）。ポン酢で食べてもらってもいいですし。

宮戸　いや、ポン酢で汚しちゃう前に、そのまま一回食べたほうがいいよ。ホントにこのスープで「麺食いてえ」って感じだから。

菊田　やっぱり、麺ですか（笑）。

宮戸　でも団子もおいしいよ。……ただね！

菊田　今度はなんでしょう？

宮戸　今日、菊田の鍋をいただいて、やっぱり凝る人なんだなっていうのがよくわかった。

菊田　ホントですか？　ありがとうございます！　なんか嬉しいッスね。

宮戸　Uインターを振り返っても、僕の後輩でいえば、ちゃんこ番の上手だった選手はみんな強くなってるんですよ。タム（田村潔司）ちゃんも桜庭（和志）もそうだしね。

菊田　何か関係あるんですかね？

宮戸　いや、だから関係あるのかなって思って。タムちゃんも桜庭も上手。で、菊田も上手でしょ。

菊田　いやいやいや（苦笑）。

宮戸　だから、テクニシャン派っていうのは上手なんだと思うよ。

――なるほど。ほかには誰かちゃんこがうまかった人はいます？

宮戸　山本（喧一）なんかも味のセンスはあったと思いますよ。逆に下手だった人は……まあ、いいや。やめておきましょう。究極のヘタクソは何人もいますけどね（笑）。

菊田　誰か知りたいなぁ。

宮戸　とにかく、強くなった人はホントに料理も上手。相撲界ではちゃんこ番がうまい人は出世しないとかよく言うけど、プロレス界、少なくともUインターに関して言えば、ちゃんこの下手なヤツは出世しない。

菊田　アハハハハッ！　でも、技の研究と味覚の研究は似てるところがあるのかもしれないですね。

宮戸　そうだと思うよ。

――すでに食事も会話も進んでしまいましたが、お二人の関係を知らない読者も多いと思うんですよ。

菊田　まあ、そうでしょうね。

――菊田さんは、かつて二度ほどUインターに所属していたことがあって、中でも宮戸さんとはただならぬ関係だったみたいで。

宮戸　菊田とは数えると長い関係になりますね。もう25年以上ですよ。

――25年以上!?　たしか、最初は佐山（聡）さんがやられていたスーパータイガージム時代なんですよね？

宮戸　そうですね。だからね、僕とはウチの打撃コーチをやってる大江（慎）と菊田が一番古いんですよ。この業界の中では。二人ともまだ「スーパー」がつかないタイガージム時代からだから、相当長いよね。

菊田　自分がまだ小学6年生の頃からで。プロレス全盛のときっていうか、黄金時代でしたから。

――当時、宮戸さんの印象はどんな感じだったんですか？

菊田　やっぱり、当時の佐山さんとはしゃべる機会もなかったんで、宮戸さんは普通に接しやすい感じでしたね。ジムって、自分がやってみてわかるんですけど、現場で目線が近い人がいて成り立つところがあると思うんで。「また行こう」って思うのは宮戸さんがいたからでしたね。最初は佐山さんがきっかけで行くんですけど、そのあとも続けて行こうって思ったのは宮戸さんみたいな人がいたのが大きかったです。

――当時は菊田さんと同じように、タイガーマスクに憧れて入ってくる人がほとんどだったんですよね？

宮戸　ほとんどっていうか全員でしょ。あの頃は会員もおそらく300人以上いましたからね。

菊田　ホント、凄かったですよねぇ。

――で、菊田さんは中学から本格的に柔道をやるようになって、ジムからは離れることになるんですよね？

菊田　中学になってからも、たまに遊びには行ってたんですけど、柔道をやり始めて、しばらく宮戸さんに会わなくなって。次に会ったのはUインターの入門テストを受けた20歳の頃ですよ（苦笑）。

宮戸　ただ、その20歳のときに全然違和感なく再会してるから、印象深い小中学生だったんだと思いますよ。だって普通は忘れちゃうでしょ。

――300人も会員がいたら忘れてもおかしくないですよね。

宮戸　でも、入門テストのときは全然覚えてましたからね。

――で、残念なことにUインター生活は長く続かなかったみたいで。

菊田　まあ、そうですよね（苦笑）。

宮戸　もったいなかったですよね。身体もできてましたし。

――当時のエピソードとしては、Uインターへ二度目の入門テストを受ける前に菊田さんは宮戸さんの自宅まで行ったこともあったんですよね。

菊田　そうなんですよ。そのとき宮戸さんに言われたのが「二つの道があるけど……」っていう。

宮戸　俺、そんな偉そうなこと言ったの？（笑）。

菊田　あれ、覚えてないですか？

宮戸　よく覚えてない。ただ、菊田にかぎらずみんな苦しいときってありますからね。そこで、フラッと逃げ出したくなっちゃったのは残った人間の中でもいるだろうし。だから、一回辞めた菊田の気持ちっていうのもわかるし、実際、逆に一度辞めたところに戻ってくるっていうのは相当勇気もいったと思うんですよ。

菊田　は、はい（苦笑）。

宮戸　戻ってくるっていうのは凄い勇気だからね。逆に言うと、それだけの気持ちがあるんだったら、辞めちゃうのはもったいないないから、頑張るのかどっちかだろってことはチラッと言ったのかもわかんないですね。

菊田　僕はホントにブン殴られる覚悟で行きましたけど、でも全然そういうんじゃなくて。「何も言わずして去ることもできるし、でもなんか力になることがあれば、もしかしたら何かつながるかもしれないし、選ぶのはキミだよ」って言われて、それか

お手製の鍋を宮戸氏が代表を務めるスネークピットジャパンまで車で運んできた菊田。緊張の面持ちで宮戸氏に初めて料理をふるまった菊田だったが、いきなりタレのレシピの間違いを指摘され苦笑い。

ら自分の人生観が変わりましたね。

——菊田さんが一時期、新日本の道場にもいたことがあるのは宮戸さんもご存知ですよね？

宮戸 そうみたいだね（笑）。そのあとにチラッと聞きましたよ。ちょっとビックリしましたけどね。それまで知らなかったから。

菊田 いやいや、言ってますよ。たぶん忘れてるんだと思います。

宮戸 あ、そう（笑）。それで結局、Uインターも辞めることになっちゃったわけだけど、普通の人はそれで終わっちゃうでしょ。そのあとにホントに下積みというか雑草というか、それこそアマチュア大会的なものから地道にやってきて、いまも活躍してるわけだからね。そういう意味じゃたいしたもんだと思いますよ。

菊田 いやいやいや（恐縮して）。

宮戸 一回逃げちゃったら普通はそこで潰れちゃいますからね。逃げてしまったという自分のやましさに自分で潰れちゃう。

菊田 確かにやましさはありました。

宮戸 だから、いろんなところをすかしちゃった人っていうのは、だいたいこの世界にいないし、ほか行っても結果を出せない人が多いですよ。そう考えると、本当に好きだったんだろうね。それでも、この世界にしがみついて……って言ったら言葉は悪いけど、それでもここに居続けるっていう、そのしぶとさがいまの菊田早苗という人間じゃないですかね。

菊田 ありがとうございます（笑）。

——イメージ的には宮戸さんは後輩から見たら怖い先輩だったんじゃないかと思うんですけど、話していると感じを見てると、わりとフランクな関係ですよね。

菊田 対外的にはそういうふうに思われてるだけで、たぶん宮戸さんと仲がいい後輩の人たちはそう思ってないんじゃないですか。まあ、昔は怖かったと思うんですけど（笑）。

宮戸 いや、そんなことないでしょ。

菊田 前に垣原さんだったかなぁ？ Uインターの道場で宮戸さんにおたまで殴られたとか言ってました（笑）。

宮戸 そんな話はやめましょう（笑）。

『kamipro』No.124では尊敬する"炎の料理人"周富徳との料理対談を行なっている宮戸氏。料理好きが高じ、Uインター退団後は一時期、料理人を目指していた時期もあるのだ。

菊田早苗×宮戸優光

ただね、僕は最近よく思うんだけど、本当に先輩にも後輩にも恵まれたなって。とくに後輩に関しては実際にみんな強くなったし、いまも頑張ってくれてるおかげで僕もこういう機会をもらえてるのかなっていう思いもありますからね。

——そんな長いお付き合いのお二人ですが、一緒に食べ歩きなんかもされることがあるみたいですね。

宮戸 そんなには行ってないですけど、二人ともラーメン好きだったり、わりと料理の話もしたりするんで、「じゃあ、今度あそこに行ってみようか」っていう感じで。

——宮戸さんが一時期、プロの料理人を目指した時期もあったというのは有名ですけど、菊田さんもかなり本格的にやられているんですよね。

菊田 宮戸さんほどじゃないですけど、料理は好きなんで、しょっちゅう作ってますね。

——何か料理が好きになったきっかけはあったんですか？

菊田 きっかけはじつはオーストラリアなんですよ。

——Uインターを辞めてから、スタン・ザ・マンがいるオーストラリアに行ったんですね。

菊田 そうなんですよ。そこで自炊をするようになってからですね。市場とか行って、いろんなものを安く買って料理したり。一回、豚の顔をそのまま買ったこともあったし（笑）。

宮戸 豚の顔で何を作ろうと思ったの？

菊田 ちょっと、とんこつラーメンを作ろうと思って。

——オーストラリアでとんこつラーメン（笑）。

菊田 あれはちょっときつかったなぁ……（しみじみと）。

宮戸 豚の顔って臭いが強烈でしょ？

菊田 臭いもきつかったし、あんなに重いと思わなかったんで、途中で半分捨てました（笑）。あとは、料理といえば、自分のプロデビュー前なんですけど、宮戸さんに中華に連れていっていただいて、いいものを食べるっていうのはこんなに高いお金を出さなきゃいけないんだな、みたいな（笑）。それぐらいから、食に対する意識が出てきましたね。

——以前、違う雑誌の企画でラーメンを作ったこともあったみたいで。

菊田 やりましたね。けっこうスープ系とか好きなんで、グツグツ煮込む料理が好きなんですよ。

宮戸 でも、時間がかかるのを作るから凄いよね。

菊田 いやいや（苦笑）。

——菊田さんは食生活にもかなりこだわりがあるみたいですね。

菊田 そうですね。宮戸さんみたいに玄米を食べたりまではいかないですけど、外食とかするにしても素材がいいところとか選んで行ったり、添加物とかもなるべく取らないようにしたり。まあ、自分がアトピーだったりアレルギーっていうのもあるんですよね。そういうのを治していく過程で食生活が変わっていったというか。選手なんかを見てても、僕から見ると中途半端で。最近はプロテインをガバガバ飲んでる人が多いじゃないですか。

——まあ、格闘家とかプロレスラーはほとんどみんな飲んでますよね。

菊田 でもプロテインは粉だから、新鮮なモノを食べるのとは違うし、添加物でいつのかわかんないじゃないですか？ そういうのは僕は食べないです。でも、僕だけですよ、グラバカでプロテイン飲まないのは。

宮戸 あ、そうなんだ。でもいまはサプリメントはみんな取るようになりましたね。そこまで頼るほど効果があるのかって僕は疑問だけど。

菊田 それは僕も思いますね、逆に、「そこまで食事に気を使ってないでしょ」って感じちゃうんですよ。

宮戸 そうそう。僕も昔は肉を食べないとか、ベジタリアン系で食事をしてたときもあるんだけど、ここ最近はあまり気にしないようになってきた。ステーキこそ食べないけど、肉とかも食べるし、ときどきハンバーガーとかも食べちゃうしね。また、たまに食べるとおいしんだよ（笑）。

食べ歩き仲間、宮戸&菊田も絶賛のお店はここだ!

都内・世田谷にある『火龍園（ふぁんろんえん）』は宮戸&菊田の二人もオススメの広東料理店だ。高山善廣やジョシュ・バーネットも来店したことがあるというこちらのお店の詳細は以下のＨＰをチェック！
http://www.fuanlongyuen.jp/

菊田　あ～、それはわかるような気がします。……今日はホントは牛テールのボルシチ風のスープを作ろうと思ってたんですよ。
宮戸　あ～、いいねぇ、それ。
菊田　そっちのほうがよかったかなぁ。ちょっと失敗したかも（苦笑）。
――ということで、菊田さんはちょっと後悔モードですが、宮戸さん、このへんで本日の鍋の審査をお願いできれば、と。
宮戸　ホントおいしかったですよ。何度も言うけどね、ラーメンを入れて食べたいぐらいのスープでしたね。
菊田　ありがとうございます！
宮戸　ただね！
菊田　な、なんでしょう？
宮戸　この鍋はね、道場では出せませんよ！
菊田　何がダメなんですかね？
宮戸　ハッキリ言ってね、予算オーバー！
菊田　アハハハハハッ！　それは確かにそうかもしれない（笑）。
宮戸　だって、今日の材料で10人前作ったら、レスラー10人前ってことは、一般人20人前ですよ。ちゃんこ銭いくらかかっちゃうんだっていう話だから。たとえば、Uインターでいえば、お昼のちゃんこ銭は1万2000円って決まってたんですよ。
――その金額の中でおいしいモノを作るっていう勝負があったと。
宮戸　そういうことなんです。道場には10人ぐらいいて、お米は毎回2升ぐらい炊いてたと思うけど、それ以外を1万2000円でやっていくと。たしか、夜と合わせて一日2万円で収めてたんじゃないかな。
菊田　単純計算でちゃんこ銭だけで1ヵ月60万もかかってたんですね。
宮戸　そうそう。それ以外に選手の給料だったり、道場を維持するにもお金はかかるし大変ですよ。……でも、こういう感じで道場で鍋をつつくと、本当に故郷に帰ったというか、俺らのおふくろの味なんだよね。
菊田　おふくろの味ですか？
宮戸　菊田の鍋は初めての味でおいしかったけど、なんとなく、この雰囲気が懐かしくて昔の我が家に戻った感じがしたね。それこそUインターのときとかは、どんなに外食でうまいもんを食っても、道場のメシのほうがうまいんですよ。何かがあって道場のメシを1週間も食べないことがあったら、もう恋しくてしょうがなかったから。
菊田　へぇ～、さすがにそういう経験は自分はないですね。
宮戸　家でもたまに鍋を作ったりするんだけど、翌日家に帰ってきて、その匂いが残ってると、「あ、道場の匂いだ」って思うもんね。
菊田　もう、そういうイメージがついてるんですね。
宮戸　そう。道場で下積みを積んでデビューして育った選手たちは、あの香りに懐かしさを感じると思うんだよね。お相撲さんもそうじゃないかな。どんなに外でうまいもん食っても、やっぱりちゃんこの味が忘れられないんだよね。第二のおふくろの味というか故郷の味というか。だから、今日みたいな空気は凄いひさびさで懐かしいですよ。
菊田　ちょっとは喜んでいただけたんですかね？　また違う料理でリベンジしたいところなんですけど（笑）。
宮戸　じゃあ、楽しみに待ってます。まあでも、今日は菊田が料理が上手だってことがよくわかりましたよ。
菊田　いやいや、とんでもないです。
――最初は宮戸さんと菊田さんの料理対決という案もあったんですよ。
菊田　料理対決もやりたかったですけどねぇ。
――でも、料理対決だと菊田さんが「宮戸さんに勝っちゃうな～」と言ってまして（笑）。
菊田　言ってない、言ってない（笑）。そんなこと言うわけない！
宮戸　僕もそれで負けてもショックだしね（笑）。
菊田　それは言ってないですけど、キッチンスタジオを借りてやりたかったっていうのは正直ありますよね。
宮戸　いや、そんなとこ借りなくても、一品勝負っていうのもあるよね。たとえば、みそ汁とごはんとか、チャーハン対決とかさ。それはそれで、けっこう実力差も出ると思うし。
――では、今度は料理対決でお願いできればと思います！
宮戸　いいけどさ、そんなことやって『kamipro』の役に立つの？
菊田　アハハハハハッ！
――役に立つかどうかはともかく、料理対決をやるんだったら衣装とかも凝りたいですね。
宮戸　それだけやるんだったら、もうどっかの団体とか道場対抗でやろうよってなっちゃうよ。客入れて有料でやったほうがいいんじゃない？
菊田　いや～、それだったら気合い入りますけどね。
宮戸　俺もそうなったら負けないよ！（笑）。
――では、いつの日か二人の料理対決を実現させたいと思いますので、そのときはよろしくお願いします！

【09年4月26日／都内・スネークピットジャパンにて収録】

宮戸さん、今度は料理対決をお願いします！

いいけどさ、そうなったら俺も負けないよ！

みやと・ゆうこう■本名・成夫。1963年6月4日、神奈川県出身。85年に第一次UWFでプロデビュー、第二次UWFを経て所属したUWFインターナショナルでは選手兼フロントとして大活躍。退団後は料理人を目指していたこともあったが、99年にスネークピットジャパンを設立し代表に就任。現在はIGFのGMも務める。

きくた・さなえ■1971年9月10日、東京都出身。小学生時代にスーパータイガージムに入会。中学、高校、大学は柔道部で活躍。新日本に一度、Uインターに二度入門するも挫折。その後は修斗、リングス、PRIDE、パンクラスなどさまざまな舞台で活躍。現在は『戦極』を主戦場とするグラバカのボス。176cm、89kg。

浅草キッドの玉ちゃん
変態座談会に再登場!

○”五味隆典
ト級 変態座談会

5.10修斗JCBホール大会で、修斗世界ウェルター級王者・中蔵隆志を2ラウンドKO！ 俺たちの五味が帰ってきた、
というわけで、五味に過剰な思い入れを抱く浅草キッドの玉ちゃんを含めた変態が集合し、五味と黄金のライト級を語りまくった!

試合写真／乾晋也

ガンツ　今日はいつもの変態座談会開催場所である新宿『リビングバー』ではなく、玉ちゃんのリクエストで、ここ中野坂上の『加賀屋』よりお送りします！

玉袋　いや〜、嬉しいよ。俺は加賀屋で変態座談会をするのが夢だったから。

ガンツ　あ、夢が実現しましたか(笑)。

玉袋　この加賀屋っていう店はね、俺の昔からの行きつけなのよ。髙田延彦vs北尾光司戦のときも、髙田延彦vsヒクソン・グレイシー戦のときも試合後にこの店で飲みながら語り合ったんだよな、エガちゃん(江頭2：50)とかとさ。ついにその加賀屋に変態が来てくれたか……(しみじみと)。いやぁ、嬉しいね！

ガンツ　僕らもそんな聖地に乗り込めて光栄ですよ(笑)。ただ、変態座談会オリジナルメンバーの原タコヤキ君と井上崇宏さんはお休みで、今日は僕と椎名さんだけですけど。

玉袋　でも、椎名さんの顔も見えねえよ？

ガンツ　まだ到着してません(笑)。

椎名　(遅れて店に入ってきて)いやぁ、遅れてすいません。うっかり地下鉄を逆方向に乗っちゃってさ。でも、その車中でナナチャンチンを見かけたからね！(得意げに)。

玉袋　ガッハハハハ！　さすが変態、目ざといねぇ！

ガンツ　まあ、ナナチャンチンはさておき、椎名さんも到着したところで、まずは5・10修斗JCBホール大会で修斗世界ウェルター級王者・中蔵隆志を破り、見事に復活した五味隆典について語りましょう！

玉袋　そうそう、JCBホール！　俺、現場に行けなかったんだよなぁ……。10日って、仕事何やってた？

マネージャー　手帳には「パックマン」って書いてあるので、ファミコンやってました。

椎名　え、パックマンやってて五味の試合を観に行かなかったの？(笑)。

玉袋　「パックマン二人羽織」っていうのをやってたの、目隠ししてね。情けねえなぁ……。

ガンツ　試合どころかパックマンすら見えない(笑)。

玉袋　で、二人は行ってるわけでしょ？　あとで興行のDVDを観たけど、あれぐらい現場にいたかったなと思ったことはなかったよ。ああ……これは悔しい！

ガンツ　じゃあ、その悔しさをこの座談会にぶつけてもらいましょう！　あらためまして、「俺たちの五味隆典」がようやく復活しました！

玉袋　ホント、ようやくだよ！　嬉しかったなあ。

椎名　よかったよね。一番いいときの五味って雰囲気だったよね。

玉袋　それを観たんでしょ？　あ〜〜っ、悔しいッ！

椎名　そんなに悔しい？(笑)。でもね、観てて思ったのが、「五味ってやっぱり『あしたのジョー』の矢吹丈っぽいよな」と思ったんだよね。前に玉ちゃんが「五味には野良ボクシングのドサ回りみたいなことをしてほしい」って言ってたでしょ？　あれは五味は矢吹っぽいと思って言ったのかなと思いながら観てたのよ。そうするとチビ連を最初にリングに上げたのも納得がいくしね。

ガンツ　木口道場ちびっこレスリングの子どもたちは、五味にとって〝ドヤ街チビ連〟だったんですか(笑)。

椎名　そうそう！　ってことは絶対に丹下段平がいるはずだぞってよく見たら、リングサイドに眼帯じゃなくてオレンジのサングラスをした木口会長がいたんだよ(笑)。あとデビュー当時は凄く嫌われてたしね。やっぱり矢吹っぽいよなと思ったね。

玉袋　そうだよな。厳しい試合という格闘少年院に入れられて、いい男になってきたんだよ、五味は。

椎名　厳しい試合をすることで、ようやくみんなが理解してきてね。最初は狂ってるから嫌いだったけど(笑)。

玉袋　俺も！　やっぱりね、ちょっとヤバかったもん。でも、よかったよなあ。俺、さっき家でDVDを観たんだよ。そうしたら、おふくろがヌーッて出てきて、「おまえ、何興奮してんだ？」って言われちゃったもん。

椎名　おふくろさんを驚かすぐらい興奮したんだ(笑)。

玉袋　うん、「触れるな、俺に！」って

『紙プロ』が『kamipro』にリニューアルされた第一号の表紙を飾ったのが、〝俺たちの〟五味隆典。新時代のエースとして期待しての表紙だったが、そのコピーがちょっとした物議を醸したりもしたのだ。

聞こえてきたぞ、祭り囃子!!
“俺たちの”
&黄金のライト

言ったんだから。でね、前に木口道場にロケに行ったときのことを思い出しちゃったね。五味って人はシャイだから、なかなかしゃべらないんだけど、なんかの話のときにね……やりたい放題だった頃の亀田一家のことを五味が語りだしたんだよ。

ガンツ　ほほう！

玉袋　まだ、パッシングが出る前の話だよ？「なんかあいつらのやり方は全部気に入らねえ。ああいうやり方をしてるヤツは俺は尊敬しない！」って。俺もそのときは心の中で「亀田ってどうかな？」って思ってたわけよ。でも周りがさ、「亀田！　亀田！」ってなっちゃってたからさ、俺もツッコめないの。でも、そんなときに五味がそれをポロッと言ったわけよ。そのときの新鮮さっていったらなかったね。「五味ってこういう男なんだ」ってわかった瞬間だったよ。注目のされ方を考えたら、ヘタすりゃ亀田のほうに乗っかっちゃうじゃない？　魔裟斗に対してもそうでしょう。「俺、こんなきついことやってるのに、なんで魔裟斗になれねえんだ？」って気持ちもあるわけじゃない。そういうイライラ感を常に持ってる男だなっていうのがわかった。そこからますます好きになっちゃってさ。今日こうやって語れると思うと嬉しいよ、俺は！

ガンツ　要は五味って、ホントはそれぐらいみんなでいろいろ語れるスーパースターなんですよね。

玉袋　一本じゃねえんだよな。

ガンツ　そうなんですよ！　カッコいいところ、カッコ悪いところ、いろんな側面がある男が五味なんですよ。でも、五味サイドの売り方っていうのが、いわゆる『Ｎｕｍｂｅｒ』みたいにしてくれ、みたいな感じなんですよね。そうじゃない、五味が好きな永ちゃんの「成りあがり」同様、ドヤ街から成り上がった男なんだっていうのが、ボクらの応援の仕方なんですよ！

玉袋　そう！　俺たちの五味なんだから！　俺たちみたいなドヤ街の連中に応援させろよ！

ガンツ　そうなんですよ。それこそ拳一つの人なんで、インタビューしたって気の利いたセリフが出てくるわけじゃないから。こうやって加賀屋で飲みながら五味を自由に語るほうがちゃんとした応援の仕方じゃないかなと思うんですけどね。

玉袋　素晴らしいね！　五味はそうでなくっちゃいけないよ。でも、なんだったんだろうな、北岡（悟）との試合は？

ガンツ　ボクも座談会で言ったんですけど、あの『ロード・トゥ・五味』がいけなかったんじゃないかな、と。「五味を誰が倒すのか？」っていうテーマだと、「俺が誰かに倒されるための企画かよ？」ってことでモチベーションが上がらなかったんじゃないかと思うんですよね。

玉袋　ああ、なるほどな。それじゃあ五味は燃えないね。やっぱ「燃える五味」だからね。いまのゴミみたいに分別しちゃいけない。黒いビニールに全部入れてグチャグチャにして出して、もの凄い火力で燃やさないと。

椎名　なんだよエコって！（笑）。

玉袋　そうそうそう！　ラベルまで外せとか冗談じゃねえって！　一つにまとめて入れちゃえよ！　そうしないと五味は燃えねえだろ！

座談会出席者

椎名基樹
1968年4月11日、静岡県出身の41歳。本誌の好評長寿連載コラム『サムライ三昧』でもおなじみのフリーライター、放送作家、構成作家。真剣勝負にあくなきこだわりを持ち、90年代から修斗も見続ける格闘技系変態。

玉袋筋太郎
1967年6月22日、東京都出身の41歳。ご存知、浅草キッドの片割れ。子どもの頃から蔵前国技館に通った変態プロレスエリート。『SRS』のメインパーソナリティまで上り詰めたが、昨年惜しまれつつ番組が終了してしまった。

堀江ガンツ
1973年9月14日、栃木県出身の35歳。本誌編集部。ちっちゃな頃からプロレスファンでUWF研究家を自称。最近はUFCにハマリ一部で「北米」呼ばわりされる、当変態座談会の主宰者。

五味は成り上がりなんだから、俺たち〝ドヤ街〟の連中に応援させろよ！

ガンツ　ちなみにその「燃える五味の日」ってコピーは以前、『ｋａｍｉｐｒｏ』でも表紙にしたんですよ。これは玉ちゃんが言ってたコピーをいただいたんですけど、たぶん五味サイドがうちに対して固くなった最初がこれじゃないかと（笑）。

椎名　マジで？

ガンツ　いや、妄想ですけどね（笑）。

玉袋　そういえば、子どもの頃、少年野球をやってたんだけど、敵チームに五味ってヤツがいてさ。俺、そいつのこと名前でイジメたことがあったな～。

ガンツ　「五味」って名前の人はきっと一度は経験しているはずですよね、その手のイジメは（笑）。

玉袋　そういや〝燃える五味〟って言い方、なんか相棒が乗り気じゃなかったもんな、「気ぃ悪くすんじゃねえか？」って……。

ガンツ　思春期には気にしてた可能性がありますよね（笑）。

玉袋　でもね、五味は「五つの味」と書くからね。甘いとか辛いとか全部入ってるのが五味だって俺は言いたかったわけよ。だから固くならないでね（笑）。

椎名　だけど五味って名前はジョーっぽさと合ってますよね？

玉袋　合ってるねえ！　あれだって、「ゴミの中から出てきた俺だ」っていうことなんだから。根本敬もそうだよ。凄い！　魔裟斗じゃ根本敬まで出てこねえよ！

椎名　そうですよ！

玉袋　珍しい男だよな？　五味を語るといろんなものが出てくるんだよ。ウチの師匠だって『みんなゴミだった』って自伝出してるしよ。だから、「燃える五味の日」ってのも、「玉袋筋太郎」なんていう名前の男が言ったんだから許してくれよ……。

椎名　上回ってんだから（笑）。

玉袋　そうそう！　あらゆる名前を上回るひどい名前つけられてる俺が言うんだから、いいじゃねえかよ！

椎名　あらためて聞くとなんちゅう名前だ（笑）。

玉袋　ホントだよ、なんちゅう名前だよ！　その俺が言ったことに目くじら立てないでね。しかし、なんかほっとけない気持ちにさせるんだよな、五味って男は。

椎名　危なっかしいんだよね、コーナー上がっちゃって（笑）。

玉袋　あのね、ひさびさにコーナーに上がったでしょ？

椎名　あれがいいの！

玉袋　そう！　三社祭でさえ神輿の上に乗っちゃいけないって言われてる世の中で、五味が上がっちゃうのが、俺たちの祭りだよ。五味があそこに上がったことでひさびさに祭り囃子が聞こえてきた！　しばらく聞こえてこなかったんだけど、いよいよ祭りが始まってくるなって気がするよ。

五味 変態座

五味が復活したら黄金のライト級だよ！ こりゃ、祭り囃子が聞こえてきたね

ガンツ　五味が復活したことによって、この階級が凄くおもしろくなりましたよね、一気に。

玉袋　そうなんだよ。

椎名　こうなると北岡とまたやらなきゃならないよね。

玉袋　そりゃそうだろ。やられたまんまじゃいられねえ。

ガンツ　それがですね、五味はどうやら『戦極』との契約が切れたらしいんですよ。

玉袋　ホントに!?　フリー？

ガンツ　だから、北岡とはまたいつかは出会うって感じになりそうですけどね。

椎名　ええっ？　それなんとかなんないの？　まず川尻（達也）とやって、北岡ともやってもらってってなんないわけ？　それぱっかり考えちゃったよ、中蔵戦が終わったあと。

ガンツ　でも、フリーになったことによって、魔裟斗戦も一応見えてきましたよね。

玉袋　見えてきたねえ！　この展開はいいねえ！

ガンツ　フリーだったら川尻戦も見えてくるし、一番相容れない青木真也とも……。

玉袋　聞こえてきたよ、ホントに祭り囃子が！　祭りの道具はもう全部しまったと思ってたんだけど、引っぱり出さねえといけねえな！　ハッピから何から！

ガンツ　役者が揃いましたよね。

玉袋　黄金の70キロ級だよ！

ガンツ　PRIDEの末期は五味が飛び抜けて、もう相手はいないって雰囲気になっちゃったんですけど、そのあとPRIDEがなくなって、五味もちょっと調子を落としましたよね。そのあいだに青木が出てきて、川尻も調子を取り戻してきて、北岡っていう新種の生き物も出てきて（笑）。そして外人も、ヨアキム・ハンセンはチャンピオンになるし、JZカルバンもいるし。

玉袋　強いよ、あれは！

ガンツ　で、海の向こうにはライト級最強のBJペンもいるっていう。

玉袋　おもしれえなあ！　だからやっぱり分別しちゃいけねえんだよ！　全部一緒に燃やしちゃおうよ！

椎名　そうだね。

玉袋　そういうもの凄い焼却炉、かつてのPRIDEみたいなんでも燃えちゃう巨大な焼却炉が格闘技界に一つドンッとあればさ……嬉しいぜ、俺たち！

ガンツ　この前のマッハvs青木も燃えましたからね。五味が復活したいま、川尻との再戦っていうのもおもしろいですよ。

中蔵をKOし、ひさびさに勝利のコーナー駆け上がりを見せた五味。この高揚感と危なっかしさが、五味の魅力でもある。

玉袋　おもしれえ！　川尻も落とし前つけたいっていうのもあるだろうしね。『DREAM・7』の煽りVで五味の名前出したときとかさ……やっぱいいよな！

ガンツ　まったく離れていても、そういうのを腹の中に持ってるっていうのがいいですよね。

玉袋　いい！　途切れてるようでそこはつながってるっていうね。あれは夢の懸け橋だよ！

ガンツ　全部、個人史があって、それをザッピングして見ていくとおもしろいんですよね。川尻の歴史を見ると、やっぱり五味っていうのは避けられないんで。

玉袋　そうそう！　川尻史の中に五味は絶対出てくるんだよ。だからカルバンに負けちゃいけない！（この座談会はカルバン戦前に収録）。

ガンツ　大一番ですねえ。

玉袋　ここはやっぱ川尻にスカッと勝ってもらって、全部無傷で揃ってるぞっていう状況を整えて、あとはどなたさんかわかりませんが、そういうマッチメイクを組んでくれたらなあ……。

ガンツ　青木真也も、どうやら7月にですね、ビトー〝シャオリン〟ヒベイロという、またとんでもなく強いヤツとやるらしいですからね。

椎名　そうすると、川尻とも比較されるしね。

ガンツ　負けられない大一番ですね。

玉袋　負けられないって状況のヤツが揃うと、やっぱり盛り上がるわな。熱が出るよ！

ガンツ　PRIDE全盛期はヘビー級で（エメリヤーエンコ・）ヒョードル、ミルコ（・クロコップ）、（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラ、ミドル級でヴァンダレイ（・シウバ）、桜庭（和志）、（マウリシオ・）ショーグンって、揃ってやってたわけですからね。

玉袋　いまの70キロ級だって負けてねえよ！

椎名　ホントそうだね。ところで、五味はデビューから観てました？

玉袋　いや、俺は上がってくる途中からだな、修斗で。だけど最初はやっぱり違和感だよね、こんなのはマズいだろと思ってたな。狂気がやっぱ凄かったじゃない。

椎名　衝撃的だったよなぁ、五味は。慧舟會に高田和道っていうのがいたんですよ。佐藤ルミナがトップスターだった頃に、ルミナを倒しちゃうかなっていうような勢いで出てきたんだけど、そいつを五味がボッコボコにしちゃってね。

玉袋　五味がPRIDEでブワーッて勝ち上がってたとき、関西テレビのメイク室で太平サブロー・シローのサブローさんに会ったんだけどさ、五味の試合を観たらしくて「あいつ、どないなってんねん？」って言ってたよ。サブローさんってボクシングのトレーナーやってて、凄いモノを持ってる人なんだけど、それが飛んできたもんね、「あいつ何者だ！　本物だなあ、あれ！」って。

ガンツ　ガッハハハハ！　五味は〝西のファイター〟が認める男だったわけですね（笑）。

玉袋　「あれ、ちょっとヤバい子やろ？」って言ってきたもんな。

椎名　ヤバい子ですよ。

ガンツ　だから、ライト級はみんなキャラクターが全然違うじゃないですか？　五味みたいなヤバい子はいるし、川尻はスポーツマンだし。で、青木なんかは現代っ子のオタクみたいな感じ。そして魔裟斗は正統派と。あとは北岡っていうのもいるし。

椎名　北岡はパンクラスだよね。

ガンツ　あれはホント、船木に憧れ

五味隆典 変態座談会

てただけあってマッドネスですよ。
玉袋　小船木だ（笑）。でも、五味の中にはもう北岡っていうのはなくなっちゃったのかな？
椎名　いや、負けた相手は忘れないでしょ。
玉袋　人一倍悔しいはずだよね、あの男は……。じゃあ北岡も絡んでくるな。でもなんかやっぱバラバラなんだよな。まあ、関係者の人はちょっと煙たがる意見かもしれないけど、やっぱりまとまるしかないでしょう。
ガンツ　そこでバーリ・トゥード・ジャパン（以下、バリジャパ）っていうのがポイントになってくるわけですよ。
椎名　あれ臭いよね。
ガンツ　バリジャパは、要は修斗公式戦じゃないので、修斗の選手じゃなくても全然出られるってことなんですよ。しかも、ちょうどDREAMや『戦極』の交差点にあるんで、なんでもできる。そして、それを支援するのはもちろんドン・キホーテ！
玉袋　来たーっ！　森田健作にも出すけど、出すねえ、いろいろと（笑）。
椎名　いろいろな選手が上がる可能性あるの？
ガンツ　あります（キッパリ）。
玉袋　おもしれえなぁ！　だけどホントにそうなったら、バリジャパはそれこそなんでも燃やせる焼却炉だな！　で、ファンも燃えるしな。いや、バリジャパっていうのは凄いな、思いっきり抜け穴だよ。
椎名　修斗側は全然関係ないってことなの？
ガンツ　いや、もちろん関係ありますけど、このあいだのJCBホールで、なぜあれだけのメンバーが集められたかといえば、それはやはりドンキの援助があってのことですからね。
玉袋　ああ、そうか。
ガンツ　で、ドンキの安田隆夫会長ってホントに格闘技を愛してる人なんですよね。だから、修斗が困っていると聞いたら、「じゃあ、俺が修斗を支援してやる」って。
玉袋　ドン・キングならぬドンキ・キングだよ！　それが一番！　そういうモノ言わないで助けてくれるスポンサーがいるっていうのはいいことだよ。前はPRIDEで役者が揃って楽しめたって部分があるんだけど、いまはバラバラになっちゃっただろ？　でも、デカいスポンサーがついて、団体を越えた闘いってなると、一つの団体内の闘いよりも、また一つ付加価値がつくから、こっちは燃えるわな。だって石田（光洋）と廣田（瑞人）の試合だって一応DREAMと『戦極』の対抗戦だったからね。

マット界は"分別"してる場合じゃねえよ! 巨大な焼却炉でまとめて燃え上がらせないと

椎名　超燃えましたよ、あれ！（笑）。
玉袋　あれが燃えるんだもん。
椎名　あれは燃えますよ！　だって（廣田のセコンドの）桜田直樹が、吠えてましたもん。
玉袋　"砂かけ"が。
椎名　佐山（聡）いわく"砂かけ"ですよね。足が短くて「砂をかけるようなローリングソバットだから」っていうのが由来だったと思うけど（笑）。その砂かけが考えた作戦どおりだったんですよ。ばっちりハマッたって感じで。
ガンツ　『戦極』で、しかもトーナメントで勝ち上がれなかった廣田が勝ったっていうのもまたいいですよね。パ・リーグが勝ったみたいな感じで。
玉袋　そうだよな。オールスター戦なんかやったら、パ・リーグは昔強かったからな。
椎名　実力のパ（笑）。
玉袋　実力のパだったたんだよ。じゃあいい風が吹いてるんだな、マット界には。
ガンツ　よく見ると凄くおもしろいことになってきてるんですよね。
玉袋　うん、なってるよ！　だからさっき言った、団体内の選手の闘いじゃなく、やっぱり違う団体の選手が闘ってる、看板賭けてる感じがいいよね。で、じつは安田会長みたいな人がいれば、実現できるんだっていうこともわかったしさ。一応ラッピングとしては看板を賭けた闘いっていうふうにすりゃ、こっちは盛り上がるさ、そりゃ。
ガンツ　さらに燃え上がって年末に向けて五味vs青木戦とかが実現した日には、もう……。
玉袋　たまんねえな、おい！
ガンツ　じゃあ次の興行からは、全部が年末に向けての流れになっていきますね。
玉袋　年末調整だね、これからは。
椎名　年末進行ですよ！
ガンツ　JZと川尻の試合があって、7月には青木vsシャオリン戦が予定されてます。そして8月には『戦極』で北岡vs廣田のタイトルマッチ。
玉袋　いやぁ、おもしれえなあ！
ガンツ　で、9月にDREAMがまたあって、10月か11月にバリジャパがあって、そして大晦日！
玉袋　いいねえ！　これは積み上げてきてるね。一発勝負の『Dynamite!!』とはまた違う、物語がちゃんと積み重なってる感じがするな。だからやっぱり今回の『DREAM・9』は試合内容うんぬんよりもまずは視聴率！　だから（ホセ・）カンセコとかさ、そういうのを出すしかない！
[illegible]　しょうがねえよ、それは！
ガンツ　もうカンセコでも（ボブ・）サップでも誰でもいいからなんとか視聴率獲ってほしいですよね。
玉袋　看板だけはそういうのでいいんだから。清原（和博）連れてきてもいいんだよ！　清原vs伊良部とか観てえよ！　でも、ホントの中身はこっちだぞ、と。
ガンツ　じゃあ魔裟斗vs川尻戦、青木vs五味戦、清原vs伊良部戦を楽しみにするということで（笑）。
玉袋　まあ、70キロ級は注目だな。いま祭り囃子が聞こえてきたよ！

【09年5月22日／都内・中野坂上『加賀屋』にて収録】

本年度アカデミー賞主演男優賞ノミネート
08年ヴェネチア国際映画祭金獅子賞受賞　ほか受賞多数

呪いなきプロレス映画の決定版

"WITNESS THE RESURRECTION OF MICKEY ROURKE IN DARREN ARONOFSKY'S DEEPLY AFFECTING FILM."
David Ansen Newsweek
WINNER Best Picture
CLOSING NIGHT NEW YORK FILM FESTIVAL
OFFICIAL SELECTION TORONTO INT. FILM FESTIVAL
A FILM BY DARREN ARONOFSKY

MICKEY ROURKE
THE WRESTLER
MARISA TOMEI　EVAN RACHEL WOOD
IN SELECT THEATRES DECEMBER 17
WWW.FOXSEARCHLIGHT.COM

ブチ抜き15ページ総力特集!!

選手・関係者が観た
『レスラー』

プロレス映画史上の最高傑作として公開前から話題沸騰中の『レスラー』。
本誌ではこれまでに町山智浩、船木誠勝、マッスル坂井らに感想を聞いてきたが、
今回はさらに多くの識者に直撃！　その魅力を徹底追求だ!

「80年代や50年代を思い出そうというアメリカの流れの中にこの作品もあると思います」

文筆家であり、音楽家

菊地成孔が観た映画『レスラー』

これまでも本誌上で鋭い論説を展開してきた菊地氏が、前々号の『THE PROPHECY』に続いて今回も映画を評論! プロレス・カミングアウト時代の傑作作品を稀代のクリエイターがその多彩な知識で分析する!

聞き手／ジャン斉藤、真下義之

映画『レスラー』とは?

80年代の大スターでその後、低迷した俳優ミッキー・ロークが人生の再起をかけるプロレスラー役で出演。人生を投影した迫真の演技を見せて、数々の賞を受賞した。同時にプロレスの裏側も描いた問題作。本誌でもおなじみの映画評論家の町山智浩氏が、「08年のベストワン!」と大絶賛した奇跡的なプロレス映画。監督ダーレン・アロノフスキー、主題歌「ザ・レスラー」ブルース・スプリングスティーン。

6月13日(土)シネマライズ、TOHOシネマズ、シャンテ、シネ・リーブル池袋ほか全国ロードショー!

――さっそくですが、『レスラー』をご覧になっていかがでしたか?

菊地　普通によかったですよ。まあ『kamipro』的には今年は『レスラー』と『THE PROPHECY』って感じでしょうか（笑）。

――『THE PROPHECY』が並んじゃいますか（笑）。その話は、6月20日の『kamipr Move』のイベントでたっぷりお願いします。

菊地　頑張ります（笑）。えー、まあそうですね、『レスラー』に関してですが、そうだなあ、ワタシ最近『**フロスト×ニクソン**』、『**ミルク**』、『**グラン・トリノ**』を立て続けに観たんですよ。

――どれも08年のアメリカを代表する傑作ですね。

菊地　かなり大雑把に言えば、ですが。これらは「アメリカがもう一回反省する映画」というか、おそらくアメリカはいまオバマ政権の成立によって、また新たに反省する機会を得ており、反省する余地があるところが素晴らしいといった感じなんですが、無理矢理くくれば『レスラー』にも相

ボクサーには見えなかったのに こんなにレスラーに見えるとは（笑）

通じる部分を感じました。

――なるほど。

菊地　90年代から00年代初期にかけてのアメリカ映画は、**ポール・トーマス・アンダーソン**に代表される、ある種屈折してるというか、アメリカならではの鬱的な文学性がクローズアップされる時代でしたが、「あれじゃダメだった」という感じが最近にはあって、第一にこの『レスラー』は単純に娯楽作ですよね。一歩間違えたら単館上映のマイナーな映画になりそうな作品ですが、ヴィム・ヴェンダースの激賛によって流れが変わったというか。

――ヴェネチア国際映画祭で審査委員長を務めた映画監督ですね。

菊地　『レスラー』はヴェンダースの好きそうなアメリカ、ロック映画ですし、ヴェンダース自身がミッキー・ロークと似たような境遇というか、80年代がピークで、90年代以降はいま一つパッとしなくて苦しかった時代があったっていう。だからミッキー・ロークを見ると他人事じゃなくなっちゃうところも多少あったんじゃないかと思います。

――ヴェンダース自身が感情移入してしまったというか。

菊地　今回、この映画がヴェネチアで金獅子賞を獲ったというのはいい話ですけど、まあぶっちゃけ、ヴェンダースはちょっと盛り上がりすぎかな、と（笑）。確かに感動的な映画ですけど、こんなに賞を獲らなくていいんじゃないかという気はします。

――実際、アカデミー賞にも主演男優賞でノミネートこそされたものの

監督の「できるだけリアルな環境を作る」というこだわりのもと、プロレス・シーンでロークは本物のレスラー相手に体当たりの演技! 劇中にはアーネスト・ミラー、ロン・キリングスなど20名を超えるレスラーが登場。

受賞はしてないですね。

菊地　主演男優賞を受賞したショーン・ペンが「この賞はオレとミッキー・ロークのものだ」とスピーチしたというのもいい話ですが、いずれにせよ本当に主演のミッキー・ロークは素晴らしいです。ある意味、それだけの映画とも言えますね。知らない人が観たら本業のレスラーだと思う……というか知ってる人が観てもレスラーだという（笑）。

――確かにレスラー顔負けの身体でした。息づかいなんかもレスラーそのものですね。

菊地　『**ナインハーフ**』の頃からファンだったワタシが観ても完全なプロレスラーだと思いました。ボクサー転向に失敗し、いつの間にかプロレスラーになっていたんだなあ、と。なので、映画用と知って驚きました。よく身体を作ったな、と。でも逆に言ってしまうと、「3ヵ月でここまでできるようになるってことは、ひょっとしたらプロレスは簡単なんじゃないか？」って観る者に思わせてしまうきらいはあるかも知れません。バンプもちゃんと取ってるし、なかなかちゃんとしたムーヴでしたから。

――あ～、「3ヵ月であなたもレスラーに！」みたいな（笑）。

菊地　ウソでも2年間ぐらいやったとかにすればよかったのに（笑）。まぁ、そもそも才能があったとか必死だったとかエクスキューズはつくんでしょうけど。ただ、一つ気になったのは、プロレスラーがよく描かれすぎだという点です。実在のプロレス団体に協力を仰ぎ、現役レスラーがたくさん出ているからしょうがないんでしょうけど、プロレスの裏のドロドロしたところを描くのは『**ビヨンド・ザ・マット**』などでやりつくされたということなのかな。

――ドレッシングルームのムードもかなり温かったですね。

菊地　ミッキー・ロークが戻ってくるとレスラー全員がシェイクハンドしてハグして、主人公をロートル扱いするヤツがいたっていいものなんですけど、全員がリスペクトしまくっていて、とにかく悪い奴が一人もいないっていう。普通の職場だって気難しいヤツもいれば悪いヤツもいるんだから、あれを観たら一般の人は「レスラーっていい人たちばっかりだな」って思うんじゃないですか。

――確かにイヤなヤツはいなかったですね。

菊地　“清貧の思想”っていうのかな、プロレス業界は凄いマイナーでお金のない業界だがみんないいヤツなんだっていう描かれ方ですよね。

――ストーリーはいかがでしたか？

菊地　娯楽作とはいえ、ちょっと雑に感じましたね（笑）。娘とのデートをすっぽかして、娘に絶縁されるわけですが、「あのくらいで命懸けになっちゃっていいの？」という気持ちは拭いきれませんでしたし。

――冷静に見ると、自業自得なわけですから。

菊地　先ほど言った『グラン・トリノ』なんかもぜんぜん娯楽作ですが、最近の娯楽映画はきめ細かくて優れていて、アメリカ発で世界中に突き刺さる名作が続いたんで、よけいにそう感じるのかもしれませんけど。だから逆に言うと、『レスラー』はこんなに賞を獲らず、マイナー映画としてDVDか何かで観たらもっと感動したとさえ思わなくもないんですが、まあそういうときは誰かもの好きがほめるわけで、それが今回ヴェンダースだったという話だと思うわけですが、それでもとにかくミッキー・ロークの存在感と演技と人生だけは文句なしに素晴らしいですね。ボクサーやってるときはまったくボクサーに見えなかった男が、こんなにもプロレスラーに見えるという（笑）。

――必殺技が猫パンチですから（笑）。

菊地　あらゆる意味でのリアリズムが凄いわけです。のめり込ませますね。

――この映画を観た船木（誠勝）さんは、この主人公が実際にいるように本気で心配してましたからね。「彼はクスリを打ちすぎですね」とか（笑）。

菊地　やっぱ打ちすぎでしたか（笑）。あと、プロレスの舞台裏の描き方に関して、もう時効になってるっていうか、我々が見てもショッキングじゃない時代になったんだなって思いましたね。いわゆるミスター高橋本

見事なまでにビルドアップされたロークの肉体。「3ヵ月のプロレスで16年間のボクシングよりも多くのケガをした」と撮影を振り返ったローク。その姿には現役のレスラーもただ驚くばかりだったとか。

があって『ビヨンド・ザ・マット』があって、段階を踏んで免疫がついたというか。もしも、10年前に『レスラー』が公開されていたら相当ショッキングですよね。

——ええ。それでも、まだ日本のプロレス業界的には、この映画を認められない部分があるみたいですね。だからといって「文句を言うのも格好悪い」自覚もあるから、「なかったこと」にするしかないというか。

菊地 出た。「なかったことにするしかない」(笑)。

——そういう意味では、この映画でミッキー・ロークと恋人のストリッパーが「80年代がよかった」って語り合うシーンがありますけど、プロレスファンに向けてのメッセージにも受け取れる気もしますよね。90年代はUFCやPRIDEができたり、カミングアウト問題でプロレスはメチャクチャになったわけですし。

菊地成孔
が観た
映画『レスラー』

「80年代がよかった」というのはプロレス&ロックファンの合言葉

菊地 その点がこの映画の、「ミッキー・ロークという存在」に次ぐ、第2に重要なテーマだと思います。いまいちギクシャクしていた主人公二人が、バーで「80年代最高、90年代サイテー」と言い合って、いきなり意気投合する。二人とも50絡みなんですよ。「ガンズ(・アンド・ローゼス)までは よかった。ニルヴァーナですべて丸潰れ」「80年代のお気楽が台なし」という。こういった台詞はある種のロックファンとプロレスファンの合言葉だろうし、最初に言った「90年代の反省の仕方じゃダメだ」という流れに合致していると思います。

——しっかりと反省しよう、と。

菊地 アメリカという国は、拭いきれぬ罪悪感、漠とした深い鬱、そして家族の崩壊といった面と、トンチキでハンバーガーでデブという面のサンドイッチですが、90年代というのは、反省するにしても盛り上がるにしてもシリアス方面に振りきれちゃって、アメリカ国文学みたいになっちゃってたじゃないですか。『マグノリア』とか『アメリカン・ビューティー』みたいな。

——どちらもアメリカの闇や孤独な登場人物を描いた作品ですね。

菊地 当時はあれも有効だったけれども、あれによって何が変わったわけでもない。だから、反省の仕方が変わってきてマイケル・ムーアみたいのを経由して、ここ最近の娯楽作みたいな「もっと80年代は気楽だったのに」「そのとき頑張ってたヤツがまだ頑張ってるってことで充分じゃないの。最後は死んじゃうんだけど」っていうメッセージのあり方に傾いている気もします。『グラン・トリノ』は(クリント・)イーストウッドが主人公を演じていて、50年代の朝鮮戦争で時間が止まってる男が、現代のアメリカの反省としか言えないような事件にぶつかっていくんだけど。まあとにかく、そういった意味での「80年代や50年代を思い出そう」という、ちょっとした流れの中に『レスラー』もある気がしましたけどね。

——景気のいい時代を思い出せ、と。

菊地 そもそも、この映画を監督したダレン・アロノフスキーって90年代に「天才」って言われて、デビュー最初はキレキレでエグい映画ばっかり撮ってたんですよ。『レクイエム・フォー・ドリーム』なんてホントに救いようのない、悲惨な映画だもん。

——クスリで家庭崩壊していく家族の映画ですから。

菊地 そういう世界感が好きな世代の監督なんですよね。あるときから反省して純愛モノとか撮ってるんですけど(笑)。「レスラー」は、いい意味で、アレノフスキーの転向ぶりが出た。『グラン・トリノ』などの中にある「アメリカはもう取り消しがきかないファックだと思っていたが、オバマになってひょっとしたらやり直

『フロスト×ニクソン』
08年制作、ロン・ハワード監督。伝説的なインタビュー番組の司会者デビッド・フロストと、ウォーターゲート事件で有名な元大統領リチャード・ニクソンのトークバトルと、その舞台裏に迫った作品。第81回アカデミー賞では5部門にノミネートされた。

『ミルク』
08年制作、ガス・ヴァン・サント監督。70年代のアメリカで、同性愛者であることを公表したアメリカ初の政治家ハーヴェイ・ミルクの生涯を描いた伝記ドラマ。個人の権利を守るために闘ったミルクをショーン・ペンが演じている。第81回アカデミー賞では主演男優賞と脚本賞を受賞。

『グラン・トリノ』
08年制作、クリント・イーストウッド監督。イーストウッド演じる朝鮮戦争従軍経験を持つ主人公が、愛車グラン・トリノを盗まれそうになったことをきっかけに、アジア系移民一家との交流していく姿を描く。イーストウッドは今作を最後に俳優業からの引退を宣言している。

ポール・トーマス・アンダーソン
1970年生まれのアメリカの映画監督。70年代の米ポルノ業界の内幕を描いたデビュー2作目の「ブギーナイツ」が賞レースに躍り出たことから、一躍注目される存在に。『マグノリア』ではベルリン国際映画祭金熊賞を受賞した。

『ナインハーフ』
85年制作、エイドリアン・ライン監督。キム・ベイジンガー演じる離婚したばかりの女と、一人の謎めいた男(ミッキー・ローク)が9週間半にわたってアブない恋のゲームを繰り広げるエロティック・ラブ・ストーリー。ロークにとって出世作であり、本作でセックスシンボルのイメージが定着。

『ビヨンド・ザ・マット』
99年制作、バリー・W・ブラウスティン監督。カミングアウト時代の先駆けとしてプロレスの壮絶な舞台裏を描いた傑作ドキュメンタリー。ミック・フォーリーとザ・ロックの試合打ち合わせ場面やドラッグに溺れたジェイク・ロバーツの姿など話題を呼んだ。

ブルース・スプリングスティーン
1949年生まれのアメリカを代表するロックミュージシャン。労働者階級の報われない生活や病んだアメリカを歌い、民衆の声を代弁する存在としてカリスマ的人気を博す。『レスラー』ではロークのために、ツアーの旅先でオリジナル曲を作成、「自由に使ってくれ」と申し出た。

まだ日本ではこの映画程度でも"踏み絵"になるんでしょうね

せる可能性があるかも。厳しいけど」といった感じは映画界と言わず、あらゆる表現に満遍なく広がってるような気もします。でも、『レスラー』は「とはいえもう変わらないんだよ、プロレスは」っていうブルース感も濃厚に漂っていて、そこがいいんですよ。

——変わらないでしょうね、プロレスは。

菊地 とはいえ、楽観的な感じもあります。90年代シリアス組が観たら、「ぜんぜん悲劇じゃねえじゃん」「主人公が落ちぶれなかっただけでもいいよ」「80年代のお気楽ファック」と言うかも知れない。家庭がうまく回せないだけで、ずーっと人気レスラーで、ロートルだけどみんなも優しいっていう。

——基本的にはリスペクトもされてますもんね。ズバリ、この映画は日本でヒットすると思いますか？

菊地 どうなんでしょうか。日本でこの映画をかけ値なしに感動しておもしろがる人というのは、アメリカンカルチャー好きでありつつ、プロレスには幻想を持ってない人だと思います。「ノアだけはガチ」系でない人というか（笑）。

——狭いですねぇ。ウチで作った『八百長☆野郎』を喜んで読むような人が絶賛するかも知れないというか。

菊地 恐るべきことですが、まだ日本ではこの映画程度でも"踏み絵"になるってことでしょうね。

——いまだに"踏み絵"（笑）。でもそれが現実かもしれませんね。

菊地 アメリカでこの映画によって議論が起こったなんて話は全然ないでしょうし、『ビヨンド・ザ・マット』も日本よりも多くの人が観たと思うんですよね。そもそもＷＷＥ自体がカミングアウトを公式発表してるわけですし。だからコンセンサスとしてロックのライブと変わらないというか、観客をヒートさせるショーをやってるだけだっていう。それが偉大なのだという。

——そうなると、日本では内心こういう特集にカチンときてる人もいるかもしれないですねえ。

菊地 カチンというか、「頼むからやめてくれ」って感じですかね。

——でも、日本でもまだガチだと信じてるファンはさすがにもういないと思うんですよ。もう知ってるけど、それをあらためて言われる人がイヤだっていうのが多いんじゃないかなと。

菊地 それは日本人の大和魂ですね（笑）。日本人は「わかってるから口に出すなよ」っていう文化じゃないですか。

——みなまで言うな、と。

菊地 欧米人は「おまえ、まだわかってないのか」と、どんどん説得していく文化。日本人とアメリカ人がどんなに似ようと、この一線は埋まりきってないですね。アメリカにはいまだに『マッスル』はなく、日本にはいまだにＷＷＥがない、ということですが。あとは**ブルース・スプリングスティーン**が無償で主題歌を担当したっていうのもね、これもある種凄いプロレス的ですけど（笑）。

——ロークが手紙で頼んだっていう。

菊地 たとえそのエピソードがウソだっていいんですよ。そういう意味でも本当にプロレス的な映画だと思いますし。ですからやっぱり、アメリカンカルチャー好きで、主人公たちと同じく90年代は暗くてイヤだったというような感覚で、かつプロレスについては完全に割りきっている……そうすると本当にターゲットは狭くなりますが。（笑）。

——ウチの読者層にさえ当てはまるか心配です（笑）。ちなみに船木（誠勝）さんは「これを観てレスラーになる人はいないだろう」って言ってたんですよ。

菊地 まあ、この映画はプロレスがドサ回りのモンキービジネスなんだということを既成事実として描いちゃってるので、メジャー思考の人にとってはよろしくないでしょう。でも、それは要するに、ブルース感あふれる娯楽映画にとって、ドサ回りのモンキービジネスのほうがＷＷＥみたいなものよりも素材として魅力的であり、手軽であって、勢いプロレスを描いてる映画に偏りが出ているということですよね。音楽も一緒で、スタジアムを回る人もいれば、ライブハウスで自分でチケット売ってる人もいるんだっていうだけのことで。

——日本でもこういう映画を観てみたいですけどね。

菊地 新日やノアからＩＷＡ湘南まで、満遍なく描いてほしいですよね。業界タブーさえなく、バジェットが大きければできますよね。アメリカも、もしこの映画が大当たりしたら、次のプロレス映画は、業界内のヒエラルキーも描くかもしれない。いずれにせよこの映画に関して言えば悪い気にさせるところとか、べつに何もないからいいですよね。「レーガンはよかった、ブッシュはダメだ、オバマは期待が持てる」って話に還元されちゃうとつまらないですが、そんなことはどうでもよくて、80年代のカルチャーはおバカでギラギラしててよかった、90年代みたいにシリアスなのはどうかなっていうことだけで。で、いま90年代嫌いで80年代好きのまま生きてると自然とこの年代になって、心臓も悪くして、大変なんだっていう（笑）。

——ダハハハ！

菊地 ただ、個人的にはプロレスがそんなに裏ぶれて暗いビジネスだという感じに見えませんでした。「どうせ景気は悪いんだ。好きなことやってるんだからいいじゃない」というか、何やっていいかわからない人にとっては、うらやましい話だと思いますよ。お金は儲かるけど人間関係やなんだで摩耗しながら働くメジャービジネスより、この映画のように周りの仕事仲間が温かいほうに魅力を感じることが多いと思いますし。船木さんの見立てと逆に、プロレスラーになりたい人が増える可能性すらあるかも知れない（笑）。

【09年5月18日／都内・菊地氏の事務所にて収録】

きくち・なるよし■1963年6月14日生まれ。音楽家、文筆家。ジャズミュージシャンとして活動する一方、音楽、映画、料理、ファッションなどの著作多数。『kamipro』の論客としても知られ、谷川貞治FEG代表のキャッチフレーズ"谷川黒魔術"の生みの親でもある。格闘技批評に『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍』（白夜ライブラリー）。

「これは人間の弱い部分すべてを飲み込むプロレスの懐の深さがあってこそ成立した作品です」

映像監督／ドキュメンタリー作家

森 達也が観た映画『レスラー』

業界の一部では黙殺されている本作を絶賛しているのが、日本を代表するドキュメンタリー作家の森達也氏。この映画を通して森氏は独自のプロレス論を展開、さらに話は思わぬかたちで氏の自己言及にまで発展した!

聞き手／真下義之

——森さんは『レスラー』を大絶賛されてるそうですね。

森　うん。とてもとても素晴らしかったです。でも、家族を失なった元チャンプが、大試合でもう一回返り咲こうというストーリーの骨子は、とてもステレオタイプだし、その意味ではとくに工夫はない映画です。

——確かにありがちですよね（笑）。

森　ただ、このストーリーラインって、ボクシングではいくつもあったけれど、プロレスではなかったでしょう。それはプロレスというジャンルの性質上、このストーリーが成立しないからであって……つまりプロレスの試合を〝真剣勝負〟として描くと茶番になっちゃうから。

——そこが『レスラー』を作る最大のポイントだったと思います。

森　『レスラー』は「試合はフェイクだけど、こんなに必死で、こんなに真剣で、こんなに命懸けなんだ」って部分を見せてくれる。だから、虚実をひっくるめてプロレス好きの僕はたまらない作品です。

——プロレスの清濁を併わせ飲みつつ、誠実な視線で描いてますから。

森　裏側を見せるという意味では、「そこまで見せなくてもいいじゃん！」って気持ちもあるにはありますよ。ただ、ジュース……額をカミソリで切って血を流すシーンをじっくり描いてるけど、その行為を否定したりする内容ではない。むしろ「こんなに命懸けなんだ」っていう裏づけのための描写ですから。

——映画として観たらどうですか？

森　かなり好きな映画ですね。自分のフィールドであるドキュメンタリ

プロレスの醍醐味やドリームは〝ドサ回り〟にこそあると思います

ーっぽい撮り方ですけど。こういう撮り方っていま多いでしょ？ 鼻につく場合もあるんですが、この作品は方法論として成功してますよね。

——虚実の〝実〟を描く必然性もありますし。単純に低予算映画だという面もありますけど（笑）。

森 確かにね（笑）。でも、抑えた演出がリアルさを喚起しているから、観ながらプロレスラーという職業の痛みがヒシヒシ伝わってきますし。僕には珍しいですが、ひさびさにのめり込んで映画を観ました。

——ただ、プロレス関係者からは「暗い面を描きすぎだ」とか「夢がなさすぎる」という意見もあるんです。

森 そうなの？ ……いや、これこそプロレスの夢なんじゃない？

——えっ!? どういうことですか。

森 一年に一回は東京ドームとかで華やかにやるのもいいけど、僕は地方の体育館とかで子どもにいたずらされながら試合をする〝ドサ回り〟にこそ、プロレスの醍醐味やドリームがあると思うのだけど。

——プロレスの本質はドサ回り!?

森 ええ。ほかのスポーツのように「世間からの脚光を浴びることが夢」ってのは、プロレスの場合は当てはまらないと思いますから。

——むしろサーカス的なドサ回りの世界こそふさわしい、と。

森 そういう視点もこの映画には入ってますし。それに煌々とたくさんのライトに照らされると〝影〟って消えちゃうじゃないですか？

——強烈なライトが当たれば、〝影〟は見えにくくなりますね。

森 でも、プロレスには〝影〟こそが必要不可欠なんです。影が大事なんです。僕の定義だけど、〝影〟がなくなるとプロレスって凄く味気ないと思うんです。だから「地方の薄暗いとこでノソノソやるのがいいな」と（笑）。

——好きなプロレスを仕事として選んだ人の悲哀も描かれてますね。

森 好きなプロレスねえ……。ミッキー・ローク演じる主人公のランディが、バイト先のスーパーでファンに声をかけられて、必死に自分がレスラーであることを否定する場面があったでしょ？ それは「落ちぶれた自分を見られたくない」って気持ちと併わせて、どこか「レスラーであることを言いたくない」って部分も感じたんですよね。

——ほほう。

森 レスラーというアイデンティティは、単純に全肯定できるものではない。ランディは「本当に好きでプロレスをやってたわけじゃない」と思うんです。むしろ職業を選択する中で、「これしかなかった」んじゃないかな。強烈なこだわりはあるけれど、情熱とは少し違う。「プロレスを選ばざるをえなかった」男というか。だから、これはプロレスにすがってズルズル生きてるダメ男の話です。

かつての栄光の日々とは裏腹に、"本業" 以外にスーパーのバイトで生計を立てる主人公。なんとも人生の哀愁が漂ってくるシーンである。

——確かに（笑）。そういう意味で、「ハリウッドの落ちこぼれ」だったミッキー・ロークはピッタリですね。

森 ロークという俳優もよくわからない人で、スターダムに行くはずが違う方向に行っちゃったじゃない？ 顔も変わっちゃったし。

——整形で戻そうとして、ますますへんな顔になったり。一度は落ちぶれたロークの実人生が反映されてる部分もありますね。

森 最近もそこそこ映画に出てましたけど、イメージとしてはランディと重なります。まあこの映画は、人間の弱さとかズルさ、すべてを飲み込んじゃうプロレスの懐の深さみたいなものがあるからこそ成立できた映画でしょうね。野球選手だったらこんなストーリーは作れないでしょ。

——一般的なスポーツでは成り立たないでしょうね（笑）。

森 プロレスって仕事は、徹すれば徹するほど、矛盾を感じるんじゃないかな。まず「人前で人を殴る」ことが仕事になる、それでお金をもらうのもへんな話だし。そこまではボクシングもそうだけど、でもプロレスの場合は、殴っているフリをして、じつは殴っていないとか。自分で額を切るとか。二重三重で観客や自分を裏切ってるわけですよ。僕はプロレスラーじゃないから、葛藤の深さは想像がつかないですけど。

——映画で俳優が役を演じるのとは違うわけですから。

森 三重四重にねじれてるからね。たぶん、やってるほうもよくわからなくなると思うんです。じゃあ「フェイクだから気合いを入れなくていいのか？」っていうとそんなこともないわけで。身体を作るために練習しなきゃいけない、でも技のタイミングは合わせなきゃいけない。それにデスマッチとはいえホッチキスを自分の身体に打てるのか？ 感覚的には突き抜けてますよ。

——「ファンの歓声が忘れられないからやってしまう」ような部分も描かれてましたけど。

森 その歓声も「こっそり凄いことをやっていること」に対してかもしれない。とくに日本はカミングアウトしてるわけじゃないから、普通のスポーツのように「10秒切りました！」って歓声とは違うと思うんですよ。どっかでファンもレスラーも〝うしろめたい〟部分を引きずってるんじゃないですか？

——職業としての〝うしろめたさ〟はつきまといますよね。

森 難しいところで、僕はミスター高橋さんみたいに「もっとカミングアウトすればいい」と思ってはいるけれど、でもしちゃうと、今度は影がなくなっちゃいますよね。

——確かにそうですね。

森 逆説的ですけど、「世間をあざむき、自分をダマし」って部分があってこそ、プロレスは成り立ってると思うんですよ。常に矛盾してるし、矛盾していなきゃダメ。整合性ができちゃダメなんですよ。

——試合に勝っても、「試合がしょっぱい」と言われるわけですから。その矛盾は凄いでしょうね。

森 あと、バックステージでレスラー同士の交流をポジティブに描いてたけど、実際はレスラー間の嫉妬やギャランティで揉めたりとか……。

——ネガティブ面もあるでしょうね。

森 そこはフタをして団結を見せる。それもあながちウソじゃないですから。とくにECWみたいなハードコア団体はああいうことがあったのか

本作には我らが"酔いどれ流血オヤジ"ネクロ・ブッチャーもおいしい役どころで登場! 本物の試合さながらに主人公と流血ファイトを展開、等身大のデスマッチファイターの生き様を好演している。

森達也が観た映画『レスラー』

プロレスラーは前向きじゃなくため息ついてるほうに好感が持てます

もしれない。デスマッチこそ相手を信頼しないとできないでしょうし。日本だと、大日本プロレスに似ているかもしれない。

——ええ。家族のような関係でありながら、デスマッチをやったり。森さんはNHKの番組で大日本の道場に行っていますよね?

森 そのとき、大日本のレスラーとスパーリングをしたんですよ。

——えっ? スパーリングを?

森 関本(大介)さんに技をかけてもらったんですけど……あれはやっぱり凄い!

——ダハハハハ! なんの技をかけられたんですか?

森 ボディスラム(笑)。僕は「ジャーマン」って言ったんだけど、「危険です」と言われて。落とす寸前でピタッと止めてもらったけど勢いはついているから、衝撃は凄かったですね。みんな八百長だなんだって言うけど、「一回、ボディスラムを受けてみろ!」と。あれは体験しないとわからない。……でも、「体験しないと凄さがわからない」のはプロとしては問題があるんだけど。

——外野をダマらせる手段として、レスラーは「バンプをとってみろ!」と言いますね。

森 プロレスの問題は「痛みが伝わりにくい」という部分もありますよね。だから蛍光灯も使ってるんでしょうけど。

——この映画は「人気商売に就くと逃げられない」部分も描いてますが、森さんも「森達也業をまっとうしなきゃいけない」みたいな部分は?

森 ……森達也業? 何それ?(笑)いや、そんなにこだわっていないです。そこも『レスラー』も近いというか。ポジティブなパッションじゃなく、「ほかに仕事があればいいけど、ないしなぁ」って(笑)。

——もしかして、森さんもズルズル状態で?

森 うん。この映画のランディもプロレス以外でできるのはスーパーの店員とかでしょ? でも、昔のファンに見られたら肝心なとこでキレちゃったり。あれがなければ普通に店員ができたかもしれないけど。その反動でリングに向かうなら、プロレスに前向きじゃないですよ。……まぁ、そもそも僕はプロレスラーは前向きな人は苦手というか。

——ズルズルなほうが好感が持てる、と?

森 うん。もっとため息をつきながらやるスポーツだと思うんだけど……。僕はそういうタイプだから、この映画はピッタリなんですよ(笑)。

——以前、あるインディーレスラーの取材に行ったら、その人は団体のトップだったんですけど。狭くて寒い合宿所で若手が納豆ごはんとカップラーメンをすすってる隣でストーブに当たりながら取材をしたことがあ

00年代の日本プロレス映画作品

『MASK DE 41』
01年制作、村本天志監督。会社をリストラされた中年男が、長年の夢だったプロレス団体旗揚げを目指し、家族も巻き込み奔走するヒューマンコメディ。田口トモロヲが肉体改造をこなして主演を務めた。FMWが全面協力、ハヤブサも出演している。

『あゝ! 一軒家プロレス』
04年制作、久保直樹監督。大手AVメーカーであるソフトオンデマンドの高橋がなり社長(当時)が5億円をかけて制作。主人公は故・橋本真也、ライバル役にはニコラス・ペタスが出演。上映劇場をテレビCMで募集するという試みでも話題に。

『お父さんのバックドロップ』
04年制作、李闘士男監督。原作は故・中島らもの小説で、本人も散髪屋役で出演。宇梶剛士演じる主人公が、プロレスが大嫌いで父親の職業を恥ずかしく思っている息子の信頼を得るために、強豪空手家との異種格闘技戦に立ち向かう。大日本プロレスが全面協力。

『いかレスラー』
04年制作、河崎実監督。難病を克服し、いかレスラーとして再生した主人公を、自身もガンを克服した西村修が熱演。たこレスラー、しゃこボクサーといった強敵との死闘を描く、シュールな海産モンスターヒーロー巨編。高山善廣やAKIRAも出演。

『ワイルドフラワーズ』
04年制作、小松隆志監督。亡き母の遺言である弱小女子プロ団体経営の継承を強制的に引き受けた主人公(岡田義徳)が、次第にプロレスの魅力に取り込まれながら奔走。ジャガー横田やキューティー鈴木が出演。

『ガチ☆ボーイ』
07年制作、小泉徳宏監督。眠るとその日のことを忘れてしまう青年が、学生プロレスを通じて生きる実感を取り戻していく青春ストーリー。段取りが覚えられず、毎試合ガチになってしまう主人公を、『Dynamite!!』でキャスターを務めた佐藤隆太が好演。

『スリーカウント』
09年制作、窪田将治監督。経営難で解散となった弱小女子プロレス団体。生き別れた父親との唯一の手がかりである団体の復興を目指して、新人女子レスラーが奮闘する姿を描く。井上京子やさくらえみが出演。

『レスラー』は自分の合わせ鏡というか生き写しだと気づきました（笑）

って。「凄い職業だな」とショックを受けたんですけど。

森　ああ、僕はそういうところにこそ魅力を感じますから（笑）。

——そこは特殊ですね（笑）。TAJIRIさんなんかWWEでスポットライトを浴びてるんで、この映画に関して「ここで話を終わらせてもらっちゃ困る」って部分もあるみたいで。

森　僕はリングに上がってるわけじゃないから、TAJIRIさんのほうが正しいのかもしれない。ただ、アメリカでWWEに上がってメインを取ったから、即大スターというわけでもないと思うんです。

——WWEもUFCと同じくメガインディーの世界ですね。コア層だけで充分にビジネスが成り立つという。

森　ギャラは稼げますけど、世間的には色物扱いだと思うんです。だから、みんなギャラに執着して一生懸命になるんじゃない？

——そこはいい意味でビジネスライクですね。

森　仕事のリスキーさを知名度で換算できないから。ただ、だからこそ、プロレスはおもしろいと思うんです。「自分でもよくわからない仕事をしててごめんなさい」っていう。極論すると「いかにうまく客をダマすか」という職業でしょ？　マジックは「トリックです」とやってるからいいけど、日本のプロレスはカミングアウトもしてない、この曖昧な状態が何十年も続いてるわけで。それで家族を養っているんなら、複雑な葛藤は絶対あるだろうし。こんなことを言っちゃなんだけど、決して胸を張れる職業じゃないと思うんだよね。

——う〜ん、カミングアウト問題でそこに焦点を当てたことはなかったですねぇ。ただ、船木（誠勝）さんは「この映画を見てプロレスラーになりたいと思う人はいないんじゃないか」と言ってましたけど。

森　いいんじゃない？　そこでリクルートする必要もないだろうし。

——ノアのテレビ中継がなくなったり、ドンドン縮小化する一方ですが。

森　それでもプロレスは滅ばないし、死なないですよ。日陰のスポーツですから、ゴールデンタイムでやっちゃダメなんです。最初からそういう出発点で生まれたスポーツじゃないんだから。

——もともとの出自はサーカスだったわけですからね。

森　黎明期はテレビの誕生と相まってキラーコンテンツになったけど、あれは一過性の現象ですし。先日も「ノア中継が終わる」ことで新聞からコメントを求められたんです。記者は「残念です」的なことを聞きたかったんだろうけど、「これでいいんじゃないの？」って言ったら、ビックリしてましたね（笑）。

もり・たつや■1956年5月10日、広島県呉市出身。映画監督、ドキュメンタリー作家。98年にオウム真理教の荒木浩を主人公とするドキュメンタリー映画「A」を公開、海外でも高評価を受ける。現在はドキュメンタリー制作、執筆を中心に活動。おもな著書は「悪役レスラーは笑う」（岩波書店）、「死刑」（朝日出版社）など。

——記者は驚いたでしょうね（笑）。

森　深夜の放送で年に一、二回ぐらい流して、あとは興行収入でやっていく、と。それでは「夢がない」って人もいるかもしれないけど、僕からしたら、それが夢なんですよ。日陰者の屈折した部分こそがドリームなので。だから、インディーの道場の隅でカップラーメンを食べながら頑張ってるプロレスラーを心から尊敬するしね。

——そういう部分に惹かれるのはどうしてですか？

森　僕も明るいほうに行きたくないとこがあるからかな。まぁ、僕の場合はオウム真理教で色がついていますから。

——確かに森さんは、オウムのドキュメンタリー映画（『A』）で注目されたわけですけども。

森　この前もNHKのある番組から話があったんですが、ディレクターに「森達也は生放送は危ないからダメだ」と言われたらしくて、土壇場でとりやめになったし。

——オウムに真正面から切り込んだって部分で、確かに異端ではありますけど。

森　その『A』に関しても、最初はテレビで放送するつもりだったのがズルズル映画になってしまったわけで、強烈なモチベーションありきじゃないんです。僕はトロいから、ほかのメディアが現場に集まっているときはどうしても弾かれてしまう。騒動が沈静化した頃にあきらめきれずに撮ったらああなった。だから「硬派」や「社会派」なんて言われると「まずいなぁ」って思いますし。それはプロレス的だよね。みんな自分のことを誤解してると思ってますから。

——森さんも世間に誤解されていることに葛藤がある、と。

森　だから、うしろめたさもありますよ。ただし、「みんながそう思ってて、商売になるならそれでいいや」と思ってますね。そういう意味では、『レスラー』っぽいでしょ？

——森さん自身も『レスラー』だったというか（笑）。

森　合わせ鏡というか生き写しだよね。今日、自分でも話しながら確認できたけど（笑）。やっぱりプロレスって日が当たったらダメだと思いますよ。もちろん、レスラーの側からは言いづらいでしょうけどね。

——でも、森さんにゴールデンのニュースキャスターの仕事が来たら？

森　そりゃあ受けますよ！　……でも、おそらく失敗するでしょう（笑）。基本的に向いてないし。だから、この映画の続きがあったとして、ランディがWWEみたいなメジャー団体から「ウチに出ないか？」って話があれば、きっと大喜びで行くでしょ。……で、きっと失敗するんですよ（笑）。

——そのへんもダメな感じで（笑）。ロークもアカデミー賞で主演男優賞にノミネートされたけれど、結局は賞を獲れませんでしたし。

森　素晴らしい映画だけど、アカデミー賞を獲るような作品でないよね。日本でも大ヒットはしないでしょう。

——配給会社の方には申し訳ないですけど（笑）。プロレスの本質をえぐった凄い作品でありながら、一般世間には届かない、と。

森　そこがまたプロレスらしくていいじゃない？　そういう意味でもプロレスと同じ、二重構造の作品だということですよ。

【09年5月8日／都内・某所にて収録】

「トリプルHみたいなきらびやかな世界はあるし、あの主人公もプロレスの一部にすぎないんですよ」

TAJIRIが観た映画『レスラー』

TAJIRIは日本のインディ団体でデビューして以来、世界中を渡り歩きながら、WWEという世界の頂点に君臨するプロレス団体で長期間にわたって活躍した経歴を持つ現役のプロレスラーだ。プロレスを題材にしたマンガ原作も多数発表しており、“プロレスのストーリー性”には並々ならぬこだわりを持っている。そんなTAJIRIは、この一人のプロレスラーの物語をどう観たのだろうか!?

聞き手／坂井ノブ

――たったいま試写をご覧になられたわけですが、率直にいかがでした？

TAJIRI そうですね、「これしかできない」という人の話でしたね。これ、主人公ランディの人間としての成長はあったんですかね？

――成長はしてませんね。

TAJIRI ないですよね。ただ、「これしかできない」ってことがわかったんですよ。あのー、一番死にかかったときに、心臓のバイパス手術をしたじゃないですか？ アメリカって医療費が高いから大丈夫なのかなっていうよけいな心配をしましたね。

――アメリカは国民健康保険みたいな制度がないんですもんね。

TAJIRI ええ、だから自分で保険に入ってなきゃいけない。あんな手術をしたら、おそらく億までとはいかないまでも2000～3000万円は絶対かかると思うな。ああいう環境でやってるレスラーなんかはほとんど保険なんか入ってないですからね。

――いまとても現実的なお話をされましたけど、この作品ではお金の部分がリアルに描かれていたように感じたんですよ。

TAJIRI ええ、20ドル札でギャラを渡されるシーンなんかはリアルでしたね。本当にフロントって100ドル札なんか持ってないんじゃないかっていう世界ですから。それは実際、僕もWWEに入る前にCZWでやってたからわかるんですけど。

――まさにああいった、「今日は客の入りが悪いからちょっと勘弁ね」みたいな。

TAJIRI ええ。バックステージのやりとりとかもリアルでしたが、僕の知ってる顔がいっぱいいたのが嬉しくなりましたね（笑）。「あー、コイツまだ元気で生きてるんだ」ってヤツが何人かいたんで。

――でも、あのあたりのシーンは「レスラーというのはお互いが了解のうえで痛めつけ合って、なおかつ死ぬまでやってるっていう職業なんだ」っていう肯定的な見せ方でしたよね。“カミングアウト”が目的というのとは違う。

TAJIRI そんなものに命を懸けてる男を、ハッスル流に言うと、「バカバカしいことを大の大人が一生懸命やってる」っていうね。だからなんかもう、世界中でプロレスに関するそのへんのことは、もうカミングアウトとかいう段階は卒業してますよね。いまや暴露本なんていうのも、もう時代遅れだし。実際に僕も漫画の編集者とかと話をしてるとね、みんな「もう暴露本は終わってるんで」って言うんですよ。

――その段階はたぶん2000年とか2001年で崩れてますからね。

TAJIRI そうですね。でもこれは僕の個人的な感想ですけど、正直、ランディからは物語の主人公たるいい部分があまり見えなかったですね。この人って、もともとの資質がインディーの人なんじゃないかな。

――かつて栄光を味わった人間があの環境で生きていけるっていうのは、相当プロレスが好きなのか、それと

思い出したくないようなことを思い出させられた内容でしたね

もそれしかない人生なのかいうことですよね。

TAJIRI　ランディの姿とちょっとダブッたのは、WWEにいたサニーちゃん。あの娘もWWEであれだけ栄華をきわめた時期があったけども、ある年、ECWにキャンディードと二人でやってきたときはもうドラッグの注射の跡だらけで、酒を飲む手が震えてるような状況だったんですね。一回ね、控室でサニーちゃんが僕の横で「あー疲れた」ってうつ伏せになって、その場でガーガーいびきをかいて寝始めちゃったことがあったんですよ。心配じゃないですか？　あわてて起こそうとしたんですけど、叩こうが何しようが起きないんですよ。そしたらキャンディードがワーッて来て、肩に担いでどっかに連れてっちゃって。

――うわあ……。たとえば80年代に活躍してたレスラーの死因って、とくに心臓系の病気が多いですよね。あれなんかは完全に薬物依存症でっていう捉えられ方をされてるわけですけど、実際そういうレスラーをTAJIRIさんなんかは腐るほど見てるわけですよね？

TAJIRI　まあ、いっぱいいますよ。だけどやっぱりトリプルHみたいな本当にきらびやかな世界もプロレスにはあるし。だからあの主人公も惨めなんですけど、それはあくまでもプロレスの一部分なんですよね。

――あえてプロレスの一番底辺の部分を描いている、と。

TAJIRI　底辺のホントに底辺ですよ、この映画で描かれている世界は。痛々しくて途中で息苦しくなってきましたからね。

――僕なんかは悲惨だと思う反面、「これも男の生き様だよな」っていう気持ちで観てたんですが。

TAJIRI　確かにそうですけど、ちょっとダメ男すぎて僕はあんまり感情移入できなかった。娘との約束をすっぽかして、コカイン吸って×××してたシーンとか。なんか一つぐらい良いとこ見せてくれてたら……でもそれがいいのかなあ？

――レスラーの周辺ではああいう環境ってメチャクチャたくさんあるわけですよね？　家庭崩壊だったり、副業をしながらだったりとか。

TAJIRI　ありますあります。惨めなんですよね。だけどファンは変わらずリスペクトをしてくれる。それがまた本人にはつらいところなんですよ（笑）。なんかね、思い出したくないようなことを思い出させられた内容でしたね。あれを観てレスラーになりたいと思う人はいないかもしれないですね。

――まあ、少ないでしょうね。

TAJIRI　日本の映画も最近なんかこう、せいぜい0が1になったような映画が多いんですけど、アメリカもそういう傾向なんですかね？　『ロッキー』なんて0が100になる映画だったじゃないですか。

――それがあんまりリアリティがなくなってきたんじゃないですか。

TAJIRI　なるほどね。でも僕は0が100になっちゃうほうが好きだな。

――それで、この作品でのプロレスの描かれ方っていうのはわりと決定的だと思ったんですけど、これをプロレス専門誌とかはどうやって書くのかがちょっと気になりましたね。

TAJIRI　うん、それはちょっと気になりますね。でもたぶん、●●●●なんかが「私もあの会場の熱気に酔ったことがある」とか書くだけじゃないですかね（笑）。

――アハハハハ。でももう、その先を描かないことには限界があるっていうのは感じてるとは思うんですよね。だってプロレスラーっておもしろい生き様の宝庫じゃないですか。

TAJIRI　うん。

――ボクらも取材で話を聞いてると、やっぱりプロレスラーの生き様みたいなものには凄く共感できるしおもしろいし、挫折した人ほど熱いっていうのはありますからね。

TAJIRI　逆にいまだに描かれてないのは、ホントの超上流階級のスーパースターの人たちの世界。これはまだないですよね？

――ないですね。

TAJIRI　それはおもしろいんじゃないかなと思う。そういうの観たらね、観た人もきっとね、「俺もレスラーになりてえ」って思うものが作れるんじゃないかなと思うんですけどね。上のレベルでの挫折と復活っていうものを見せてほしい。でもそれってやっぱりWWEの世界の話になっちゃうから、そういう情報はなかなか出てこないんだよな。あそこの人は言わないし、出させないし。

――ハルク・ホーガンのリアリティショーなんかは、もちろん彼は上流階級なんですけど、家庭内はメチャクチャなのをさらけ出してますね。あとは最近、宝島が出した『プロレス下流地帯』っていうムックがあるように、どうしても逆の方向に向かっちゃうんでしょうね。

TAJIRI　下流地帯？　嫌な言葉ですねえ……。そういうやり方しかないんですか、いまのプロレス界は。やっぱり同じのぞくなら、レベルの低いところよりも高いレベルの世界のほうが、僕はのぞいてておもしろいんだよな。次回作があるなら、今度は主人公が大きく成長するストーリーを見せてほしいですね。

【09年4月7日／都内・某喫茶店にて収録】

主人公ランディは学校の体育館で試合をして、ご覧のように教室を控室として利用。ボロボロになった身体を引きずって、家賃を滞納したトレーラーハウス(アメリカの低所得者層がおもに利用する定住式キャンピングカー)へと帰っていく。

たじり■1970年9月29日、熊本県出身。IWA JAPANでデビュー、大日本プロレスを経て、メキシコ、アメリカと渡り歩きECWからWWEへ。世界の頂点を知るプロレス版メジャーリーガーだ。現在は『ハッスル』を主戦場に活躍中。

「ミッキー・ロークはネクロ・ブッチャーに親近感を覚える人なんでしょうね」

『1976年のアントニオ猪木』著者

柳澤健 が観た 映画『レスラー』

現在、本誌と『kamipro Move』で『1993年の女子プロレス』を連載中の柳澤氏。女子プロ好きならではのエピソードを交えながらプロレスラーの凄み、そして『レスラー』で復活したと言われるミッキー・ロークの本質を語ってくれた。

聞き手／井上崇宏（THE PEHLWANS）

この作品は、『ビヨンド・ザ・マット』がなければ誕生しなかった映画でしょう。ミスター高橋さんがあのような本を出されたことも、ビンス・マクマホンがエンターテインメント宣言をしなければありえなかったと思います。

私はプロレスをやったことはないし、受け身を取ったこともない人間です。私は全日本女子プロレスが好きで、みなみ鈴香のトップロープからのダイビングセントーンが大好きなんですけど、彼女がダイビングセントーンを成功させたところをほとんど観たことがない。ほとんど相手に逃げられてしまって、自爆してハードな受け身を取るわけです。

引退間際のみなみ鈴香はロレツが回らなくなっていましたが、原因の多くはあのセントーンにあったのではないでしょうか。

以前、あるプロレスの道場でこっそりトップロープに上がらせてもらったことがあるんですけど、「自分がセントーンをやるのは絶対に無理！」って思いました。凄い受け身を取って、しかも怪我をしないからこそプロレスラーは凄いんです。「あの受け身は凄いね」とか「よくあんな痛いことできるね」と私たちがレスラーをリスペクトできるようになったのも、結局はビンスのおかげだったりすると思うんですよ。

さて、今回、ミッキー・ロークが演じているランディ“ザ・ラム”ロビンソンのプロレスは、基本的に80年代のWWFでありハルク・ホーガンであり、一番最後の試合はホーガンとアイアン・シークの抗争劇がモチーフなんでしょうね。

エンタメと自己表現の狭間で苦しむ人たちの系列にロークも属している

『レスラー』には「80年代は楽しかったね」という雰囲気が濃厚に漂っていて、一番端的に表れてるのが、ランディの入場テーマ曲がガンズ・アンド・ローゼズの『スウィート・チャイルド・オ・マイン』というところですよね。私はガンズに熱狂したという体験はないんですけど、長く音楽を聴いてきた人間からするとガンズっていうのは最後のロックバンドなんです。90年代になるとニルヴァーナとかが出てきて、ロックはガンズのようにきらびやかでバカなヤツが能天気な歌を唄うっていうようなものじゃなくなって、シリアスなものになっていくんです。

それとこの作品は、ミッキー・ロークを主役としてキャスティングしたことの妙で評価されているという部分も多分にあります。ヴェネチア国際映画祭のプレミアに登場したミッキー・ロークは、少しデブってて、ヨレヨレの格好で出てきたことで、ヴィム・ヴェンダースから批判されてましたよね。

本来、映画祭のプレミアはセレブリティが着飾って登場する凄くクリーンな世界です。美男美女がパリッとした身なりをして、赤絨毯の上で作品の魅力を語る。どんな汚れ役を演じても、あれは役を演じたのであり、本来の自分とは違う、と一線を引ければ、「素晴らしい俳優だ！」と絶賛されるわけですけど、ミッキー・ロークはたぶんそれが嫌な人なんですよ。できない。ミッキー・ロークは自分はクリーンな世界の住人ではない、と思っている。『レスラー』での演技が高い評価を受け、シーンの中心に戻ってきたにもかかわらず、「ハリウッドセレブの一員として生きていこう」とは思っていない。

ミッキー・ロークが演じたランディは、自分の精神がプロレスというものに侵食されてしまった人間です。ところが、ミッキー・ローク自身も、ランディに非常に近い人間だった。配役の妙、というのはそういうところです。ミッキー・ロークは自分が立派な人間ではないことを知っている。演技者であるにもかかわらず、立派な人間を演じることはどうしてもできない。誰を騙せても自分自身は騙せない。だからこそ『アンタッチャブル』の主役のオファーを断ったりもする。本来のミッキー・ロークはホーガンよりもネクロ・ブッチャーやミック・フォーリーとか、そういう人たちに親近感を覚える人なのだろうと思いました。

60年代のローリング・ストーンズは凄い量の麻薬をやってました。でも、ミック・ジャガーもキース・リチャーズも、81年の全米ツアーを収録した『レッツ・スペンド・ザ・ナイト・トゥゲザー』というライブ映画の頃には、もうかなりシェイプされてて、スポーティだった。ミックなんて、自分

でスポーツクラブを買って、そこでもの凄く鍛えて、クリーンな人に変身した。息の長いスーパースターはみんなそうでしょう、マドンナもの凄く鍛えているし。

要するに、いまのアメリカでは、ショービジネスにおけるプロフェッショナリズムが強く求められているんですね。誰もが鍛えてシェイプアップする。女の子の胸が小さければ、シリコンでパンパンにする。WWEもプロフェッショナル同士が高いレベルのエンタメを提供するものになった。だからトリプルHもザ・ロックも凄い身体している。結局、ハリウッドと同じなんですよ。だからミック・フォーリーなんかは特別な成功例。普通ならああいうタイプはマイナーで終わる。

本来、ミック・フォーリーやネクロ・ブッチャーはアメリカ流のショービズとしてはプロじゃないというか、一線を引けない側の人間に属している。ネクロ・ブッチャーなんか全然日焼けもしないしビール腹だし、素でしょ？　でも、とんでもないことを見せるぜっていう。

60年代の基準からいえば、いまのローリング・ストーンズは全然ロックじゃない。完全なるアメリカン・エンターテインメント。でも、エンタメになったからこそ、わかりやすくなり、いまだにロック界で一番稼ぐのはたぶんローリング・ストーンズでしょう。ミック・ジャガーからすれば、「そういうところを乗り越えたからこそ俺たちはトップとして君臨している」と思っているはず。

だけど、一方にはプロとして割り切れない人たちがいる。そういう人たちは、エンタメと自己表現の狭間で苦しんだあげく、麻薬でもなんでもやって次々に滅びていくんですね。ジミ・ヘンドリックスしかりニルヴァーナのカート・コバーンしかり。ミッキー・ロークはその系列に属する人です。『レスラー』の中に「昔はよかった。80年代までは全部バカで通せた」みたいな台詞がありましたが、映画もバカで通せなくなってしまった。シリアスなプロフェッショナリズムが必要になってしまったということです。正直に言えば、最後の試合の描き方には少し不満で違和感が残りましたね。

振り返って、日本ではこういったテイストのプロレス映画は不可能でしょうね。日本ではマンガでしかできないでしょう。どうして日本では映画にならないかについて、とくに『kamipro』読者のようなコアなプロレスファンは深く考える必要があると思います。

やなぎさわ・たけし■1960年、東京都出身。慶應義塾大学法学部卒。在学中からまんが専門誌『ぱふ』の編集を手がける。空調機メーカー勤務を経て、84年に文藝春秋に入社。『週刊文春』、『Number』編集部を経て03年退社。以後フリーとして各誌に寄稿。09年3月『完本・1976年のアントニオ猪木』を発表。

kamipro column

出張版

これと『チェイサー』と『俺たちステップブラザース』が今年のベスト1候補

花くまゆうさく

豆リングの汁

プロレス映画で好きなのは、マスク姿でバイクなどビジュアルが最高なメキシコルチャ映画、70年～80年初頭のアメリカが好きなので、『カリフォルニア・ドールズ』、切ないドキュメントの『ビヨンド・ザ・マット』。この3本ですが、この『レスラー』も好きなプロレス映画リストに入った。

『ロッキー』一作目のような低予算のグッとくる質感で、『ビヨンド・ザ・マット』とミッキー・ロークの人生を合わせたようなドラマが進み、クライマックスでは『蒲田行進曲』まで感じさせる男泣き傑作映画じゃないですか。

心ある男子なら涙腺暴発でしょう。プロレスものでこんなに泣けたのは『お父さんのバックドロップ』（小説のほう）以来かな。

あと、持ち家ないから、このままじゃまともな老後ないんじゃないかな、と不安になっている僕みたいなフリーランスの男には、過酷な現実を見せられ、身につまされる怖い映画でもあります。でも観るんだよ！

レスラー

Hanakuma Yusaku
◎『The Foot Fist Way』もおもしろい映画でした。

「この作品はプロレスラーの性（さが）を見事に描いている。私の映画鑑賞歴、生涯ベスト1です」

ザ・グレート・サスケが観た 映画『レスラー』

高校時代から20代にかけては映画館に週3度は足を運び、その後もビデオやDVDで観たタイトル数は2万本近いというプロレス界の中でも自他ともに認める映画マニアのサスケ。昨年は『ダークナイト』にはまり、自らダークナイトモデルのマスクで大暴れをするなど、映画とプロレスの融合には人一倍こだわりを持つサスケが観た映画『レスラー』とは!?

聞き手／真下義之　試合写真／平工幸雄

――なんでも、サスケさんはこの『レスラー』を観て、大号泣されてしまったそうですね。

サスケ ええ、この映画は……非常にヤバかったです。あのね、前半部分で主人公のランディ（ミッキー・ローク）がヒロイン役のマリサ・トメイと会話するシーンがあるんですけど、そこでランディの傷だらけの身体を見て「痛むでしょ？」って聞くでしょ。

――まだ、ホントに序盤ですね（笑）。

サスケ そうそう。そこでランディが、「息をするとね。でも大歓声を聞くと忘れてしまう」と答える。ここでまず最初に一発目の「ガーン！」がきました。プロレスラー全員が普段思ってることをよくぞ代弁してくれた！ という感じでね。

――「プロレスラーの心情をよくわかってるな」って感じですか？

サスケ 結論から言うとそうなんです。よくぞここまでというか……この監督なり脚本家なりはホントにプロレスラーの表から裏からすべて、細かい心のひだの部分に至るまで凄く調べあげてるなと思いましたねぇ……（しみじみと）。

――ただ、その反面、プロレスの裏側まで描いてしまっていることで、「この映画にコメントを出せない」という業界関係者も多いようなんですね。

サスケ そうなんですか？ ふぅ～ん。だけど私にとってはまったく痛くも痒くもないですけどね。私ももうすぐプロレス人生20年を迎えるんですけどもね、日本もアメリカもメキシコもイギリスも、世界各国いろんな大メジャーからどインディーに至るまで、確かにいろんなプロレスのやり方っていうのはあるんですよ。

――国によって、千差万別ですか。

サスケ ええ。私自身も、かつて試合を繰り広げていく中で、いろんな大ケガをした歴史もあるわけですよ。デスマッチで背中に穴が開いてしまったり、顔面を蹴られて目尻が切れて覆面の下で大流血したりね。飛んだけど、失速して頭から床に落下して頭が割れてゼリー状の血が出たり、先日は足を踏み外してへんな落ち方して頭から血を流したり、空中技の失敗による流血もあるしね。

――流血にもいろんなパターンがある、と。

サスケ そうそう。だから、そういう部分は全然フェイクでもなんでもないし。だから劇中のようなプロレスのやり方もあるだろうし、間違いなく本物の血を流してきた私のようなやり方もある。新日本さんで初めて大仁田（厚）さん絡みのデスマッチをやったときに、新日の選手が「本物の有刺鉄線使うのか!?」って驚いたぐらい、同業者でも知らないことはいっぱいあるんですよ。

――逆に「ここまで凄いことをやっているんだ」ということが浮き彫りになるというか。

サスケ あ、そうです。それが一番正しい見方だと思いますね。たとえばデスマッチのシーンなんかもあったけど、あれなんかも凄く心に残るシーンでしたね。ホントに有刺鉄線やホッチキス弾が身体にめり込んだりもしている、と。ああいう試合は私も経験してますから。ただ、あえてケガをするとわかっている、そういったハードコアマッチをなぜわざわざや

この映画の主人公は完全に私です！ もう、途中から涙が止まらなかった

るんだという部分ですよね。プロレスを知らない人たちからすると、「こいつらバカじゃねえのか？」と。まさにこの物語の本質はそこにあって。ホントにバカなことをお客さんが喜ぶ、またその歓声を体感する、そういった快感が忘れられない、そういうプロレスラーの性っていうものを見事に描いてますよ、この映画は。

――じゃあ、現役プロレスラーとしてもこの映画に対する評価を避けたいみたいな気持ちはない、と。

サスケ　まったくそうは思わないですね。むしろホントにプロレスファン、とくにコアなマニアの方には絶対に観てもらいたいですよ！「こういうプロレスもあるんだ」と。ただ、どんなプロレスであっても、プロレスラーの根底にあるものというのはすべて共通ですよ。そこを見抜いてほしいし、いまのプロレスファンの方々だったら絶対に見抜いてくれると思いますね、いい意味で。

――また、主人公ランディは「過去の栄光にしがみついている」っていう見方もあると思うんですけど。

サスケ　それは、どうなんだろう？ やっぱり私も大きなケガをして入院したときに、「もう辞めようかな？」って挫けそうになったりするときもあるんですよね。そういうときに、やっぱりあのお客さんの大歓声というものをどうしても思い出しちゃう。だから、ケガがちょっとでも回復したらまたリングに立ちたくなるんですよ。あるいは、大仁田さんをはじめとした数々の引退したレスラーたちが前言撤回して何度も復帰戦をしてしまうような。でも私はそれを過去の栄光にしがみついてるという見方はしてないんですよね。むしろ「年老いても俺はまだまだやれる！ 若いときの気持ちのまんまだぞ」っていう主人公の気持ち、そっちのほうを私は大事にしたいですね。

――なるほど。それとサスケさんは今回の取材用に『レスラー』の作品中の名セリフや名シーンを再度チェックされたとか。

サスケ　そうなんです！ この映画は名セリフと名シーンの連続なんです！ ハードコアマッチのリアルなシーンはもちろんですが、やっぱり試合と、控室で治療してるシーン。看護師とか医者の応急処置をする方々が「すげえな」ってあきれながら診たりしてるんですよね。そういうところを観てほしいんですよ！ 流血のからくりがどうのこうのじゃなくて。

――そういうところにこそ注目しろ、と。

サスケ　そうなんですよ。だって、この映画で描かれているからくりがプロレスのすべてじゃないですからね。それは実際、私が身体をもって証明してますから！ あとはね、入院中のランディとかも凄いリアルですよ。「これわかる！ 俺も経験してる！」っていう。……こうなったら順を追って説明しますよ！ そのあと退院するでしょ、そのときに……。

――いや、あんまり詳しく話されるとネタバレになっちゃうので（笑）。

サスケ　（無視して、延々とラストシーンまでを細かく語る）とにかく、「うわっ、わかるわかる！」「うわっ、きた！」の連続でもう号泣ですよ!!

身体を壊してしまったミッキー・ローク演じるランディはスーパーでのアルバイトに励む毎日。かつてマクドナルドでバイト経験のあるサスケもその心情が共感できたんだとか。

――つまり「これは俺の話だ！」と？

サスケ　そうなんです。まさに「これ、俺だよ！」っていう。

――ダハハハハ！『レスラー』はサスケさん自身の映画だった（笑）。

サスケ　結論はそこなんですよ。あと、家族とのすれ違いなんかも、よくありがちな感じですけど、私とダブるところがあって……。

――プライベートでも共通点が？

サスケ　私もみちのく（プロレス）の社長を兼任しながらやってた時代なんていうのはムチャクチャ忙しかったですから、まったく家族を顧みずにホントに「仕事が一番、お客さんが一番」でやってきてね。だから、そこでもやっぱりまたガーッと泣いちゃいましたね。もうネタバレなんか気にせずに、どんどん言っちゃいますよ！

――あとで調整させてもらいます（笑）。

サスケ　有名な話ですが、私も若手時代にマクドナルドでアルバイトしてましたけどね。お客さんに「あれ、マサみちのく（当時）選手ですか？」なんて聞かれることもあったんですよ。

――映画にも似たシーンが出てきますけど。

サスケ　……やっぱり、そういうことがあると裏でね、爆発しそうになるわけですよ。お客さんの前では爆発はしないんだけどもね。

――お客さんの前では仕事に徹しなきゃいけないわけですからね。

サスケ　ええ、スマイル0円ですから（笑）。でも裏の倉庫の中でゴミ箱相手に爆発したりとかね。だからこの映画の主人公は完全に私なんですよ、ホントに！ 最後は私もランディばりにブチキレて「俺はレスラーだ！ 俺はマサみちのくだ！」なんて叫んでマックを辞めましたからね。

――凄いなぁ～。まさか、サスケさんの人生までがわかってしまう映画だったとは。

サスケ　そうです、これは私の映画です（キッパリ）。で、またね、ブルース・スプリングスティーンの主題歌がまた泣かせますよね。素晴らしいです。もう私は大絶賛ですよ！ たぶんね、この映画をもし同業者で否定する人がいるのならば、それはホントのプロレスをしてないと思いますよ。あるいは、本物のプロレスを知らない。私は間違いなく血を流して、あるいは三途の川までも見てという激戦の歴史を繰り返してきたんで、だからこそ共感できるんですよぉ！

――じゃあ、この映画はサスケさんにとって特別な映画ですか？

サスケ　うん、私の映画鑑賞歴、生涯の中でもベスト1と言っても過言ではないぐらいの作品ですね。

――そこまで！ ちなみにサスケさんはもう一つ観たい映画があるみたいで。以前『kamipro』で取り上げた船木（誠勝）監督作品『THE PROPHECY』も気になってるんですよね？

サスケ　そうそう！ それも観たい！ 私もマンションのパーティルームかなんかで繰り広げられる怪しい試写会に行ってみたくてね。そうだ、『kamipro』さんでぜひ試写会を主催してくださいよ。私もいち観客として観に行きますから！

【09年5月11日／電話取材にて収録】

ざ・ぐれーと・さすけ■本名・非公開。1969年7月18日、岩手県出身。新日本プロレス学校を経てユニバーサル・プロレスでデビュー。現在はみちのくプロレス会長としてメジャーからインディーまでさまざまなリングで活躍中。180センチ、88キロ。

DREAM.9徹底考察

スーパーハルクから世間を考える

SUPER HULK TOURN AMENT

©more rock at all

視聴率徹底分析!!

DREAMが〝テレビで〟生き残った!!

平均視聴率15パーセント超えを掲げてきた『DREAM・9』が、なんとそれを上回る平均視聴率16・2パーセントを獲得するという大快挙を達成した。最近の格闘技番組はDREAMの平均視聴率が最高で『DREAM・5』の10・0パーセント、魔裟斗が優勝した昨年のK―1MAX決勝大会でも12・6パーセント、そしてK―1WGP決勝大会でやっと16・1パーセントと、大苦戦。それだけに飛躍的に伸びたDREAMの視聴率は、閉塞感漂うマット界の中で、なんとも嬉しすぎるニュースだ。

そもそも、08年9月の『DREAM・6』以来、ひさびさのゴールデンタイム放送となった今回のDREAMでは、開催前から視聴率を意識した仕掛けが至るところに散りばめられていた。

まず、一番大きかったのが08年のTBS年間視聴率トップ3を独占した内藤大助のWBCフライ級防衛戦とのドッキング放送。昨年、内藤が獲得した視聴率は3月のポンサクレック戦で26・3パーセント、7月の清水智信戦で24・7パーセント、12月の山口真吾戦で25・6パーセントと、なんともうらやましすぎる高数字をたたき出している。この〝視聴率王〟内藤と一緒に放送することで、いわゆる「入りの数字」の確保が完了する。

次のポイントは、笹原イベントプロデューサーが「視聴率獲得のためです」とキッパリ明言して開催されたスーパーハルクトーナメント。ボブ・サップやチェ・ホンマンという大きくてわかりやすいメンツに加え、なんと〝元メジャーリーガー〟ホセ・カンセコを投入するというスーパー奇策を敢行したのだ。下の視聴率表を見ると、カンセコvsチェ・ホンマンの視聴率は放送された5試合の中でも最も低い数字となっているが、〝大魔神〟佐々木主浩との始打式や来日当日などは、必ずニュースでピックアップされ、大きなプロモーションになっていたことは間違いない。カンセコ、お疲れさん。

カンセコvsチェ・ホンマンの視聴率は放送された5試合で最も低い数字。しかし……!!

さらにさらに、〝テレビスター〟所英男の崖っぷちの名勝負、魔裟斗戦実現がかかった川尻達也の大一番、そして512日ぶりの試合となる〝神の子〟KIDの復帰戦と、マニアも一般視聴者もなんだか観ずにはいられない要素が並ぶ。

実際に、瞬間最高視聴率を獲得したのも所英男とKID。22時の「またぎ」の時間に大抜擢された所と、トリを飾ったKID。薄い知識しかない我々から見ても、視聴率獲得における〝正攻法〟が本当に成功したという感じだ。

もっというと、川尻の試合で数字が落ちていないのは08年『Dynamite!!』武田幸三戦の好試合が素晴らしいフックになっている。なおかつ先の話をすると(もし魔裟斗戦が本当に決まれば)7月のK―1MAXの完ぺきな煽りになったに違いない。これは魔裟斗戦の視聴率も期待できる。

川尻達也 vs JZカルバン 1R
川尻達也 vs JZカルバン 2R
KID vs ジョン・ウォーレン 1R
KID vs ジョン・ウォーレン 1R～ドクターチェック
KID vs ジョン・ウォーレン ドクターチェック～1R終了
KID vs ジョン・ウォーレン 2R
19.1%
15 20 25 30 35 40 45 50

祝!! 高視聴率

平均16.2パーセント！ 最高19.1パーセント!!

DREAM.9 TBS地上波放送 全79分

欲を言うと、ノルキヤvsソクジュの大乱闘が流れていたら……、魔裟斗が会場に間に合っていれば……（詳細は笹原EP&谷川EPページで）など、どんどん淡い妄想を抱いてしまうが、これは高視聴率を獲ったからこその嬉しい妄想だと勝手に納得している。

ただ、今回試合が放送されたメンツのように、所やKIDなど視聴率を獲れる飛び抜けたスターだけを作っていけばいいのかというと、どうもそうではなさそうだ。というのも、4・21K―1MAX福岡大会では『天元突破グレンラガン』のヨーコのコスプレをするしないでアルバート・クラウスとの因縁が勃発した長島☆自演乙☆雄一郎の試合が17・6パーセントという瞬間最高視聴率をたたき出したが、平均視聴率は10・9パーセントにとどまった。

この例から考えると、やはり"キャラの底上げ"というべきか、どのファイターにも世間を呼び込めるドラマや濃い個性が求められているといえるかもしれない。そうなると、"女子高生ダンサー"と超ノリノリダンスを披露したメイヘムらは、まだ世間には届いていないにせよ非常に貴重な存在だと考えさせられる。

どの選手にも濃いドラマや個性、つまり"キャラの底上げ"が求められている！

ところで、29日の『はなまるマーケット』（TBS系）のゲストには現在DREAMとK―1MAXのMCを務めている佐藤隆太が登場。ズバリ、いま絶賛プロモーション中の映画『ROOKIES』の宣伝という要素が大きいのだろうが、その一幕に佐藤隆太が「まさ〜〜とぉぉ〜〜！」と魔裟斗をリング上に呼び込む映像が大きく扱われた（なお、この日の日替わりレギュラー司会は金曜日担当の矢沢心！）。

かつて金子賢に関する取材をしたときに、佐藤大輔氏が「テレビ局の判断として、（放送する基準として）"視聴率"と"ソフト"の二つの基準があるんですよ。一つは視聴率を獲らなければいけない番組がある。その一方で、会社として持っていなくてはいけない番組、持っていたい番組がある」と語っており、金子賢を投入した理由の一つとして05年『PRIDE男祭り』で高視聴率をたたき出し、PRIDEをフジテレビとして"持っていたい番組"にしたかったと話してくれた。

TBSが『はなまるマーケット』という夫や子どもを送り出した主婦が午前中に観るような"ザ・ほんわかムード"な番組の中で、佐藤隆太をきっかけにそんな一幕を流すことは、高視聴率を獲得したことを機にTBSの中でDREAMやK―1MAXが"会社として持っていたい番組"にシフトしていってるのではないかと、これまた勝手な妄想を抱いてしまった。

なるほど、こうなったらもう『東京フレンドパークII』でも『王様のブランチ』でもバンバン格闘技の映像&格闘家を出しましょう！「No TV? But DREAM」ということで！

（松下ミワ）

20%
15
10
MC、コマーシャル
15.7%
19.1%
ミノワマン vs サップ
ホンマン vs カンセコ
所英男 vs エイブル・カラム
21:30
35
40
45
50
55
22:00
05

DREAM、打ち切りの危機脱出!

大勝利宣言!!

DREAM イベントプロデューサー 笹原圭一

KID復活、川尻vsカルバン、カンセコ参戦のスーパーハルクトーナメント開催と、ひさびさのゴールデンタイムでの中継に勝負をかけた今回の『DREAM.9』。数字が悪ければ地上波中継打ち切りの可能性も高かったが、結果的には平均16.2パーセントという高視聴率を獲得。「ひさびさに枕を高くして眠れる」とご満悦の笹原EPを大会翌日に直撃!!

※ちなみにこちらの写真は『ハッスル』初代GM時代のものです。悪しからず。

聞き手／井上崇宏（THE PEHLWANS）　笹原GM撮影／平工幸雄　試合撮影／乾晋也　写真協力／DREAM

いまはもう「俺がこの戦国時代の信長だ！」ってくらいの気持ちです

――昨日はお疲れさまでした。いやあ、かなりご機嫌な様子ですね。

笹原　ありがとうございます。そりゃだって視聴率が16・2パーセントですからねえ（と、満面の笑み）。

――先ほどの会見でも勝利宣言をされてましたけど。

笹原　勝利宣言ですよ、もう！　ついに天下を獲りましたね。

――天下を獲った！

笹原　もう「俺がこの戦国時代の信長だ！」ってくらいの気持ちですよ。

――笹原さんは現代の信長！

笹原　ええ！「俺だけ見てりゃいいんだ！」とも思いますね。

――いやあ、素晴らしい。まず最初に「どれぐらい調子に乗られてるんでしょうか？」って質問をしようと思ったんですけど、これはもう聞くまでもない感じですね（笑）。

笹原　そうです！　すっかり調子に乗りまくってます（笑）。

――「これでようやく枕を高くして寝られる」っておっしゃってましたけど、最後に枕を高くして寝たのはいつでしたか？

笹原　う〜ん、そんなのいつのことだったかまったく記憶にないですねえ……。正直、昨夜もテレビの数字が気になってドキドキしてほとんど眠れなかったんですよ。で、今日の朝一番にTBSプロデューサーの石井（宏昌）さんから電話がかかってきたんですけど、それがまたわざと暗い声で話しかけてくるんですよ（笑）。「まずボクシングが20・4パーセントで……」みたいな感じで。で、DREAMの数字を聞かされたときは、嬉しさのあまりしばし絶句しちゃいましたね。やっぱり、今回は状況的に是が否でも数字を獲らなきゃいけない大会でしたから。当然いつもそうなんですけど、とくに今回は「何がなんでも数字を獲りたい！」っていう気持ちでしたからね。

――その「何がなんでも！」という気持ちが前面に出たのが、カンセコ参戦だったりスーパーハルクトーナメントのような企画モノだったと思うんですけど。このスーパーハルクみたいなものを笹原さんたち制作チームが照れずに繰り出してきたっていうのが、今後のDREAMの強みなのかなって思ったんですね。

笹原　そうですね。やっぱりね、恥ずかしがってちゃダメなんですよね。いまや月9のドラマでさえ10パーセント獲れない時代なわけじゃないですか。そこでいままでどおりのことをやってちゃ数字は獲れないんですよ。「首根っこをつかまえてでも振り向かせてやるんだ！」ぐらいのことをやらないとダメだと思いますね。

――だから、あのPRIDEの制作チームが手掛ける新しい芸風っていうか作風というものに僕なんかは凄く期待をしちゃうんですよ。

笹原　そうですね。今回はオープニングの演出を二回やったじゃないですか。スーパーハルクとそれ以降の空間を分けたかたちで。スーパーハルクのナレーションはとろサーモンの村田（秀亮）さんがやって、後半は立木（文彦）さんがやったり、ライブの中でもそういう色分けをしたことで、たぶん観客もそこは違和感なく楽しめてもらえたと思うんですね。もちろん、昔のPRIDEみたいに「純粋な競技路線だけでファイターは最強を目指します」っていうものがやれたらいいなという思いもありますけど、いまはなかなかそれは難しい。じゃあ現状で何ができるかってなったときに、やっぱり飛び道具を使いながら渾然一体となった世界観を見せてくしかないと思うんですね。

――そもそもPRIDEも「何をやるか？」ではなく「それをどう観せるか？」という部分に比重を置いていたイベントだったと思うんですけど。

笹原　そうじゃないですかね。思いついた企画の、その打ち出し方をどうするかってことだと思います。しかし昨日は会場にやたら熱がありましたよね？

――ありましたね。

笹原　なんなんですかね、あれは。

――そこはたぶん、名古屋、横浜アリーナとちょっとさいたまスーパーアリーナを離れて開催してみたっていうのが多少関係あるのかなと思うんですよ。ちょっと空気の入れ替えみたいな感じで（笑）。

笹原　それが新鮮な感じだったんですかね。ひさしぶりに熱のある横アリを見れた感じがしましたね。あの空間を見ると「なんか、横アリいいな」みたいな。

――横アリいいですよね。

笹原　でもメインの結果は残念でしたけど、そこまではいい感じでイベントが進んでいってたじゃないですか。それで休憩のときに運営本部に戻ったら、桜庭（和志）さんがニヤニヤ笑ってるんですね。それで「ここまで凄くいい流れですねえ。これはこのあと絶対何か起こりますよ」って言ったんですよ。

――アハハハハ！　桜庭和志がそんな不吉な予言をしてましたか（笑）。

笹原　で、あとで会ったときに「ね、やっぱり起きたでしょ？　これまでさんざん僕もやらかしてきてますからね」ってまたニヤニヤ笑ってて（笑）。

――さすがベテランですね（笑）。でも最後の何か起きてしまったあの感じが、いい意味で凄く懐かしかったというか。

笹原　むしろね。それはホントそうですよね。

――今回、DREAMも9回目にしてスーパーハルクのようなわかりやすい変化を見せてきましたが、当初はPRIDEとHERO'Sが合体、あるいは対抗をする夢のイベントっていう趣きだったと思うんですけど、ここに来るまでの作り手側の設定するコンセプトっていうのはどんなふうに変わってきたんですか？

笹原　やっぱり最初の頃はよくも悪くもどこかで肩に力が入ってたのかなっていうのはあると思います。それはしょうがないっていうか、当然のことだと思うんですけども。それでやり続けていくうちに、なかなか観客動員に苦戦してます、テレビの数字も獲れませんってなったとき、そこで変革ができるかどうかだと思うんですよ。結果が出ていないってことはそれまでのやり方じゃダメなんだってことじゃないですか。それで思考錯誤をしていくなかで、変われるきっかけを作ったのは大晦日のキン肉万太郎ですよ！

――万太郎でタガがはずれた、と。

笹原　禁断の扉を開けてしまったというか（笑）。

――いや、昨日僕もぼんやり昨年の『Dynamite!!』はエポックメイキング的なイベントだったんだなと思ってたんですよ。万太郎にかぎらず、川尻vs武田のK-1マッチとか、そこにK-1甲子園も関係してくるのかもしれないですけど。

笹原　今回の16・2パーセントっていう結果は、今回だけのことではなくて、ここまで積み重ねてきたことがあったからこそでしょうし。昨年の『Dynamite!!』はもちろん、ここまで頑張ってくれた選手たちのおかげだと思いますよ。

――日本の総合格闘技って、過去に

DREAM史上最高視聴率を獲得したということもあり、終始ご機嫌モードの笹原EP。会見直後にホテルの喫茶店で行なった今回のインタビューも「今日は私がおごりますよ！」と取材陣に（アイスコーヒーを）大盤振る舞い。笹原EP、次回も期待してま〜す！

PRIDEとHERO'Sっていうまったく異なる世界観の2大メジャーが対立概念として存在してたんですけど、ぶっちゃけ、いまDREAMと『戦極』が対立概念になり得てるかっていったらそうじゃないわけじゃないですか。

笹原　なり得てないですね。

──そういった状況で、スーパーハルクやらガチガチの勝負論のある試合から何から、いろんなトーンのカードを組むことで、一つのイベントの中に対立構造を作ってしまったのが今回のDREAMですよね。

笹原　そうですね。ないなら作ってしまえっていうことですね。

──昨日の川尻選手のあの会場での異常人気なんかも、前半のスーパーハルクの反動もあると思うんですよ。

笹原　ですよね。

──そのあたり、作り手側がうまく自作自演できてるっていうのが非常に素晴らしいと思いました。

笹原　確かに。そういう意味じゃ、今後は僕と谷川さんの抗争を始めないといけないわけですね？

──そういうことですかね。いや、わりと似た者同士なのかなとも思いますけど（笑）。

笹原　でも、いま言われてみてホントにそう思いましたね。一つのイベントの中で対立構造を作っていくっていうのは、新しいというか、これまで誰もやってない手法ですよね。ただ、これからも試行錯誤をしながらいろんなことを試していくと思いますけどね。

──チケット料金も安くなりましたし、ドンドンいろんなことにチャレ

!?来日から試合まで、カンセコ狂想曲!!

量＆会
カさに
い人に
ンセコ
いた。

自らの希望で異例の9球にも及ぶ始打式を終えたカンセコは大魔神と握手し、その後の囲み取材も一緒に登場。大会当日はカンセコの応援に会場に行くと言っていた大魔神。元メジャーリーガーとしてMMAへのリベンジを誓っていた……かは定かではない。

個別会見を終えたカンセコが向かったのは横浜スタジアム。この日のベイスターズvs楽天戦前にカンセコは"大魔神"佐々木主浩相手に始球式ならぬ始打式を敢行。ホンマン戦を前にどデカいホームランが期待されたが、惜しくも柵越えはならず。残念！

大会2日前の個別会見には「娘のお気に入り」という袖なしの黒の道衣姿で登場したカンセコ。ホンマン戦に対する自信を聞かれると「あっと言う間に終わる試合はしない。慎重に闘おうと思ってるんだ」と語っていたのだが、結果的には秒殺でした。残念！

5月23日に23年ぶり2度目となる来日をはたしたカンセコ。金髪巨乳の女性マネージャーのハイディー・ノースコットさんがピッタリと寄り添う中、囲み取材にもご機嫌に応じたカンセコ。主催者はカンセコ用に豪華リムジンを用意するなど超VIP扱い。

川尻選手は変わった。魔娑斗選手とやったら一気にイケる可能性もある

ンジしていってもらいたいです。それで大人気の川尻選手ですが、7月の魔娑斗戦実現の気運も高まってきているわけですけど。ほかにも五味隆典選手の名前が候補に挙がったりもしてますが、やっぱり笹原さんとしては、魔娑斗の相手は川尻だろうっていう気持ちが強いですか？

笹原　もちろん。僕は100パーセント川尻目線なんで、絶対にやるべきだと思いますね。年末からの流れも含めて考えると、川尻選手しかいないだろうと思いますし、今回JZにもちゃんと勝ってハードルを越えてきましたしね。川尻選手っていままでは五味戦で負けたり、（ギルバート・）メレンデス戦でも負けて、大事なところで勝てなかったという歴史があるじゃないですか。

──そうですね。

笹原　それが昨年の年末に大きな勝負どころでキッチリ勝った。本人の中では「俺、やれるんじゃねえか？」って凄い自信になったと思うんですよね。その気持ちのままJZと闘って、そのハードルはもう越えたんでこのまま上りきってほしいですね。川尻選手はホントに変わりましたよ。

──変わりましたよね。

笹原　ホンットに変わった。気持ちの持ちようというか。だから魔娑斗選手とやったら一気にイケる可能性もあると思うんですよ。闘うべきだし、しかも絶対に勝つべきですね。

──川尻選手は試合後にリング上から魔娑斗選手にメッセージを送ってましたけど、そもそも魔娑斗選手は会場に来てなかったんですよね？

笹原　ええ。当初は来るって話だったんですけどね。実際、横アリに向かってたらしいんですけど、ひどい渋滞で間に合わなくて途中で引き返しちゃったらしいんですよ。

──あ、そうなんですか。

笹原　もったいなかったですね。リングサイドに座っててカメラが魔娑斗選手を抜いたら盛り上がったでしょうね。だから川尻選手も「あれ？俺、なんかやっちゃったかな？」って思ったらしいんですけど、大丈夫。ただ来てなかっただけです（笑）。

──その代わりと言ってはなんですが、秋山（成勲）選手が会場に来てましたよね。

笹原　来てましたね。

──あれは本人が「観に来たい」っていうことで？

笹原　そうですね。本人が来たいっていうことで、それを僕らとしては拒む理由もとくにはないですから。「観に来たいんならどうぞ」と。むしろ、そういうのは受け入れないとダメだと思います。そんなところで、「この選手はOKだけど、あの選手はダメ」とかやってる場合じゃないですよ。懐深く選手を受け入れて、みんなで盛り上げて行く姿勢を主催者から見せていかなきゃいけないでしょう。

──なんか、ホントに変わりましたね（笑）。

笹原　いや、しかし昨日はお客さんが温かかったなあ。それこそ菊野（克紀）選手が挨拶をしたときなんかも普通に「ウォー！」って歓声が上がってましたもんね。

――あれはちょっと驚きました。

笹原　あそこまで反応がいいとは思わなかったですね。青木選手はわかりますけど、パウロ・フィリオの参戦を発表しただけでどよめいたり。かといってコアな人たちだけが集まってた感じでもなかったと思うんですけどね。いろんな層がまんべんなくいたように感じたんですけど。

――たぶん、こんな状況だからみんな格闘技が愛しくてしょうがなくなってきてるんだと思いますよ（笑）。

笹原　ああ、実際にそれは感じますよ。ファンの人たちの「僕らがこのジャンルを支えなきゃ！」みたいな気持ちを感じますよねえ。やたら会場とかでも「頑張ってくださいね」って声をかけられるんですよね。

――それ、勢いあまって笹原さんも愛でられてるんですよ（笑）。

笹原　よっぽど僕が暗い顔してるのかもしれないですけど（笑）、会場とかでは、やたらそういう声を掛けられるんですよ。ひどいことを言われたことないですからね。

――そういえば、7月の『DREAM.10』の次は9月下旬に大会が予定されているそうですけど、『戦極』が9月23日にさいたまのコミュニティホールでの開催を発表してるんですね。

笹原　ええ、知ってます。

――もしかしたら同日開催になんてこともあり得るのかな、なんて。

笹原　あー、こっちはまだ日にちが

『DREAM.9』成功の立役者はこの男!? 来

試合後には来日前にヒザを負傷していたことを明かしたカンセコは、ついでにマネージャーを務める彼女にプロポーズをしているものの、まだ返事がないということも告白。はたして、ふたたびファイターとしての来日はあるのか、そして彼女との行方は？

約25年のキャリアを誇るムエタイ殺法を駆使し、ホンマンに向かっていったカンセコだったが結果はやはり惨敗。そんなカンセコの破天荒すぎる素顔を発売中の『kamipro』No.135にて、映画評論家・町山智浩氏がたっぷりと語っています。これは必読！

アメリカで多くの有名選手に指導をお願いするも、これまでのトンパチエピソードが強烈すぎるためか、断られっぱなしだったというカンセコ。大会当日も長南にセコンドを頼むも断られ、結局は金髪巨乳マネージャーとバットとボールを持って仲よく入場！

大会前日には新宿駅前で行なわれた公開計量＆会見で、あらためて向かい合ったホンマンのデカさに驚きを隠せないカンセコ。「サップより大きい人に会ったのは初めて。正直怖い」と不安げなカンセコは会見中サップに盛んにアドバイスを求めていた。

確定してないですけど、もしかしたらその可能性もあるかもしれないですねえ。仮にそうなっても、いわゆる興行戦争って業界が活気づくのでむしろプラスだと思いますけどね。

――今後、DREAMが変革をしていけばいくほど、ここにきて初めて『戦極』との対立概念というものが生まれてくるのかなって気もしますね。だからこれは『戦極』にとってもおいしい展開というか。

笹原　まぁ、そうですねえ。僕としては「DREAMだけ見てりゃいいんだよ！」って感じですけどね（笑）。

――いやあ、とりあえず今回は無事にいい結果が出たということで、あらためておめでとうございます。

笹原　ありがとうございます。今朝、石井さんから電話があったあとに谷川さんからも電話があったんですけど、「よかったね。これでひとまず安心だよね」なんて話をして。

――冗談抜きで、今回視聴率が悪かったら打ち切りの可能性もあったわけですよね。

笹原　ええ。なのでDREAMとして安心したってこともありますし、日本の格闘技界全体で見たときに、今回の数字は責任を果たせたというか、格闘技界全体にとって本当によかったなって思いました。あとはまあ、さっきも言ったんですけど、やっぱりおもいきったことをこれからもドンドンやっていきたいですね。今回おもいきったことがちゃんと結果として出たんで、これに満足することなく変わったことやいろんな仕掛けをやっていきたいと思います。

――ドンドン仕掛けてください。

笹原　たとえば、女子の試合をやるとか、MMA版の甲子園をやるとか。……まぁ、いま思いつきでしゃべってるだけですけど（笑）。

――MMA版の甲子園と聞いて思い出しましたけど、KID選手の甥っ子のアーセンくんなんかも中一ですでにめちゃくちゃ強そうですよね。

笹原　強いと思いますよ。昨日もバックステージに船木（誠勝）さんや桜庭さんのお子さんがいて、アーセンくんがいたりとか。格闘家の子どもたちが徐々に育ってきてるんですよね。知らないあいだにドンドン大きくなっていたりして。そういう子たちがいずれ格闘技のリングに出てきたら、夢がありますよね。

――確かに二世は夢がありますねえ。

笹原　僕もね、個人的に親子物語モノとか大好きなんで（笑）。一番感動しますからね。親と同じ職業を子も選択して、親がセコンドについてみたいな話って大好物ですから。

――その親子物語を実現させるためにはあと最低10年はDREAMを続けてもらわないといけないですね。それでは今後も期待しています！

笹原　ええ、頑張りますよ。とりあえずこれから新しい枕を買いに行ってきます！

【09年5月27日／都内・某ホテルにて収録】

今回の結果に満足することなく、いろんな仕掛けをやっていきます！

『DREAM.9』から見えてきたものとは何か?

DREAMは"明るいMMA"を目指すぞ〜!

サダハルンバ、高視聴率に大興奮!

FEG代表(自称・川尻ファン)

谷川貞治

サダハルンバが『DREAM.9』の視聴率を大解剖!
今回の成功を喜ぶとともに、7月、9月のさらなるDREAMの
課題についても語ってくれた。また、サダハルンバが提唱する
"明るいMMA"とはいったいなんなのか? DREAMの未来を読め!

聞き手/ジャン斉藤　写真/DREAM

谷川　ウフフフ～。斉藤くん、ついにDREAMの時代が来たね！（鼻の穴を膨らませて）。

――いやあ、だいぶ待ちくたびれましたよ（笑）。

谷川　ゴメンゴメン。だって平均視聴率16・2パーセントだよ！　16・2パーセント！　よく獲ったなあ～。〝ボクの〟DREAMが視聴率を獲ったなあ。

――はあ。高視聴率を獲ったことは本当に喜ばしいけど……、谷川さんにそこまではしゃがれると、素直に同調できない自分がいますねぇ。

谷川　（無視して）それに地方に行くほどもっと高いんだよ。福島とか20パーセント、札幌なんて22なんだから！　ねっ！　これ、分析してあげようか？　してほしいでしょ⁉（前のめりに）。

――いや、けっこうです（笑）。

谷川　（無視して）コホン。えー、まずですね、今回のDREAMがなぜ視聴率がよかったか。一言でいうとそれは〝動機〟があったからなんですよ。

――ほう。動機ですか。

谷川　視聴率を獲るためには、いまの時代やっぱりいかに動機を作るかが大事なんだよね。もうすべて動機にかかってるといってもいい。つまり、普通のことをやってても普通の人は観ないんだよね。で、今回DREAMにとって一番大きな動機になったのが、DREAMの前番組で放送された内藤大助の世界戦なんですよ。

いまの時代いかに動機を作るかが大事で 今回の一番大きな動機はやっぱり内藤大助

――内藤の試合は平均で20パーセントも獲りましたね。

谷川　その次の大きな動機がスーパーハルクなんですね。その二つの動機があったからみんなDREAMを観ちゃったんです。で、動機の次に大事なことというのは、中身。つまりいかに内容の濃いものを見せられるかということだよね。

――内藤、ハルクという入り口を通った先で、いかに魅力的なものを見せるか。

谷川　そもそも内藤に関しては世間の人たちは「内藤の試合は観ておきたい」という動機が凄くあるじゃない。で、内藤の次にスーパーハルクがあったからまたそこで動機が湧いてきたんですよね。その中で所くんや川尻くんがいい試合をしたり、KIDがフルラウンド闘ったことが大きかったんですよ。「ああ、KID負けそうじゃん！」となってチャンネルを変えられなくなった。

――視聴率的にはやっぱりスーパーハルクの効果は大きかったと思いますか？

谷川　大きかったよお！　もちろん格闘技のイメージに対してマジメな部分もないとダメだけど、でも世の中ってやっぱり「コイツとコイツが闘ったらどうなるんだろう？」とか「小さいヤツがデカいヤツと闘ったらどうなるんだろう？」という視点があるじゃない。プロモーション的にやりやすいんだよね。だからその部分をもっとうまくプロデュースしたほうがいいと思うんですよ。

――去年DREAMの視聴率があまりよくなかったのは、そういう動機がなかったからですか？

谷川　やっぱり動機がなかったよね。内容は凄くよかったんだけど。去年はマジメにライト級GPとかミドル級GPをやってたじゃない。でも、それをやる動機が一般人がつかみきれてなかったんですよ。

――一般世間は無関心ですよね。

谷川　そこでたとえば「秋山が桜庭、あるいは強い選手が闘うんじゃないか」というのが明確に打ち出せればよかったけど、それが足りなかったよね。そういった動機という入り口がなかったら、中身はどんなによくても振り向かない。それはドラマでもバラエティでも一緒ですよ。

――今回の動機となったスーパーハルクはどうでした？

谷川　サップとハントはダメだねぇ。もう気持ちがなさすぎる。もうちょっとなんとかなるだろっていうかさあ。

――サップなんか「ケガする前にやめときま～す！」って感じですよね（笑）。

谷川　ホントにさぁ、なんなんだろうね、アイツは。逆に一番おもしろかったのはやっぱりノルキヤvsソクジュだね。乱闘のときなんて初めて自らリングに上がってレイ・セフォーを止めなきゃと思ったもんね。ボク、ロープつかみかけたんですよ。「レイ、戻ってこい！」って叫びながら。

――谷川さんには『とんがらしMEN』として、そのままハルクに参戦してもらいたい（笑）。

谷川　んあ～！　でも、この試合も地上波で放送してればよかったんだけどね。怖がっちゃうんだよ、TBSの人とか業界の人とか。ボクや笹原くんは「あんな行為は二度とあってはいけない」という姿勢は崩したらいけないけど、起きちゃったものは流すしかないなって。

――野球を知らなくても乱闘シーンは必ず観ますもんね。

谷川　そうそう。アングルが自然発生するのはおもしろいなーと思ったね。でさ、レイがソクジュに突っ込んでいったじゃない。こうなるとレイvsソクジュとか観たいもんね！（身を乗り出して）。

――じゃあ、スーパーハルクの2回戦はどうするんですか？

谷川　もう、いいんじゃないの⁉（真顔で）。

――ダハハハハハハハハ！

目指せ〝明るいMMA〟

谷川　いやいや、ハルク的なものは絶対に必要だけど、べつにトーナメントである必要はないなって。そう思わない？

――そもそもハルクは地上波では2試合しか流してないからトーナメントとして打ち出せてないですし。

谷川　ただ、ゲガール・ムサシみたいな人はスーパーハルクみたいなのに出てキャラを出したほうがいいと思うんですよ。

――あ、それは同感ですね。

谷川　同じ階級でキャラの強いジャカレイとかメイヘムとかと一緒にやってると個性が死んじゃうもん。それよりも川尻くん、勝ってよかったよねぇ～～～！（ため息まじりに）。

――〝自称・川尻ファン〟の谷川さんとしては。川尻選手のほうはじつは嫌ってるみたいですけど。

谷川　（無視して）川尻くんと試合前に話したんだけど、「今日はおもしろい試合しますから！」って言ってくれてさ。ボクは「川尻くん、今日こそつまらない試合でもいい！　勝つだけでいいから！」って激励しといた。

――ダハハハハ！　よっ、サダハルンバ!!

谷川　だって相手はJZ（カルバン）だよ？　メチャクチャ強いじゃん！

――JZに勝てる日本人って、なかなかいませんよね。

ボクさ「川尻くん、今日こそつまらない試合でいい!」って激励しといた

谷川　それにいい試合だったでしょ、ハルク的じゃないけど格闘技として。で、試合後に川尻くんに「よくやった！　でかした！」って言いましたよ。そしたら本人はキョトンとしてたけどね。

――川尻さん自身、試合内容には納得してなかったみたいですけど。

谷川　いやあ、今回はなにより勝つことが求められる試合ですよ。

――しかし、選手にとってはたいへんな時代ですね。レベルは凄く上がっているのに魅せないといけないわけですし。

谷川　だから所くんの試合は凄いよねぇ。所くんは泣いて喜んでて、本当に二度と勝てないと思ったんだって。せっかく復活したんだから絶対に次も頑張れよって言ったら「なんかジョー・ウォーレンにもビビアーノにも勝てそうな気がします！」って小声で言ってましたよ。あれはいい意味で〝前田日明〟が乗り移ってたなあ（笑）。

――きっかけって大事ですねぇ。それに対してビビアーノvs今成は内容的に厳しい試合ですよね。

谷川　今成くんも今成くんだけど、上のポジションを取ったビビアーノが攻めないとああなっちゃうんだよね。あれでは一般の人には何をしてるかわからないし、本当に今成くんがダメダメファイターに見えちゃうよ。今回はKIDくんも負けちゃったけど、KIDくんも単純にあんなもんじゃないんだよね。

――やっぱりブランクは大きいですか。

谷川　やっぱり復帰戦ということもあってか、どこかで心が怖がってると思ったね。KIDくんっていつも何かやらかすファイターだと思ってたけど、昨日は〝神の子〟じゃなくて〝人の子〟になってたもん。相手の力が凄く強いから最初の差し合いで腕がパンパンに腫れちゃってパンチが打てなくなったとは言ってたけど。カルバンもそうだけどさ、やっぱりあのレベルの選手でも試合慣れしないとダメなんだなあって。

――ところで魔裟斗さんの7月の相手は川尻さんで決定なんですか？

谷川　ええっと、川尻くんにまだ正式に話をしてないし、魔裟斗くんともまだ話せてないんだけど。

――そういえば、魔裟斗さんもDREAMの会場に来る予定じゃなかったでしたっけ？

谷川　うん。そうなんだけど、結局来れなかったんだよ。昨日、第三京浜で交通事故があったんでしょ？　それで2時間ぐらい渋滞してたらしいよ。途中で電話があって「いま何試合目ですか？」って言うから「次だよ、次！」って言ったら「いやあ、ぜんぜん動かないんで帰ります」だって。

――あ、そういうことだったんですか！

谷川　だからホントにもったいなかったんだよお。川尻くんと一緒にリングに上がることだってできたわけだから。

――TBS的にもそういう画が撮れなかったのは残念でしょうね。ところで、魔裟斗戦の候補には五味隆典選手も挙がってましたけど。

谷川　いや、あれはまあボクが個人的に観たいなあっていう。

――五味サイドは魔裟斗戦に乗り気だったんですか？

谷川　非常に興味は持っていただいてるなという感じですよね。五味くん本人もやりたいかもしれないですね。

――でも、K－1の主催者でありDREAMの主催者である谷川さんとしては、五味か川尻かでいうと、DREAMファイターである川尻さんを選びたいんでしょうか？

谷川　う～ん、それは魔裟斗戦にかぎらず、なんでもそうだけど、今後につながるマッチメイクをしていきたいんだよね。今回のカルバン戦だって魔裟斗戦がちょっとしたスパイスになったわけだし、もし魔裟斗戦が実現すれば、川尻くんの名前は売れるし、つまりDREAMの浸透にもつ

目指せ〝明るいMMA〟

ながるんです。

――もっと大きな話を言えば、この試合結果や内容いかんによっては、来年のDREAMの地上波中継が増えるかもしれないですね。

谷川　五味くんの場合にしても、そういう構想がないとやる意味がないんですよ。7月に一回だけ魔裟斗くんとやって勝った負けたといったところで業界のためにはならないでしょ。たとえば魔裟斗戦をきっかけに大晦日に五味くんが青木くんや川尻くんと闘えるような環境になればいいんだろうし、むしろ、それだったら即決ですよ。

――凄く簡単に言ってしまうと、大晦日に青木真也と闘うようになればオッケーなんですか？

谷川　いやいや、そんな簡単な話でもないんだけど、そういう構想がないと、テレビ局やDREAMも絡んでくる話ですからね。ま、魔裟斗くんの試合については近々発表できると思います。

――いろいろ面倒なんですね（笑）。ところで次回のDREAMなんですが、通好みのカードが出揃いましたね。

谷川　シブいよねぇ。いいカードだけど。

――地上波向けがA面だとすると、こちらはマニアに向けたB面として動かしていく感じなんですかね？

トーナメントの続きまで待てないし
トーナメントだからと観るいうのは一時よりない

谷川　いや、それはやめたほうがいいね。7月にもやっぱり動機が必要ですよ。じゃないとせっかく上がってきたものが伝わらなかったり、元に戻ったりしますから。絶対に入り口を作らないとダメ。たとえばミルコvsアリスターだったり、KIDくんの試合でもいいし、何か一つ見出しになるカードが必要だね。じゃないとDREAMのブランドも統一されないしね。

――ハルク的な何かが必要だと？

谷川　ハルクとは言わずとも、DREAMにはキャラの強い人が凄くいるじゃない。桜庭もそうだし、田村も船木もそうだけど、彼らが演じられる世界をどう作るか。ある意味あのへんの世代もスーパーハルクだし。だから、ハルクの持つ明るさや、選手の物語性を入れ込むことで、青木くんとかマッハくんのカードも生きてくると思うんだよね。

――物語で言うなら、もう一回青木vsマッハをやればいいんですけどね。あれほど強烈な物語は最近ではそうそうなかったですし（笑）。

谷川　そうなんだよね。だから、いまの時代って、トーナメントだから観るっていうのは一時よりないよね。

――次のフェザー級GPにしても、所英男の人間ドラマが観たいというか。

谷川　ホントにそうなんだよ。トーナメントだからおもしろかったわけじゃないでしょ。青木くんとマッハの人間性がおもしろかったわけじゃない。だからKIDくんにしても、あの何をしでかすかわからない人間性が浮き出る試合を組みたいよね。

――じゃあ、KIDvs所英男でいいんじゃないでしょうか。

谷川　ねえ！　KIDくんが勝てば、それもアリだったんだけどなあ。やっぱりグランプリだと見たいものがずれてくる可能性があるし、そういう意味ではホントにずれてるからね。だから難しいし、トーナメントよりソクジュvsノルキアから出てくる自然発生アングルを引っぱり出すことが大切だと思う。なんだかんだ言ったって去年のDREAMで一番おもしろかったのって石田vs宇野とか青木vs宇野だもん。ああいうアングルを引っぱり出して、活かすことが今後のDREAMにもK－1にも求められますね。

――ちなみに、今回の視聴率がよかったことで、来期の放送枠が増えることってありえるんですか？

谷川　9月がよかったら増えるでしょう。もちろんボクらが希望すればだけどね。そうなると、いい選手をどんどん送り出していけるなというのはあるよね。いまのDREAMはキャラがだいぶ揃ってきたし、あのメイヘムの入場にしてもよかったじゃん。

――女子高生軍団を率いたバカダンス。

谷川　本当にバカだよねえ。あのバカっぷりがいい。あの入場は須藤元気以来のシックリ感だったなあ。正直、自演乙よりも板についてたよ。ああいった明るい雰囲気を絶対に守ることだな。明るい雰囲気でやっていけば絶対に客層もよくなるから。やっぱりキラキラしてないとダメだよ。

――確かに最近の世の中は暗い話題が多いですから。

谷川　だからこそ暗いことを暗く表現するのはいまの時代に合ってないよ。今回のハルクみたいに明るいMMAがどっかにあったほうが絶対にいい。

――確かにDREAMって個性的なメンツが揃ってきましたよね。

谷川　うん。これからはDREAMの時代だと思うよ。どんどんおもしろくなると思うし。というわけで、DREAMが「キターーーーーッ!!（織田裕二のモノマネをする山本高広調）」という感じでお願いします。

――古っ（笑）。全然タイムリーじゃないですよ!!

【09年5月27日／都内・某ホテルの喫茶店にて収録】

“俺たちが考えた”スーパーハルクトーナメント!!

こっちのほうが凄くね？

カンセコも驚愕!!　視聴率獲得(?)のためにプランニングされた『スーパーハルクトーナメント』にもの申す!　『kamipro』の識者たちが勝手に考えた、俺なりの超ド級のモンスタートーナメント表。これで視聴率50パーセント以上、間違いなし!?

構成／真下義之

上井文彦
（元UWAI STATION駅長）

■1954年4月4日、山口県出身。77年に新日本プロレス入社。第一次UWFを経て、新日本復帰後は営業、執行委員として活躍。ビッグマウス、UWAI STATIONを経て、現在はプロレス界から距離を置く。

①
藤田和之
LYOTO

②
石井慧
朝青龍

③
アレキサンダー・カレリン
エメリヤーエンコ・ヒョードル

④
カンムリワシ用高
ブロック・レスナー

やっぱり僕はカンムリワシ用高が勝ち上がっていく姿が観たいですね！　ん？　カンムリワシについて教えてほしい、と？　いや僕はですね、ホントにお金払ってこっそり沖縄プロレスを観に行ったんですけど、もう観た瞬間から「ただモンじゃないな！」って思いましたよ。沖縄にこんな選手がいるのか！　って。「カンムリワシ用高」って名前はぜんぜん強そうじゃないじゃないですか。でも凄いんですよ！　とにかく凄い!!　これはこけおどしじゃないですよ、実力がちゃんと裏打ちされてますから。おそらくジュニアヘビー級で試合したら彼がタイトルを総ナメにすると思いましたね！　ん？　視聴率は獲れないんじゃないかって？　でも、レスナーに勝ったら一気にカンムリワシ・コール爆発ですよ!!　あの実力なら、いずれベールを脱ぐことになるでしょうね！

佐伯 繁
（DEEP代表）

■1969年6月24日、富山県出身。DEEP代表。01年に愛知県でDEEP を旗揚げ。05年からはPRIDEの広報。さらにDREAMの広報も務めるマット界の名物関係者。M-1チャレンジの日本代表監督も務める。

①
室伏広治
清原和博

②
篠原信一
チェ・ホンマン

③
長渕剛
ジャッキー・チェン

④
高橋克典
スティーブン・セガール

①室伏と清原はお互い日本人離れした強い肉体を持つ、ケンカ自慢の試合になるでしょう。正直どっちが勝つか予想できません。②篠原とホンマンは巨人対決。両者ともに格闘技の実績、経験もあり、単にイロモノ対決とは違い勝負論も語れる試合です。③長渕とジャッキー・チェンの試合は、極真空手vs少林寺対決。体格も同じぐらいだし激しい打撃戦になるでしょう。④日米を代表する肉体派俳優対決。『特命係長 只野仁』の高橋克典の身体は圧巻です。セガールも日本拳法を得意とし、巧みな技には定評がありますが、お互い映画やテレビの話。実際どれぐらい強いかを証明する試合になるでしょう。体格的にはセガールが大きいですが、只野はホンマンを倒してるから問題ないでしょう。以上、このトーナメントが開催されれば視聴率は最低50パーセント、最高70パーセント獲りますよ！　いかがですか？

掟ポルシェ
（ロマンポルシェ）

■1968年5月3日、北海道出身。テクノポップバンド・ロマンポルシェ。ボーカル＆説教担当。本誌で『萌え萌え女々苑』を好評連載中。コラムニスト、俳優、DJ、次世代アイドルのプロデュースなどでも絶賛活躍中。

①
ジャンボ堀
ジャンボ尾崎

②
アフリカ象
ナウマン象

③
松岡修造
赤いウインナー

④
牛肉
鶏肉

①本気になったらジャンボが強いということで!?　だったらどっちのジャンボが!?　②「象は強いよキミィ！　やりたまえ！」と故・大山倍達先生はおっしゃられたそうですが!?　では象と象ではどっちの象が!?　ムムム、知りたい！　かもしれない！　③おいしいけどあの赤い色には身体に悪い添加物がいっぱいで!?　食いしん坊の修造は食べずにガマンできるかな～？④今夜のおかずはどっちにすれば!?

SUPER HULK TOURNAMENT

マッスル坂井

（プロレスラー、『マッスル』主宰）

■ 1977年11月5日、新潟県出身。02年にDDT入り。04年に新機軸のプロレスイベント『マッスル』を旗揚げ。お笑いや映画監督などでも活躍するマット界随一の文系プロレスラー。

①
浜口京子
しずちゃん（南海キャンディーズ）

②
HIROKO
にしおかすみこ

③
小向美奈子
鳩山幸（鳩山由紀夫夫人）

④
マツコ・デラックス
ウーピー・ゴールドバーグ

おもいきって女子のトーナメントにしてみました（笑）。①事実上の無差別級トーナメント決勝戦。女子格闘技界と太いパイプを持つ、最強最大の女芸人が今夜衝撃のデビュー戦!!②SMに対し愛のない発言が目立つ元女王様キャラ・にしおかと、リアル元女王様・HIROKOが大激突！③「"裸一貫" からやりなおす」と、ストリッパーになった小向美奈子にライフコーディネーターでスピルチュアリストの鳩山夫人が人生指南。元宝塚女優の美貌は60代半ばを迎えたいまも衰えることを知らない!!④和製ボブ・サップvs女ボブ・サップ。

みのもけんじ

（『プロレス・スターウォーズ』作者）

■1956年3月22日、宮崎県出身。84年から月刊『フレッシュジャンプ』で『プロレス・スターウォーズ』連載、熱狂的支持を得る。先日、ホームページ『みのもけんじのプロレスで哭け！』開設。
http://www.minomo-go-q-pro.com/

①
清原和博
朝青龍

②
ブロック・レスナー
篠原信一

③
エメリヤーエンコ・ヒョードル
三沢光晴

④
前田日明
小川直也

①朝青龍には幻想ありますね。モンゴルでサッカーやったときのヘディング、あの反りや動きは普通のデブはできない。対する清原は格闘技で「実際どうなんだろ？」っていう興味で。②日本柔道を代表する "ハルク" 篠原が、レスナーの突進力をどこまで柔道でさばけるか？③ヒョードルの相手で一番ありえないけど一番観たいのが三沢。でも、"エルボーあり" が絶対条件（笑）。④前田はいまならギリギリ試合をやれるかもしれない。その相手として小川がちょうどいいかな、と。あと、前座でビンス・マクマホンvsダナ・ホワイトのプロモーター対決にプーチン大統領vs谷川さんの色白対決（笑）。ボブ・サップ＆キンボ・スライスの似た者コンビvsチェ・ホンマン＆ヤオ・ミン（中国人のプロバスケ選手）のアジアの巨人コンビ対決でどう？

椎名基樹

（変態座談会メンバー）

■ 1968年4月11日、静岡県出身。放送作家、構成作家、フリーライターとして絶賛活躍中。本誌の好評長寿コラム『サムライ三昧』を執筆。『変態座談会』のレギュラーメンバーとしても知られる。

①
清原和博
伊良部秀輝

②
ムルアカ
布袋寅泰

③
室伏広治
篠原信一

④
朝青龍
ミルコ・クロコップ

①おそらく格闘家になってほしかった日本人アスリートの筆頭に誰もが選ぶだろう清原。その永遠のライバル伊良部。平成の名勝負がリングで復活。②狂暴長身対決。布袋のセコンドには「加賀屋来たいの」もとい「輝きたいの」とばかりに妻の今井美樹。③日本人ポテンシャル最高決定戦。篠原にはぜひ、赤いショートパンツを穿いてほしい。④朝青龍の対戦相手は白人が似合う。
※リザーブマッチ＝「花くまゆうさくvsヴァレッジ・イズマイウ」。伝え聞いたところによると画伯は柔術黒帯だとか。凄すぎる。黒帯対決。

世間の皆さんが格闘技をどう見ているのかお話を聞いてみました

一般世間へのアプローチが問われる格闘技界においてはいろんな議論がかわされてるわけですが、もう面倒くさいから実際に世間の方々にお話を聞いちゃえ!!　というわけで、本誌の発行元エンターブレインから3名の方に出席していただきました。なるほどそういう目で見てるんだ。ん〜、ハダカデ、ナニガ、ワルイ!!（意味なしのジャカレイ調）。

構成／ジャン斉藤

――日本の格闘技って一般層を巻き込んでやっと成立しているんですが、実際のところいまは社会的関心がだいぶ薄れてきているんです。そこで業界外でゲーム関連の出版をおもに行なっているエンターブレインの皆さんにお話をうかがおうということになったんです

澄田　ファミ通書籍編集部の澄田雅範です。ボクは格闘技のことは全然知らないというか、ホントに興味ないんですけど、メジャーなプロレスはよく観てるんです。で、毎日『東スポ』も読んでいるから、中西学がIWGPを獲ったことは知ってたりします（笑）。

中村　広告部の中村了です。ボクは『DREAM・5』を観るために大阪に行くぐらいの人間です（笑）。

井上　電子出版推進部の井上亜美です。私は中村くんほどのファンじゃないですけど（笑）。テレビでやっていれば観るし、以前はPRIDEも観に行ってました。

澄田　僕はテレビでやってても観ないなあ。チャンネルを変えちゃう。

――なるほど（笑）。整理すると、中村さんはコアな格闘技ファン、井上さんはライトな格闘技ファン、澄田さんはプロレスは好きだけど格闘技に関しては一般層というわけですね。まずライト層の井上さんが格闘技を見始めたきっかけは？

井上　私が格闘技を見始めたのはアンディ・フグやピーター・アーツが全盛のときのK―1です。中学の頃、「昨日のK―1、凄かったよね！」っていうのがクラスの共通会話だった全盛期からのファンでした。

――格闘技への〝入り口〟はテレビなんですね。

井上　そうですね。それでK―1に（フランシスコ・）フィリオが出てたりするから極真空手を観たりするみたいな。

――それは理想的な流れですねぇ。

中村　ボクも入り口がK―1でかれこれ15年以上ずっと格闘技を観てるんですけど、やっぱゴールデンタイムでやらないと知りようがないですよね。たとえば営業先で「昨日、五味（隆典）が中蔵（隆志）に勝ちましたよね」って話は普通にできないんですよ、テレビでやってないから。「……なんの話ですか？」って絶対に言われると思う（笑）。

澄田　……ゴミvsナカクラ？　全然知らないなあ。

――そうですか（笑）。井上さんはK―1から総合格闘技へすんなり移行できたんですか？

井上　すんなりではないですね。『PRIDE・1』は観てないですし、やっぱり立ち技のほうがわかりやすいので、なかなか総合を観るようになるまでには時間がかかったような覚えがあります。女の子同士の会話にも総合の話題はほとんど出てこないんですよね。

――総合はK―1と比べてマニアックな世界なんですかね。

井上　いまだに女の子の友だちは「私の好きな現役選手は須藤元気」みたいな子ばっかです。で、私が総合を観るようになったのは、ミルコがPRIDEに本格参戦とか、そういうキャッチーなニュースがあったあたりから。

――リボーン以降のPRIDEから。あのへんからようやく世間に届くようになった感はありますね。

井上　だから私はそのときの〝世間〟かもしれないです（笑）。

澄田　そうなんだ。わっかんねえなあ、格闘技は。

井上　私は逆に「プロレスのロマン」がまったくわからないんですよ。プロレスの選手が総合に参戦するようになって、バックボーンを調べたりはしましたけど。

澄田　逆にお聞きしたいんですけど、格闘技のおもしろさって、やっぱり「どっちが強いか」でしょ？

井上　というか、私はプロ野球や相撲を観る感覚で格闘技を観てるんですよね。日本シリーズを観戦する感覚でヒョードルvsミルコ戦を観てるみたいな。「プロレスは受けの美学だ」とか言われてもちょっと難しい……。「受けなきゃいいじゃん！」とか思ってしまって（笑）。

――そりゃそうだ（笑）。

井上　逆に格闘技のほうがわかりやすくて。リビングでお父さんと一緒にピーター・アーツを応援する、みたいな。

中村　K―1は家族でごはんを食べながら観られたんですよ。でも、PRIDEになると家族と一緒に観られない。「これは自分の部屋で観ろ！」って言われましたね。

――どうしてなんですかね？

中村　どうしてでしょうねえ。バイオレンス色が強いというイメージがどうしてもあったからかな。あと「膠着状態は何をしてるんのかわかんない」っていう親の意見がありましたけど（笑）。

澄田　けど、プロレスよりはわかりやすくない？　プロレスはわかりづらいですよ。だって、妹と一緒にテレビで新日の東京ドーム大会を観たことがあるんですよ。で、たまたま試合がダブルノックアウト状態になったんです。そうしたら妹が「なんで両方、倒れてるの？」って聞いてきたんで、「あれはわざと倒れてるだけなんで、たぶん同時に起き上がるよ」って言ったら、案の定、二人が同時に起き上がったもんで、妹が「プロレスってそういうもんだったの！」って驚いて。だから一般的にはプロレスはマジメにやってるっていうか真剣勝負だと思ってる。全然興味のない人はプロレスも真剣勝負だと思ってますよ。

――中村さんはどうですか？　総合は一般人にはわかりにくいんですかね？

中村　なんだろう、そう言われると言語化できないもんですね。ボクは「格闘技がなかったら死ぬ!!」くらいの人なので（笑）。

――じゃあ、どんなにつまらなくてもある種の屁理屈で消化していくというか。

中村　「まあまあ、しょうがない！」「次があるさ！」的な。新日本キックがダメダメ

腐ってもサップな
一般層

ファミ通書籍編集部の澄田さん。プロレスには興味はあるが総合格闘技には関心なし。となると、総合への接触はない一般層は、もっともっと総合に関心がないのだ。澄田さんクラスの方が世の中には1億人近くいることを想像して読んでほしい。

PRIDEが好きでした
ライト層

電子出版推進部の井上さんはPRIDE消滅後に興味を失ない離れていったライト層に近い。こんな女性ファンが2〜3万人くらいいれば、マット界は安泰なんですが……。総合格闘技を見始めたのはミルコのPRIDE電撃移籍のあたりから。

谷川死ねな
マニア層

『DREAM.5』大阪大会に“密航”することからして広告部の中村さんは大の格闘技好きです。こんなモーレツファンが2〜3万人くらいいれば、マット界は安泰なんですが……。総合格闘技を見始めたのは田村潔司vsパトリック・スミスから。

な興行のときでも「まあまあ」っていう。ただ、一緒に連れてった人間はげんなりしますけど、そこは説得しますからね（笑）。「これは違うから！　今回はちょっとハズレの興行で。次がある、次が!!」って。

――自分が一番困るのは、格闘技ファンじゃない友だちから「観に行きたい」と言われることなんですよね。

中村　ああ、それはホントに同感ですねぇ。1から10まで説明をしないといけないですし。

井上　私、一度、中村くんの隣で観たことがあるんですけど、一緒に来ていた友人にずっと解説をしてたんですよ（笑）。「ず～っと、しゃべってるなあ」と思いながら。私も友だちと一緒だと楽しみづらいところが嫌ですねぇ。

――みんな大変だ（笑）。

井上　総合はやっぱりマニアック感がありますよね。そこが熱を生んだりする反面、（ジャンルを）狭めちゃってるところはあるのかな、なんて思いますけど。

――そこで質問なんですが、今度の『DREAM・9』でボブ・サップvsミノワマンと、ジャカレイvsメイヘムがあるじゃないですか（この座談会は『DREAM・9』の前に収録）。どちらか一試合しか観られないとなったらどちらを選びますか？

井上　私はジャカレイvsメイヘムのほうが観たいです。

澄田　……僕はサップかなあ。あとのほうの二人は名前すら知らない（笑）。そりゃあ、知ってる選手と知らない選手だったらサップのほうを観ますよ。いくらサップの旬が完全にすぎたとはいえ。

中村　ボクはジャカレイですねぇ。サップvsミノワマンはねぇ……、別のリングでやりゃあいいんじゃないかぐらいのことは思いますけどね。やっぱりボクはK―1がモンスター路線、谷川黒魔術に染まっていく段階を観てたわけです。いまボクと同じぐらいの世代で、K―1を観ながらすごしてきて、黒魔術が原因でK―1を観なくなった人間がけっこういるんですよ。（アンディ・）フグが亡くなったこととか、観なくなった理由はほかにもあるんでしょうけど。

井上　私もどっちかっていうと、曙vsサップあたりにはちょっと気持ち悪い感がありました（笑）。

中村　ただ、曙vsサップはおふくろと観ても許される試合なんです。そのときは『紅白歌合戦』からチャンネルを変えてもオッケーみたいな感じなんですけど。「田村vs桜庭をちょっと観たい」って言うと、「何を言ってるんだ？　自分の部屋で観なさい」ってなるわけですよ。

世間の皆さんが格闘技をどう見ているのかお話を聞いてみました

『武士道』を合わせれば年間10大会近く開催していたPRIDE。それに加えて『HERO'S』や『Dynamite!!』も行なわれており、メガイベントの波状開催によってファンの興味を惹きつけておける環境がかつてはあった。

澄田　やっぱりサップにはバケモノの魅力があるわけじゃないの。

――そのジャカレイvsメイヘムって、地上波中継ではたぶんカットされるんですよね。

井上　え、メイヘムって人気ないんですか？

――いや、格闘技ファンの人気はありますけど、大衆の認知度は低いですよね。

澄田　その興行のメインイベントになるのはなんなんですか？

――えーっと、このジャカレイvsメイヘムであります（笑）。

澄田　はあー。その興行に出る、最も一般人が知っていそうな選手は誰ですか？

――いまだと誰になるんだろ。チェ・ホンマンになるのかな？　あとは山本"KID"徳郁、ボブ・サップ、所英男がいて、そしてホセ・カンセコ（笑）。

澄田　いちおうホンマン、KID、サップはどんなヤツかわかります。カンセコっていうのも聞いたことある。やっぱり一般人が知ってる選手の試合を流したほうがいいですよ！

中村　うーん、まあ、僕は会場へ行けないときはPPVで観るので「地上波でどの試合が流れようがどうでもいいや!!」ぐらいの感じですねぇ。それでいいのかと言われると嫌なんですけどね。「できたらメイヘムvsジャカレイもみんなに観てもらいたいなあ」と思いつつも、「まあTBSだからやんねえんだろっ！」みたいな。

――もし中村さんがTBSのプロデューサーになったらどうされますか？

中村　そうですねぇ……、編成局に相談して「メイヘムvsジャカレイ流そうよ。佐々木希の話はいらないからさ」って話をする（キッパリ）。

――佐々木希を捨てますか！（笑）。

井上　私もメイヘムを流さないのはもったいないと思うんですよね。ボブ・サップ戦はキャッチーだから流すのはわからなくはないんですけど、それが次に絶対につながらないじゃないですか。

――「絶対に」とまで言いますか（笑）。

井上　ジャカレイvsメイヘムのほうが次につながる気がしますよ。メイヘムとか女性ファンも凄くつきそうだし。ボブ・サップvsミノワマンを観ても格闘技ファンにはならない気がするんですけどねぇ。

――厳しいですねぇ。やっぱりTBSにはけっこう不満があるんですか？

中村　不満はありますねぇ。やっぱどうしても色眼鏡で見てしまう。コアファンも口ではなんだかんだと言いながらも、地上波がなくなっちゃ困るんで、制作サイドの意図は透けて見えるわけじゃないですか。でも最後の一歩の部分で「ここを譲っちゃうと俺の大事な何かが壊れてしまう」と思って「なんだよ!?」って言いたいんですよっ!!

――せめて文句は言わせてくれ！　と（笑）。

中村　コア層はもう放っといてもいいっちゃあいいですよね。放っておいても問題ないというか、何をやっても文句を言いたいだけっていう。どうしても好きなものなので、「最後の最後は譲れないところがある。ちょっと言わしてくれよ！」って。

――まあ、本来はテレビに頼らないでできればいいんですけど、PRIDEの二の舞になりますからねぇ。

中村　そうですね。K-1がゴールデンタイムでやってなかったら、僕も違う何かに興味を持っていたでしょうし。

―PRIDEがなくなって以降の変化ってありますか？

井上　やっぱり（PRIDE活動停止の）一年間の空白で格闘技への興味はけっこう失ないましたねぇ。そのうちDREAMとか『戦極』に分かれちゃったみたいな感覚もありますし。

中村　それでもボクは会場に行ってるんですよね。ただ、PRIDEのときは「よし、今日も楽しむぞ！」という感じでしたけど、最近はハラハラしながら「ちゃんとうまく興行が終わってくれるといいなあ……」みたいな。

澄田　それってさ、かなりプロレスファンに近いような気がすんだけど。

―ですね。末期症状です（笑）。

井上　インディーズバンドを応援する感覚？

中村　うーん、そこまでは。『マッスル』のDVDを買うのはそういう感覚に近い。

井上　買うんだ（笑）。

―それはUFCじゃ補えない？

中村　UFCを現地の会場へ観に行くわけにもいかないですし、動画サイトで観ている感じですよね。WOWOWに入ろうかと思いながら、はや6ヵ月ぐらい。ちょっと踏み出せない自分がいて。

―それは「自分の国の出来事じゃない」ということもあるんですかね？

中村　そうですねぇ。ホントは会場に行きたいんですよ。でも、いまのところ日本でやる予定はないじゃないですか。「じゃあ、結果だけは見とくか」っていう。

井上　私もUFCには興味津々ですし、きっと凄くいい試合が観れるんだろうと思うんですけど、お金を払わないと観られないっていうところが大きな壁で。雑誌とかで読んでもあまり臨場感がないというか、情報だけを手に入れて、それでニヤニヤするファンではまだないので（苦笑）。

澄田　あの～、そのUFCってジョシュ（・バーネット）さんがいたとこですよね。何か最近、名前を目にした気がするんだけど。そういえば、UFCって新日のベルトを持ち逃げしたヤツがチャンピオンになってませんでしたっけ？

―ブロック・レスナーですね。

澄田　そうそう。『東スポ』に「レスナーがUFCに参戦」とか書いてあったから、UFCってそういう団体なのかなあって思ってたけど。

―そういう団体？

澄田　「……ヤラセなんだ」みたいな（笑）。

―ダハハハハ！

澄田　そういうふうにボクは思っちゃいましたけどね。プロレスラーが勝ったら、そう思っちゃうよね（笑）。

今年のマット界上半期、世間にイチバン届いたのは文句なしで長島☆自演乙☆雄一郎だ。MAXの視聴率にも貢献した。だが、マット界上半期のMVPかといえば、そうは判断できないところが現在の複雑なマーケット状況を表わしている。

とにかくテレビで流れることが必要です

―そうですよねぇ。いやあ、世間の壁は高いなあ（笑）。最後の質問ですが、今後の格闘技界には何が必要だと思いますか？

井上　女の子目線でいえば、魔裟斗とか須藤元気は女子のあいだでもギリギリ共通語になったんですよね。女の子って「宇野薫、ブランド出してるよね」とかそういう話から入るんですよ。私はどちらかというと試合を観て楽しむタイプなので、個人的にはおもしろい試合を地上波で流してくれれば、ファンが増えるんじゃないかなと思ってるんですけど。

中村　TBSで今後もDREAMをやっていくのであれば、リアリティショーをやってほしいなと思ってたんですよ。せっかく『ガチンコファイトクラブ』をやってたTBSなんだから。そうすればUFCがアメリカでブレイクしたときと同じように、世間には響くのかなあって。

―それって格闘技の魅力とはまた別の話ですよね。

中村　そうですね。そこはニヤニヤしながら観てます。リアリティショー出身の選手がDREAMのリングに上がっても絶対に応援はしないんですけど。

―しないんだ（笑）。

中村　しないんですけど、対世間としてはそういうのがあったほうがいいかな、と。

澄田　とにかくテレビで流れることじゃないですか、必要なのは。ボクの編集部にいる女の子がこないだ「プロレスのチケットをもらった」みたいなことを言ってたんですけど、何も知らない人にとってはきっとプロレスだろうが格闘技だろうが区別がつかないと思うんですよね。地上波とかで継続的に放送されてなかったら、もうメジャーだろうがマイナーだろうが全然関係ないような。とにかくテレビでやって、ボクが名前を聞くようになればいいんじゃないかな（笑）。

―まずは澄田さんを納得させろ、と（笑）。

澄田　もしくはメチャクチャ強ければいいんじゃないですか。それが日本人なら理想的。ミルコやヒョードルとか、やっぱり一番上でやってた人の名前って、なんか知ってるっていう感じですかね。あと知ってるといえばあれだ。自演乙！

―あ、やっぱり長島☆自演乙☆雄一郎は届いてますか。

澄田　あれぐらいになれば、さすがに覚えますよね。

井上　自演乙はわかりますね。こういう会社だからっていうのもあるかもしれないですけど、エンターブレインの社内で格闘技を観ないような人でも「コスプレファイター」って言えば通じるんですよ。

中村　ふーん。ボクは（アルバート・）クラウスに負けたとき、ちょっとスッキリしましたね。「ざまぁ！」と思いましたからね。

―さすがコア層だ（笑）。

中村　コアファンは放っときゃあいいんじゃないですか。でも、最後の線は譲れないですから!!

澄田　自演乙、いいと思うけどねぇ。

―複雑な時代だなあ。今日はたいへん勉強になりました！

【09年5月21日／エンターブレインにて収録】

とりあえず結論

澄田さんに覚えてもらう（？）

金子賢とカンセコの違いとは何か？

5・26『DREAM・9』高視聴率獲得！
されど見えてきたPRIDEとの決定的違い

DREAMよいまこそ哲学を持て！

日本武道傳骨法創始師範
堀辺正史

44歳の元メジャーリーガー、ホセ・カンセコの参戦。そしてスーパーハルクトーナメントの開催と、大会前から賛否両論だった5・26『DREAM・9』。今回、重要視されたテレビ視聴率は、16パーセントを獲得し、結果的に大成功となったが、はたしてこれは手放しで喜べるものなのか？おなじみ骨法の堀辺師範が、いまのDREAMを斬る！

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／乾晋也

視聴率は獲ってもテレビから伝わる熱気はPRIDEに遠く及ばなかった

――先生！　今日は昨日（5月26日）行なわれたDREAMについてうかがいたいんですけど、この大会はスーパーハルクトーナメントを組んだりと、けっこう賛否両論を呼んでるんですよ。

堀辺　今回のDREAMは視聴率を獲るために、批判覚悟でいろんなことをやっている。それはもう番組表を見たときにすぐわかりますよね。

――今回はとにかく視聴率を獲らないことには、来年以降の格闘技のテレビ中継存続にもかかわると言われていましたからね。

堀辺　その視聴率を獲るための方法として、まず内藤大助選手のボクシング世界戦と一緒に流すことで、ボクシングを観た人がそのままチャンネルを替えないで、DREAMも観てほしいという意図がハッキリあったと思います。

――内藤の世界戦はいまTBSで一番視聴率が獲れるソフトらしいですからね。

堀辺　それからカセンコですか？

――いや先生、カンセコです（笑）。

堀辺　あ、カンセコね。そういうジャンル違いの人を出したり、ボブ・サップvsミノワマンのような規格外の試合を流すことで、格闘技に精通してない人たちの興味も惹こうとする。このどちらについても言えることは、格闘技ファン以外の人にも観てもらって、視聴率を上げたいってことですよね。

――これは裏を返すと、格闘技ファンだけを相手にしていたら、視聴率は獲れないということですよね？

堀辺　そういうことです。格闘技ファンのパイが少なくなっているから、通常の総合格闘技だけじゃ視聴率につながらないとテレビ局が判断したんじゃないかと思います。で、いま格闘技を会場なりテレビなりで観ている人というのは、3つのタイプに分けられると思うんですよ。

――3つのタイプですか。

堀辺　はい。まずは総合格闘技に精通したファンと、ライトなファンの二つに分けられると思いますが、このライトなファンにも二つのタイプがあると思います。

――「ライトなファン」と一言で言いますけど、それにも二種類ある、と。

堀辺　一つはホントの意味で格闘技の醍醐味はわかってはいないけど、格闘技自体は好きなファン。もう一つは格闘技ファンというよりプロレスファンに近いファンですね。それプラス格闘技に精通したファンの3種類がいると思うんですよ。それを全部引っ掛ければ視聴率は上がるだろう、と。今回のDREAMはそういう構成だったんじゃないですかね。

44歳にしてまさかのMMAデビューを飾った、元メジャーリーグの偉大なるホームランバッター、ホセ・カンセコ。試合前から"出オチ"と言われていたが、確かに試合自体よりも、バット片手に入場したシーンのほうがインパクトがあった。

――つまり熱心なファン向けに川尻vsカルバン戦があり、ライトな格闘技好きにはKIDや所英男をアピールして、カンセコをはじめとしたスーパーハルクで、プロレスファンに近いうさん臭いもの好きを惹き付ける、と（笑）。

堀辺　そういうことです。その結果、今回は16パーセント以上の視聴率が獲れたということですよね。だから、視聴率という戦略からいえば、狙いは当たったということが言えると思います。ただ、これでバンバンザイかというと、やっぱり疑問があるんですよ。

――なんか高視聴率だったのに、素直に喜べないんですよね（笑）。

堀辺　なぜかというと、こういうものは混ぜご飯みたいなものですよね。混ぜご飯はたまに食べるとおいしいけども、やっぱり純粋に白米のおいしさっていうものが本命なんですよ。だから格闘技が好きなファンを増やしていかない限り、未来展望は明るいとは言えませんよね。

――今回は浮動票をたまたま獲得できただけで、〝DREAM〟が支持されて視聴率が獲得できたとは必ずしも言えないというか。

堀辺　そういうことでしょうね。やっぱり格闘技が好きな人を増やしていかないと、未来にはつながらない。だから昨日なんかも、視聴率自体はPRIDEの全盛期並の数字だったと思うんですよ。でも、テレビ画面から伝わってくる熱気というのは、正直言って、PRIDEには遠く及ばなかった。

――やはり、あのPRIDEの熱気を取り戻すというのは、並大抵のことじゃないですからね。

堀辺　ただ、これは会場の盛り上がりだけじゃなく、テレビ番組を作ってる側からも熱が伝わってこないというか、一見盛り上がってそうには見えますけど、ホントにピュアに熱狂してないんですよね。

――なるほど。

堀辺　やっぱり、その〝熱〟という部分は言葉でいうと簡単だけれども、観客もプロデュースする側もテレビ局側も、そういう雰囲気を作り出せてないということが、視聴率は獲っていたとしても、もうすでに衰退の兆候みたいなものを表わしていると思います。

――確かにそうですね。

堀辺　だから、今回は視聴率を獲るという方針でイベントを組んで、それが一応の成功を収めたわけですけど、それはDREAMとしてのホントの意味での方針じゃないという気がするんですよね。

――なんか〝プチ大晦日〟みたいな感じでしたもんね。

堀辺　だから大晦日なんかはお祭りとして、K-1もある、総合もある、カンセコみたいなものもある、芸能人が出たりもする。それはそれでいいと思うんですよ。でも、いまのDREAMに求められていることはそうじゃない。今後の格闘技界を考えたうえで、いまDREAMに何が必要かといえば、それは〝哲学〟ですよ。

――ほう、哲学ですか。

堀辺　DREAMは何を目指しているの

か、総合格闘技はどうあるべきなのかという強い方向性がなければダメです。別の言い方をすれば、いまDREAMが持っている価値基準がわからないんですよ。強い選手を求めているのか、おもしろい試合を求めているのか、はたまた視聴率が獲れればどんなことでもいいのか。ファンもDREAMが何を目指しているかわからないから、本当のピュアな熱狂につながらない。

――観客も何に期待していいか、わからない部分があるわけですか。

堀辺　そうです。だからPRIDEとDREAMの違いというのは、出場している選手の違いだとか、放送しているテレビ局の違いだとかありますけど、一番の違いはPRIDEには哲学があり、DREAMにはそれがまだ固まってないということなんですよね。

――確かにPRIDEというのは、価値観をしっかりと打ち出していましたよね。そしてそれがK―1やほかの総合格闘技との差別化を強烈に実現できていました。

堀辺　そうでしょ？　PRIDEは世界最強を目指す男たちが、己のプライドを懸けて闘う。それもただ強いだけじゃなく、ファンを熱狂させるような試合をするっていうポリシーが、観客にも選手にも伝わってきた。

――だからかシウバやミルコといった〝PRIDEファイター〟と呼ばれる選手は、ただ強いだけじゃなかったですよね。

堀辺　そうなんですよ。それはPRIDEというものが、確固たる哲学と目的を持っていたから、それに向かって邁進するPRIDEファイターが生まれていった。そして、その理念を実現するファイターに対して、観客が熱狂する。PRIDEではそういった関係性ができあがっていたんですが、いまはそれが成り立ってないんですよね。

――やはり、そういった確固たる指針がないと、本当の熱は生まれませんか。

堀辺　たとえばね、古い話になってしまうけども、いまから20年ほど前にUWFが社会現象になったときがありましたよね。あれはなぜ大衆がUWFに熱狂したのか。それは真剣勝負に近いプロレスをやったということも大切なんだけれども、それより何より、UWFは自分たちが何をしたいのかということを強く訴えかけた団体だったんですよ。「俺たちは真剣勝負のプロレスをやるんだ。それに向かっていまこの闘いをしているんだ」という主張があったから、非常にわかりやすかった。

――観客がそういう主張に共鳴したからこそ、本物の熱を生んでいたわけですね。

堀辺　そうなんです。観客もただ試合を観て、おもしろいかおもしろくないかだけじゃなく、UWFと一緒に夢を追いかけているという感覚を持つことができた。でも、今回のDREAMのようなイベントだと、そういう同じ船に乗ってるという実感が湧かないんですよね。

――方向性がバラバラで、どこに向かっているのかわからないわけですからね。そんな船には乗れないというか（笑）。

堀辺　だからね、これまで成功した格闘技の団体というのは、みんなそういう主張と一体感があったんですよ。大きな運動体、大きな船に、選手だけじゃなく、ファンも主催者もテレビ局もマスコミも、みんな立場は違うけど、同じ船に乗って一つの目標を目指している、それが熱を生んでいたんですよね。

――そして、その熱が周囲にさらなる渦を巻き起こして。

堀辺　そう。どんどん周りの人たちをも惹きつけていくんです。UWFやPRIDEだけじゃなく、猪木の新日本プロレスもまったく一緒ですよ。

――あれも〝猪木イズム〟をとにかく訴えていましたよね。

堀辺　その猪木イズムに説得された人たちがファンになり応援し、まだ説得されていない人をまた説得して、新日本のファン、猪木ファンに変えていって、一つの運動体、十字軍みたいになっちゃうんですよ。

――そういえば、PRIDEは観客とイベントの熱が、フジテレビの人たちを巻き込んでいくような感じはありましたよね。

堀辺　そうそう、フジテレビの現場の人たちを〝PRIDE信者〟にしちゃったんですよね。だから、現場で中継しているディレクターもカメラマンも、アナウンサーも、みんなその空間にかかわれていることが楽しかったと思う。PRIDEと同じ方向を向いて、その目標に向かって作り上げていくような感覚が、彼らにもあったと思うんですよね。

――なるほど。じゃあ、イベンターはファンに理念を訴えることも必要だし、テレビ局でテレビ番組を作ってる人たちにも、「俺たちはこういうものを作ってるんだ」と、わからせる必要がありますね。

堀辺　そうですね。現場の心が一つになっていると、テレビ中継を観ていても、それが視聴者に伝わるんですよ。試合がおもしろい、おもしろくないを超えて、番組全体から熱が伝わってくるんです。だからね、そのためにも団体には確固たる哲学が必要だし、それを引っぱっていく人も必要なんです。それがいまはね、テレビ局っていう会社が主導していて、団体がその考えに沿うようにやろうとしているように見える。そこがいけないんですよ。

――そんな感じはありますね。

堀辺　わかります？　新日本プロレスもUWFもK―1もPRIDEも、誰々って固有名詞がつく人が自分の考えを強烈に打ち出して引っぱってたんですよ。でも、いまは「テレビ局」という、人格からは離れた無機質なものの考えが一番の影響力を持っているから、どうしてもやらされて

DREAMよ いまこそ哲学を持て！

2005年大晦日の『PRIDE男祭り』に俳優・金子賢が参戦。テレビ局からの要請を受けたこの試合だったが、PRIDEはぬるい試合を組まず、金子にしっかり準備をさせたうえで、前田吉朗をもKOしたクレイジーホース・ベネットを当てるなど、厳しさを打ち出した。

PRIDEには哲学があったからこそテレビ局をも信者にすることができた

る感というか、お役所仕事的になってきている。

――本当にやりたいもの以外をやらなきゃいけないわけですね。

堀辺　でも、本当にDREAMが人気と支持を得たいなら、何度も言いますけど、確固たる哲学、DREAMイズムを持つ必要がある。そして、そのDREAMの理念を辛抱強く説く人がいなきゃダメです。だから記者でも、テレビマンでも、DREAMの理念がわかってないような人がいたら、「キミ、それ違うよ!」とね、逆に主催者から文句が出るぐらいの、そういう情熱を持った人が運営しないと、熱気が生まれてこないね。

――確かに昔の新日本なら新間寿さんが猪木イズムをとうとうと説いてたし、石井館長や前田日明もそう。UWFインターの宮戸優光なんかもそうですよね。そしてPRIDEでは、榊原代表と高田本部長が記者会見のたびにPRIDEの主張を述べていました。

堀辺　そうでしょ? そういうことが必要なんですよね。だから今回はね、何をやってでも視聴率を獲らないと、格闘技番組の存続自体が危うかったわけだから、それでいろんなことをやるのはいいと思うんですよ。で、これによって来年以降もテレビ放映ができる道筋ができたのなら、DREAMというものを盤石にするためにも、一刻も早いイズムの確立が必要になりますね。

――そのイズムさえ確立したら、あとは目標に向かって邁進していくだけですからね。

堀辺　イズムさえしっかりしていれば、"異物"が入り込んでも大丈夫なんですよ。たとえばPRIDEなんかでも、芸能人をリングに上げたことがありましたよね?

――俳優の金子賢が上がりましたね。

堀辺　でも、PRIDEは哲学がしっかりしているから、芸能人であろうと、そのリングに上がるからには命懸けの試合が待っているんですよ。

――金子賢は総合格闘技をしっかり練習していた人で、試合前にはブラジルのシュートボクセでキャンプを張っていましたからね。

DREAMには格闘技でしか味わえない感動や興奮を目指していってほしい

かつてPRIDEでは、記者会見のたびに榊原信行代表、高田延彦統括本部長がPRIDEの理念を語り、それにそぐわない闘いをした選手に対しては、勝っても容赦ないダメだしが行なわれていた。いまDREAMに求められるのもこの姿勢か。

堀辺　これがね、いま金子がDREAMに上がったとしたら、スーパーハルク的になっちゃうんですよ(笑)。

――なっちゃいますね(笑)。

堀辺　PRIDEの金子賢とDREAMのカンセコっていうのは、似てるようで全然違うんですよね。

――まあ、さすがにPRIDEにカンセコがあがることはなかったでしょうからね(笑)。

堀辺　やっぱりね、大衆っていうのは、強烈な主張をする人に引っぱっていってもらいたいものなんですよ。そして、その人がどれだけ本気になっているか見極めているものなんです。新日本のときの猪木イズムっていったら、猪木自身がマットの中でどれほど自分が掲げてるストロングスタイルってものをやろうとしてるのか、見定めようとするわけですよ。それで過酷なことをやったときに「おっ、あいつは本物だな。ストロングスタイルのために全力を尽くしてるな」ってわかったときに、人間はその人に惹かれていくんです。人間はハートで動くんですよ。そして格闘技という分野においては、じつはそこが一番大切なんですよね。

――DREAMも選手自体はいい選手が揃ってるわけですからね。

堀辺　揃ってます。そして、いい試合もしているんですよ。川尻の試合もよかったし、所だってもの凄く内容の濃い闘いで、なおかつ魅せる試合をしていましたよね。試合は総じてレベルが高いんです。ただ、イベントの演出もたいしたもんですよ。PRIDEを知ってしまっている人からすると、DREAMのホントの価値観がわからないから、ピュアになれないんです。

――その価値観や哲学は、もちろんPRIDEと同じじゃなくていいわけですよね?

堀辺　違っていいんです。DREAMはこれを目指しているんだっていう、確固たるものがあれば、PRIDEに反するものでも全然いいわけです。

――そして、そういう志が定まると、こういう試合がさらに光り輝くようになるわけですね。

堀辺　なると思いますね。もう一段上に行くには、ハッキリ言って、格闘技でしか味わえない感動や興奮を目指さなきゃいけないし、PRIDEにはそれがあったんですよ。そうすれば、ほかのスポーツに勝つことができる。だから、格闘技にしかできないものをしっかりと見定めて、それを追求していく姿勢がDREAMには必要でしょうね。いい選手が揃ってるんだから、DREAMはそれができると思いますし、期待したいですね。

――わかりました。今日はありがとうございました!

【09年5月27日/都内・骨法武術館にて収録】

ほりべ・せいし■1941年、茨城県水戸市出身。50年にわたる命懸けの求道の末、喧嘩芸骨法、さらに全局面打撃制koppoを創始。最近はヨルダン国王護衛の近衛団にも武道を指導するなど、多方面で活躍中。格闘技・武道評論の第一人者でもある。

衝撃!!

これはいいカードですねぇ!

DREAM.10

2ヵ月前にこんなに試合が発表されている!!

7・20『DREAM・10』は一味違う? DREAMは旗揚げ戦のときから大会直前にミルコ・クロコップの相手を公募するなど、大会直前までなかなかカードが決定しないイメージがあった。だが、『DREAM・10』は大会の2ヵ月前にウェルター級GPの決勝戦を含めると、すでに6試合が決定! しかも煽りVTRで立木文彦アナが「これはいいカードですねぇ」と唸ったように、格闘技ファンにとっては興味深いカードが並んでいる。

『DREAM・8』で青木真也の挑発を受けて、怒りのKO勝利で本能を再覚醒させた〝野生のカリスマ〟マッハは、GP準決勝で〝バク宙ニードロップ野郎〟マリウス・ザロムスキーと対戦する。ザロムスキーは、GP1回戦で池本誠知相手に予測不可能な打撃で勝利しているだけに、この一戦も派手なドツキ合いが期待できる。

逆のブロックでは、白井祐矢をフルボッコにしたジェイソン・ハイ、歴戦のツワモノ、ジョン・アレッシオを華麗な腕十字で葬ったアンドレ・ガウヴァオンが激突する。はたしてマッハは日本人で初めてDREAMのベルトを巻くことができるか?

さらには『DREAM・10』はワンマッチも豪華。ライト級に復活し、年内のベルト獲りをもくろむ青木真也は、〝柔術マスター〟ビトー〝シャオリン〟ヒベイロとの対戦が決定。フットチョーク、アオキプラッタなど、トリッキーな技を駆使する青木に対し、基本に忠実で理詰めで攻めるシャオリンとの対戦は、まさに〝世界最高峰の寝技対決〟。青木としてはキッチリ勝ってライト級ベルトに挑戦したいところ。

また、『DREAM・10』にはライト級のスター候補生、菊野克紀が満を持して登場する。〝世界のTK〟こと高阪剛の愛弟子の菊野は必殺の〝三日月蹴り〟を武器に次々とKOの山を築いてDEEPライト級王者となった本格派。アンドレ・ジダとの対戦は壮絶な打撃戦が期待できそうだ。

さらに嬉しいニュースは〝BTTの爆撃機〟パウロ・フィリオの復活だ。PRIDE亡きあともフィリオはWECでミドル級王者として君臨。最近の試合では、調整不足による体重オーバーでMMAでの初の敗北を喫しているが、その実力は〝唯一アンデウソン・シウバを倒せる男〟と言われる実力をキープしている。フィリオのDREAM参戦はメルヴィン・マヌーフをはじめ、ミドル級ファイターの脅威となるに違いない。

『DREAM・9』の地上波中継で平均視聴率16・2パーセントを記録して波に乗るDREAM。今度はどんな仕掛けで上昇を図るのか?

HEIWA presents

『DREAM.10 ウェルター級GP 2009 FINAL ROUND』

埼玉・さいたまスーパーアリーナ
7月20日(祝月) 15:00開場/16:00開始

主要対戦カード

[ミドル級ワンマッチ]
メルヴィン・マヌーフ vs パウロ・フィリオ

[ライト級ワンマッチ]
菊野克紀 vs アンドレ・ジダ
青木真也 vs ビトー"シャオリン"ヒベイロ

[DREAMウェルター級GP準決勝]
ジェイソン・ハイ vs アンドレ・ガウヴァオン
桜井"マッハ"速人 vs マリウス・ザロムスキー

[DREAMウェルター級GP決勝戦]
マッハ vs ザロムスキーの勝者
vs
ハイ vs ガウヴァオンの勝者

チケット料金(全席指定・消費税込)

VIP 100,000円(特典:専用入場ゲート・グッズ付)
RRS 22,000円/スタンドS 10,000円
スタンドA 5,000円 ※1歳より入場券が必要。

お問い合わせ

DREAM事務局 TEL. 03-5775-5065
http://www.dreamofficial.com/

本誌じゃ読めないインタビュー
ここに載ってます!!

kamiインタビュー

日沖発
「プロ意識と猫LOVEを語る!!」

このほかにも最近は宮田和幸、映画『チョコレート・ファイター』監督&主演女優ジージャー、小見川道大、金原正徳、菊野克紀など濃厚インタビュー掲載中!!

美女格闘技『ジュエルス』BLOG

美女格闘技イベント『ジュエルス』のBLOGを毎日更新中。月替わりの6月担当はDEEPジム所属の新人アミバです!!

新日本プロレスNOW通信

最近リング内外が変わりつつある新日本プロレスからライセンス事業部・阿部タケシ氏が登場して最新の情報をお届けします!!

こちらプロレス村役場ドットコム

元『週刊ゴング』編集長・金沢"GK"克彦氏が、プロレス界の最前線で観てきたことを週1回のコラムで激筆!!

青木真也の『週刊ワオ木真也』

7.20『DREAM.10』でビトー"シャオリン"ヒベイロとの対戦が決定した"バカサバイバー"青木真也が心境を綴る!!

ポッドキャスト番組『mimipro』

カリスマ司会者・原タコヤキ君がお届けするプロレス&格闘技トーク番組。多彩なゲストも登場、ここでしか聞けない話もあります!!

試合速報

注目の試合の内容をいち早く速報します。試合の写真はもちろん、試合後のコメントなども細かくレポート!! 生観戦後も必読ですよ。

ニュース

カード発表や重大発表など、規模の大小にかかわらず記者会見の模様を素早くお伝えします。最新情報はここで読もう!!

最新号情報

次号の表紙は? 内容は? そんな疑問にいち早くお答えします。雑誌『kamipro』およびkamipro booksシリーズの発売情報はこちらで!!

このほかにも読者プレゼントなど嬉しい企画を多数ご用意してます

紙

プロレス&MMAのニュースサイト

kamipro.com

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

カミプロドットコム

無料です!

レッツ毎日アクセス http://www.kamipro.com/

ライト級タイトルマッチ決定!

極いざ!!

注目の二人を
戦極ガールが
直撃♥

“シャキーン!”と8.2『戦極～第九陣～』で決定した“キモ強王者”北岡悟と、5.10修斗JCB大会で石田光洋相手に衝撃のKO勝利を飾った廣田瑞人のライト級タイトルマッチ。今回は対戦が決まった両者に『戦極』のリングを彩る戦極ガールの“戦極ブルー”荒井菜々緒ちゃんと“戦極グリーン”西垣梓ちゃんがそれぞれの心境にググッと迫ったぞ!

構成／阿修羅チョロ　撮影／梅木麗子

SENGOKU

with♥戦極ガール

こちらが3月の『戦極～第七陣～』から戦極ガールとして活躍している5人だ。左から“戦極ブルー”荒井菜々緒、“戦極レッド”佐久間ゆい、“戦極ピンク”友稀サナ、“戦極イエロー”相川友希、“戦極グリーン”西垣梓。5人揃って“戦極ゴレンジャー”として絶賛活躍中! おいらん歩きを取り入れたラウンドガール姿は必見ですよ!

8.2『戦極～第九陣～』でライ

北岡悟と廣田瑞人の戦

北岡悟と

〝戦極ブルー〟荒井菜々緒の

戦極、いざ!!

廣田とのタイトルマッチが発表された会見では
「僕と彼では強さの次元が違う」と自信タップリに言い放った北岡。
そんな北岡をインタビューするのは〝戦極ブルー〟荒井菜々緒ちゃん。
戦極ライト級〝キモ強〟王者と〝戦極ブルー〟の対決の行方は!?

「僕の弱点ですか？　寂しがり屋なところだと思います」

「先ほども『俺を二人にするな！』と言ってましたね（笑）」

荒井　『戦極ブルー』の荒井菜々緒です。北岡選手、今日はよろしくお願いいたします！
北岡　よろしくお願いします！
荒井　では、早速ですが質問させてもらいます。北岡選手から見た戦極ガールの印象と『戦極ブルー』の印象、あと、戦極ガールに望むことがあれば聞かせてください！
北岡　一気に来たなぁ（苦笑）。
荒井　一気にお願いします！（笑）。
北岡　戦極ガールの印象は、前の人がどうとかじゃなくて、みんなかわいいと思いますけど。
荒井　ありがとうございます。では、8月の『戦極～第九陣～』で廣田選手とのライト級チャンピオンシップが決定しましたが、廣田選手に「絶対にここは負けない」と自信を持っているところを教えてください。
北岡　廣田選手に負けないことは、俺のほうが絶対に友だちが少ない！
荒井　あ、そうなんですか⁉（笑）。
北岡　格闘技を通じて知り合った友だちしかいないんですよ。それ以外での友だちって片手にも足りないくらいなんで。
荒井　なるほど。そんな北岡選手ですけど、「これだけは誰にも負けない」っていう得意技はありますか？
北岡　格闘技的に言うと、フロントスリーパーっていう前から絞める技があるんですけど、それはホントに日本で一番うまいんじゃないかなって思ってますね。これはマジメに。
荒井　ゼヒ次の試合で見せてもらいたいですね。では逆にプライベートでの得意技とかってあります？（笑）。
北岡　まあ、シモの話でいいんだったら、それなりに自信があることはあるんですけど（照れ笑い）。
荒井　自信があるんですね（笑）。
北岡　でもまあ、あとは性格がマメなところだと思います。意外と。
荒井　それは格闘技にもつながるところがあるのかもしれませんね。
北岡　そうッスね。試合で勝つためにマメに細かいことをやったりしてるんで。
荒井　廣田選手との試合の前にパンクラスで坂口征夫選手との対戦も決まっていますけど、その試合の見どころを教えていただけますか？
北岡　坂口選手と僕が向かい合うってだけで価値があることだと思うんですよ。そういう試合です。会場のディファ有明で生で観てもらいたいですね。一見の価値あり、みたいな。
荒井　なるほど。その試合も楽しみ

にしてます！　では、プライベートの質問になるんですが、好きなタレント、有名人は誰でしょうか？

北岡　う〜ん、最近はこれっていう人はいないかもしれない。……すいません、つまんない答えで（笑）。

荒井　いえいえ。

北岡　テレビに出てる人とかはみんなキレイでかわいいと思いますけど。

——ちなみに廣田選手は取材してくれた『戦極グリーン』の西垣さんが一番好きですと言ってました（笑）。

北岡　あ〜、彼はいい人ですよね。じゃあ、僕も『戦極ブルー』で（笑）。

荒井　待ってましたとばかりに（笑）。ありがとうございます！　すみません、いただきました。

北岡　一応、お約束で（笑）。

荒井　ガラリと話題は変わるんですけど、北岡選手の弱点をこっそり教えていただけますか？

北岡　まあ、いっぱいありますけど。

荒井　意外に多いんですかね。

北岡　なんか打たれ弱いけど、打たれ強いって感じなんだよなあ。

荒井　ご自身でも曖昧だと（笑）。

北岡　そうッスね。打たれ弱いけど、意外と立ち直りも早い、みたいな。

荒井　そのときのコンディションとかも影響するんですかね？

北岡　そうだと思います。それがかなりデカいですね。弱点は寂しがり屋なとこじゃないですか。

荒井　先ほどもマネージャーさんがどこかに行ったら「俺を一人にするな！」と言ってて、ちょっと意外な面を見てしまったというか（笑）。

北岡　意外じゃないです。ホントに寂しがり屋なんです（笑）。

荒井　では、『戦極』とも縁の深いドン・キホーテについてどんなイメージがありますか？

北岡　いきなりだな（苦笑）。激安の殿堂！　神様、仏様、ドン・キホーテ様！　ドンキ最高です‼

荒井　ちなみに、「ドンキで1万円を好きに使っていい」と言われたら何を買います？

北岡　昨日、まさにそういう企画をやったんですよ。『ドンキ本』っていうドンキで配ってるフリーペーパーがあるんですけど、その企画で2万円を好きに使っていいっていうのを。

荒井　ドンキで2万円ですか⁉

あらい・ななお■1988年10月28日、埼玉県出身。現在、共立女子大学に通いながらモデルやレースクイーンとしても活躍中。特技は書道と肩もみ。趣味は買い物、ドライブ、音楽鑑賞。戦極ガールらしく（?）　ペットは猫のMOON。B・80cm、W・58cm、H・83cm。170cm。ブログアドレス→http://nanao-.syncl.jp/

きたおか・さとる■1980年2月4日、奈良県出身。高校時代は柔道、卒業後は柔術を学び00年4月にパンクラスに入門。同年10月の河崎義範戦でプロデビュー。08年5月から『戦極』に参戦し一躍ブレイク。今年1月4日の『戦極の乱2009』で五味隆典に一本勝ちし、戦極初代ライト級王者に輝く。168cm、76kg。

北岡　そうッス。普通に日用品を買って、余ったお金でスタジオジブリのDVDの揃ってなかったヤツと、リラックマのぬいぐるみを買いました。リラックマの抱き枕は前から持ってるんですけど、コリラックマの抱き枕が売ってたんで、それを買ったんですよ。

荒井　なんか意外ですねぇ（笑）。

北岡　で、ジブリのDVDは、『天空の城ラピュタ』と『となりのトトロ』と『もののけ姫』は持ってたんですけど、『魔女の宅急便』と『風の谷のナウシカ』を持ってなかったんで、それを買いました。

荒井　ジブリがかなり好きなんですね。

北岡　でも、そのDVDをまだ一回も観てないんですよ。

荒井　えっ、そうなんですか⁉

北岡　友だちが家に来たら観ようと思ってるんだけど、友だちが家に来ないから観てない、みたいな（笑）。

荒井　なるほど（笑）。

北岡　あと、マイメロディってあるじゃないですか？

荒井　はい、知ってます！

北岡　僕、マイメロがけっこう好きなんで。

荒井　アハハハハハ！

北岡　笑ってますけど、僕の予備知識ないッスねぇ！（笑）。

荒井　すみませ〜ん（かわいらしく）。

北岡　僕、マイメロのアニメの声優をやったことがあるんですよ。

荒井　えっ、そうなんですか⁉

北岡　いま、本気の驚きでしたね（笑）。だからその関係でグッズをもらったりとか、それといまはバッグの中に入れてて手元にないんですけど、財布もマイメロなんですよ。どうかと思われるんでしょうけど（笑）。

荒井　いえいえ（笑）。では次に……。

北岡　（さえぎって）っていうか、今日はずっとこのペースなんですか？　テキパキしてていいと思うんですけど、話をふくらませたりっていうのもとくになく？（笑）。

荒井　すみません。あまりお時間もないみたいなので。

北岡　ところで、いまおいくつなんですか？

荒井　私はハタチです。

北岡　若いのにしっかりしてますね。

荒井　いや、そんなことないです。

北岡　なんかスキがない感じがするな。プロフェッショナル臭がするというか（笑）。まっ、テンポよくドンドンいきましょう！

荒井　はい！　テンポよく最後の質問をしたいと……。

北岡　えっ、もう最後なんだ（笑）。

まあ、いいですけど、なんでしょう？

荒井　最後に『戦極G！』（毎週日曜24時35分〜25時、テレビ東京系列にて放送中）の感想をお願いします！

北岡　『戦極G！』の感想？　あれは僕の番組だと思ってるんですけど、ちょっと今年になって僕の登場が減ってきたなっていう感じですね（笑）。

荒井　もっと俺を出せ、と（笑）。

北岡　話は変わりますけど、戦極ガールの中で、「こいつは嫌い」っていうのはあります？　なんか5人の中で派閥があるっていう話を川村（亮）が言ってたんですよ。ブルーとグリーンはペアだって。

荒井　ん？　ブルーとグリーンがペア？（不思議そうに）。派閥とかそういうのは……ないですよ。

北岡　いま、ウソをつきましたね？

荒井　ウソじゃないですよ！（笑）。

北岡　まあいいや。今日はこんな感じで終わりましょう。

荒井　え〜〜、ちょっと待ってください よ！

北岡　ありがとうございました！

【09年5月22日／都内・某ホテルにて収録】

廣田瑞人と"戦極グリーン"西垣梓の

戦極、いざ!!

北岡と"戦極ブルー"に続いて登場するのは、挑戦者の廣田と戦極ガールの中で一番の個性派と評判の"戦極グリーン"西垣梓ちゃんだ。海外生活が長く3カ国語をしゃべれるという梓ちゃんのリアル天然トークに、九州男児の廣田もタジタジになる場面も。タイトルマッチを前に強敵出現!?

「戦極ガールの中だったら自分のタイプは西垣さんです！」

「そんなこと言っても何もあげないですよ（笑）」

西垣　『戦極グリーン』の西垣梓です。今日はよろしくお願いしま～す。

廣田　よろしくお願いします！

西垣　会見が終わったばかりですけど、疲れちゃいましたねぇ。

廣田　自分は大丈夫です。

西垣　廣田選手とは初めてお会いするんですけどぉ、トレーニングしているだけあって顔もけっこうイカついというか、なんか強そうですよね。

廣田　強そうッスか？（苦笑）。

――（小声で）西垣さん、廣田選手は実際に"強い"人です（笑）。

西垣　（無視して）顔からして強そうな感じがして。スーツ着ててもわかりますよね。強そうっていうのが。

廣田　あ、ありがとうございます。

――北岡選手との対戦前にとんでもない強敵が現われましたね（笑）。

廣田　頑張ります（笑）。

西垣　いきなりなんですけど、私は戦極ガールの『戦極グリーン』をやらせてもらってるんですが、私の第一印象を聞かせてもらえますか？

廣田　そりゃもう、とてもキレイな方だと思います。

西垣　ありがとうございます。なんかぁ……アハハハハ（急に笑いだす）。

廣田　だ、大丈夫ッスか？

西垣　は、はい。気を使っていただいて、すみません。あの～、私のほうから質問してもいいですか？

廣田　いいですよ。

西垣　廣田選手は、ベルトを持っていらっしゃるとお聞きしまして、凄い強そうだなっていうイメージがあるんですけど、『戦極』のベルトに対する思い入れとか意気込みとか執着とかあるんですか？

廣田　まあ、さっきの会見を聞いてもらってたらわかると思うんですけど、北岡選手が俺のことをナメてるみたいなんで。

西垣　アハハハハハ（なぜか笑い続けるグリーン）。

廣田　ちょっと一発やってやろうかなって思ってますね。

西垣　さっきの会見の話ですか？

廣田　そうッスね。

西垣　へぇ～、私、最後のフォトセッションのところしか見てなかったんですよ（笑）。

廣田　あ、会見のときは見てなかったんですね（笑）。

西垣　だから、いま知ったんですけど、ナメられちゃったんですかぁ。それはかわいそうですね。

廣田　ちょっとかわいそうな感じで（笑）。

西垣　じゃあ、会見ではけっこう感情を出されてたんですか？

廣田 いや、俺は抑えてたつもりなんですけどね。

西垣 へぇ〜、会見ってそういうのがあるんですね〜。凄〜い。じゃあ、タイプの女性とかってあります？

廣田 いきなり飛びますね（笑）。自分は西垣さんです（キッパリ）。

西垣 アハハハハハ。そんなこと言っても、何もあげないですよ（笑）。

廣田 そうすか（笑）。いや、ホント、自分はキレイな方が好きなんで。

西垣 そうなんですね〜。ふ〜ん。

廣田 まあ、戦極ガールの5人の中だったら、断然グリーンじゃないかと思うんですけどね。

西垣 あ〜、廣田選手は凄くいい人ですね〜。うふふふ。

廣田 凄くいい人だと思います（笑）。

西垣 では、得意技はなんですか？

廣田 おもに右のパンチですね。

西垣 右のパンチ一発で？

廣田 そうッスね。一発で倒せる自信はありますけどね。

西垣 へぇ〜、そうなんだあ。廣田選手って凄い強そうなイメージがあるんですけど、逆に弱点をこっそり教えてもらえないですか？ うふっ。

廣田 それは格闘家としてですか？

西垣 まあ闘いだけじゃなくても、嫌いな食べ物とかでもいいですよ。

廣田 嫌いな食べ物？ だったら、ワサビとカラシが食えないッスね。

西垣 へぇ〜、意外ですね〜。ふふふっ。じゃあ、辛いものがダメとか？

廣田 唐辛子はいけるんですけど、鼻にくるヤツは駄目ッスね。

西垣 そうなんですねぇ。意外とかわいらしい一面があるみたいですね。

廣田 あると思います（笑）。

西垣 あと私、プライベートのことが気になるんですけど、ファッションのこだわりとかってありますか？

廣田 こだわりはとくにないッスね。夏は基本タンクトップぐらいで。

西垣 あ、似合いそうですね〜。じゃあ、休日とかはラフな格好でお出かけされたりとか？

廣田 そうッスね。楽な格好で外に出てますけどね。

西垣 へぇ〜。でも、こんな人が道を歩いてたら凄いですよね〜。

廣田 まあ、こんな人ッスけど（笑）。

西垣 なんかカラダもかっこいいし。

廣田 そうッスかね？ 外を歩いても周りはわかんないと思うんですけどね。あんま、声もかけられないし。まだまだマイナーなんで（苦笑）。

西垣 そうなんだ。じゃあ、自分から声をかけたりもするんですか？

廣田 俺からッスか⁉ いや、最近はあんまり（苦笑）。

西垣 逆に、ナンパされたりとか？

廣田 ナンパはされないし……長崎にいたときはちょくちょくしてましたけど。

西垣 でも、いまはその必要はないですよね〜。

廣田 いや、必要ありますよ。全然あります（笑）。

西垣 またまた〜。長崎にいたときはかなりナンパされてたんですか？

廣田 週末はそれぐらいしかやることがなかったんで（笑）。遊びっていったら、ナンパとか飲みに行くぐらいしかないんで。

西垣 あっ、そうなんですね〜。それが長崎の遊びなんだ。

廣田 アハハハハハ！ まあ……そうッスね。

西垣 でもいいですよね〜。なんかそういうの、交流っていうか、コミュニケーションじゃないですか。廣田選手は闘うこともできるし、人間関係も得意なんですね。

廣田 ……まあ、そういうことにしておきます（苦笑）。

西垣 そういうことになりました（笑）。長崎のオススメポイントは何かあります？

廣田 場所的にどこっていうのは、そんなにないですけど、自分の友だちがオススメポイントです。

西垣 みんな人がいいんですね？

廣田 そうッスね。機会があれば、ゼヒ（笑）。

西垣 ちょっと紹介してください（笑）。では、話題を変えますけど、強くなるためのポイントとか秘訣があったら教えてもらいたいなぁって。

廣田 やっぱ、格闘技で食っていこうと思って、長崎から出てきたんで。

西垣 あっ、そうなんですか⁉

廣田 そうッス。なので、途中で辞められないっていうのがあって。そういうところッスかね。

西垣 そうだったんですね〜。それは凄〜い。あと、10年後の自分はどうなってるっていうイメージですか？

廣田 いや〜、想像つかないですね。いまのうちに稼いで、のんびりした生活をしてたいですけどね。

西垣 へぇ〜。10年後にどこに住んでたいとかってあるんですか？

廣田 やっぱり長崎に帰りたいッスけどね。ちなみに西垣さんは10年後は何をされてる予定ですか？

西垣 私は海外で女優を目指してるんで。どの国でもいいんですけど。いまだったらインドとかおもしろそうだなって思って。うふふ。

廣田 へぇ〜、海外で女優っすか。

西垣 はい。私、高校と大学は海外だったんで。10年後は違う国に住んでたらいいなぁと思います。

廣田 凄いッスね。なんか海外とかのほうが通用する気がします。

西垣 ありがとうございま〜〜す。

——西垣さん、最後に北岡選手とのタイトルマッチに向けての意気込みを聞いてもらえますか？

西垣 （急に小声になり）えっ、それもさっき決まったんですか？

廣田 さっき発表されたんですよ（笑）。見てないんですよね？

西垣 はい。私、そのとき衣装に着替えてたんで。ふふふっ。

廣田 ベルトを獲れるように頑張るので、応援してください。

西垣 はい、応援します。これからもよろしくお願いします！

廣田 こちらこそ（笑）。応援してますんで、お互い頑張りましょう！

【09年5月22日／都内・某ホテルにて収録】

にしがき・あずさ■1984年4月3日、東京都出身。08年ミスユニバース・ファイナリストとしてモデルからテレビ東京の人気番組『やりすぎコージー』のやりすぎガールなど、幅広く活躍中。B・84cm、W・56cm、H・83cm。168cm。戦極ガールブログはコチラからチェック→ http://www.sengoku-official.com/

ひろた・みずと■1981年5月5日、長崎県出身。05年2月の山守正明戦でプロデビュー。同年9月に修斗ウェルター級新人王に輝く。08年4月には鹿又智成に勝利し、第2代ケージフォース・ライト級王者に。5.10修斗JCB大会で石田光洋を下し、北岡への挑戦権をゲット。ガッツマン修斗道場所属。171cm、70kg。

スーパー川尻マンよ、降臨せよ!!

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2009年7月6日(月)頃発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望賞品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦今年上半期ブレイクしそうな人は?⑧川尻選手にお願いしたいことは?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部
「最高だね」係まで

※応募締切は2009年6月25日(木)当日消印有効

PRESENT*01

1名様

rvddw ZST20 TEE

[リバーサル／¥5,040(税込)]

ZSTの20回大会を記念したTシャツ。『DREAM.9』でエイブル・カラムと名勝負を繰り広げた所英男も入場時に着ていたモデルです。5月の誕生石エメラルドがロゴと絡み合うナイスデザイン。こちらのMサイズをプレゼント!!

リバーサル■http://www.rvddw.com/

PRESENT*02

1名様

FRONT

BACK

北岡悟 アキレス犬×アフロ犬 コラボTシャツ

[パンクラス／¥4,000(税込)]

戦極ライト級王者"キモ強"北岡悟のアキレス犬Tシャツが、アフロ犬とコラボした奇跡的にファンシーな1枚。こちらのLサイズをプレゼント!!

パンクラス通販サイト■http://www.pancrase-store.com

PRESENT*03

1名様

川尻達也 サイン色紙

[T-BLOOD／非売品]

5.26『DREAM.9』で行なわれた唯一のライト級ワンマッチでJ.Z.カルバンに勝利した川尻達也。一夜明けインタビューの際にサイン色紙をゲットしました。記念すべきサイン色紙を1名様にプレゼント!!

川尻達也オフィシャルサイト■http://crusherproject.com/

PRESENT*04

1名様

所英男 サイン色紙

[ZST／非売品]

5.26『DREAM.9』で行なわれたDREAMフェザー級トーナメント2回戦でエイブル・カラムと死闘を繰り広げて見事な一本勝ちをした所英男。こちらも翌日の取材時にサインをいただきました!!

所英男オフィシャルブログ■http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/

PRESENT*05

1名様

チェ・ホンマン サイン色紙

[フリー／非売品]

スーパーハルクトーナメントでホセ・カンセコに激勝した韓流大巨人チェ・ホンマンのサイン色紙をプレゼント!! 意外にもかわいらしい面を告白したインタビューは必読です!!

チェ・ホンマンオフィシャルサイト■http://www.hongman-choi.com/

PRESENT*06

1名様

高谷裕之 サイン色紙

[高谷軍団／非売品]

5.26『DREAM.9』で行なわれたDREAMフェザー級トーナメント2回戦では前田吉朗と激しい殴り合いを繰り広げて大逆転勝ちを収めた"伝説の喧嘩師"高谷裕之のサイン色紙をゲットしました!!

高谷裕之オフィシャルサイト■http://takayahiroyuki.com/

PRESENT*07

1名様

ゲガール・ムサシ サイン色紙

[レッドデビル／非売品]

いい人すぎるんじゃないかと思うほど、落ち着いた物腰で笑わないクールなナイスガイ、ゲガール・ムサシのサイン色紙をゲットしました。スーパーハルクでも強さをいかんなく発揮してくれるでしょう。

DREAMオフィシャルサイト■http://www.dreamofficial.com/

PRESENT*08

3名様

単行本

『バカはサイレンで泣く'09』

[扶桑社／¥1,470(税込)]

本誌でもおなじみのライター・椎名基樹、せきしろ、漫画家・天久聖一が厳選する読者投稿ネタバトル『バカはサイレンで泣く』が6年ぶりに単行本化!! 320ページという超ド級のボリュームで絶賛発売中!!

WEB SPA! バカサイ おブログさん■http://spalog.net/bakasai/

PRESENT*09

1名様

DVD

『W★ING伝説 VOL.2』血みどろのレクイエム[葬送曲]

[クエスト／¥10,500(税込)]

伝説のデスマッチ団体W☆INGの名勝負&名シーンをたっぷりと収録! Vol.1も大好評だったため、今回は2枚組で480分という前回を上回る凄まじいボリューム! もう一度、伝説を目撃せよ!

PRESENT*10

1名様

DVD

『JWP激闘史2008』

[クエスト／¥5,880(税込)]

JWPの2008年ベストマッチが多数収録されたベスト盤!! JWPで行われたタイトルマッチなどを82試合収録。各選手の2008年ベストマッチインタビューや年末のJWP授賞式まで収録!!

PRESENT*11

1名様

DVD

プロレス・スーパースター列伝vol.1

『キラー・コワルスキー&ペッパー・ゴメッツ』

[クエスト／¥5,040(税込)]

プロレスの歴史を作ったスーパースターの現役時代と現在の素顔を追ったドキュメント作品。耳そぎ伝説の菜食モンスター・キラー・コワルスキーと脅威な腹筋力を持つ"白豹"ペッパー・ゴメッツが登場。

QUEST■http://www.queststation.com/

kamipro SP 応募券 お願いしやす

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

この夏の注目大会を
クローズアップ!
kamipro No.136は
6月23日(火)発売予定!
※地域によって発売日は多少遅れるぜ。

カ、カテエ……!
永島のオヤジも登場!!

次号特集テーマは……

“お金”です!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2009 JUNE
2009年6月20日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎(アルマゲドン見届けのため非番)

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子

編集次長(ハッスル卒業)
松林 貴

デザインGM
出田さん(TwoThree)

デザインプレイングマネージャー
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのるちゃん(以上、TwoThree)

デザイン練習生
鑓田やっちゃん(TwoThree)

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史

お勘定
工藤ちゃん

ロングスパッツ
入江カンセコ(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

業務部
樽本“輝き”義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川“サマー”奈津子
白倉“バービー”明子

スーパーハルクマダム
廣橋久美子

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

印刷
大日本印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン スポーツ企画編集部
☎03-3265-7166

動物虐待は許せニャイで～

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]☎0570-060-555(受付時間/土日祝祭日を除く12:00～17:00) メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL:http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。